

財団法人暹羅協會々報

第一號

昭和十年十一月

昭和十年十一月

財團
暹羅協會
報 第一號

財團
暹羅協會

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4

暹羅新聞の論調報告
暹羅協會々報第壹號 目次

暹羅新聞の論調報告

- 一、昭和十年一月一日及三日發行暹字紙「ネイション」所載華僑と暹羅國の生命……………一
- 二、昭和十年一月十五日發行暹字紙「ネイション」社説國際政治……………六
- 三、昭和十年二月十八日發行暹字紙「ネイション」所載英國と日本……………八
- 四、昭和十年三月十五日發行「ラックムアング」(支那系暹字紙)亞細亞人の成功の第一歩……………三
- 五、昭和十年四月十七日發行暹字紙「ネイション」論説日本と暹羅……………三
- 六、昭和十年四月十八日發行英字紙盤谷「タイムス」日本と暹羅……………五
- 七、昭和十年五月二十四日發行英字紙盤谷「タイムス」社説要旨……………七
- 八、昭和十年五月三十一日發行暹字紙「ネイション」社説要旨……………一〇
- 九、昭和十年七月七日發行暹字紙「シークルン」現代日本の教育……………二
- 十、昭和十年五月十三日發行暹字紙「ネイション」プラチャディボック帝と政府の衝突原因……………三
- 十一、暹字紙「プラチャーターツイバタイ」海外留學生派遣に就て……………六

暹羅の親日的傾向に關する緬甸新聞の論調暹羅の新友邦……………二七
日暹關係に關する紙育「トリビューン」紙の社説　シヤムは危險なる火遊を爲しつゝあ
るか……………二六

雜報欄

- 渡日暹羅舞踊團歸暹歡迎夜會開催の件……………三〇
- 矢田部公使開會の挨拶
- 文藝局長の挨拶要旨
- 舞踊團代表者の挨拶要旨……………三〇
- 訪日暹羅國無任所參議の本邦視察感想……………三四
- クン、スコングヰット參議の本邦視察感想要領……………三六
- 暹羅國攝政會議首座薨去に關する件……………三六
- 暹羅國に於ける反動運動……………三九
- 一、暹國々防相ルアビブン狙撃事件……………三九
- 二、陸軍部内不穩分子逮捕事件……………三九

- 第三回臨時憲法發布紀念日行事に關する件……………四四
- (イ)昭和十年六月二十五日ビヤタイ放送局より放送せる國務院無任所參議國務院書記官長
ルアンダムロング紀念演說要旨……………四六
- (ロ)昭和十年六月二十七日夜ビヤタイ放送局より放送せる内務參議ルアンブラデイト紀
念演說要旨……………四七
- 佛曆二千四百七十八年度暹羅國通常議會開院式に於ける攝政教書送付の件……………四九
- B、E、二四七八年通常議會開院式に於ける攝政の教書……………五〇
- 暹羅新皇帝陛下御踐祚に付暹羅協會よりの奉祝電報轉達往復……………五〇
- 暹羅國攝政會議長アヌフツタナ殿下薨去に付當協會より弔電發送……………五〇
- 暹羅國攝政會議首座任命並攝政會議補充……………五一
- 暹羅國國務院改造……………五一
- 暹羅國外務省米國人顧問任命……………五〇
- 駐暹英國公使の賜暇歸國……………六一
- 在暹英國公使館附海軍武官任命……………六一

○財務顧問辭任歸國の件	三二
○暹羅國內務參議外遊	三三
○本邦駐在暹羅國陸軍武官任命	三四
○暹羅國皇帝陛下御歸國豫定	三五
○暹羅國前經濟參議ブラサラ着京	三六
○名古屋日暹協會の設立	三七
○大阪日暹文化協會設立の企圖	三八
○暹羅國少年團より日本少年團へ寄贈の象授受式	三九
○暹羅の象について	四〇
○日暹兩國少年團の交友關係	四一
○ブラモンダ商務官の送別會	四二
○造船聯合協會等の暹羅國海軍士官歡迎晚餐會	四三
○暹字紙「ネイション」匿名記者バルバラの得體	四四
○暹羅國宮内省官制改正	四五

○松島巡閱大使の歸朝	四六
○最近渡日暹羅人の増加	四七
○秩父宮家に於ける本協會新舊役員の御招き	四八
○近衛會長の寄贈	四九
○横濱駐在暹國名譽領事新任	五〇
○暹國農務省招聘技師三原博士の送別	五一
○シヤム鐵道貨車全部日本に落札	五二
○會員通信	五三
○暹羅協會財團法人設立許可	五四
○協會理事會其他	五五
○本協會新入會員	五六
○書籍其他の寄贈	五七
○暹羅關係人事	五八

附 録

一、日暹提携論……………矢田長之助……………一
 二、暹羅の貿易……………10
 三、暹羅無任所參議の日本紀行……………14

會 報 第 壹 號

暹羅新聞の論調報告

一、昭和十年一月一日及三日暹字紙ネイション所載
 華僑と暹羅國の生命

パールバラ

予の念とするところは東洋文明が西洋文明と相匹敵し得る迄に發展向上せんことである。予が嘗て本紙上に於て東洋の各國民は獨り自國の爲めのみならず廣く東洋全般の爲めに相互同情和衷協力して其の獨立を確保し更に進んで大に發展飛躍を圖る義務あることを論じたのは之れが爲めである。予は利己的國家主義を排斥する。乍併予は決して國家の存立そのものを排斥するものではない、所謂世界聯合(ワールドフェデレーション)を提唱する者でも無い、世界聯合の如きは現在に於て到底實現し得べきものとは考へられぬ。予の強調せんところは人類が弱肉強食政策に趨ることなくして相互に和合協力せんことである。予は茲に東洋人相互の深き理解の必要を強調する爲めに、目下對暹不滿の念深しと稱せられつゝある支那本國人と在暹華僑の對暹再認識を求めて暹支問題に就て一言したのである。

支那人側に於ける暹羅に對する苦情の第一は滿洲事變に際して暹羅政府は對日問責に加はらずして中立を装ひたること、又在暹華僑取締法規及び華僑兒童の支那語學習取締法規を制定して偏頗な處置を取つたと云ふことにある支那本國に於て發行せらるゝ漢字及歐字新聞は皆一齊に此の問題を取上げて暹羅政府の政策を攻撃し、其の論調はさながら暹羅

を以て世界に於て最も支那人を虐待する國であると爲すものゝ如くであつた。斯る誤解こそ國民間の憎悪（ヘンターナショナル・ヘイトレツド）を増長せしむる原因となるものである。暹羅が中立を守つて日支何れにも左擔せざりしは、支那側が絶へず非難するが如くに、敢て他國の犠牲に於て自國の利益を求めたものではない、單に消極的な護身に過ぎぬのである。暹羅は人口僅か千三百万弱の小國に過ぎぬ、其の海軍力は海上よりする他國の侵略を禦ぐに足らぬ、民力貧弱にして政府の財政亦豊かならず、されば其國策樹立に當りては専ら社稷の安泰を圖るを以て念とすべきである、されば暹羅は從來佛敎國の名に背かぬ良心に遵ふ公明正大なる政策を遂行し來り未だ嘗て他國を侵略したこともなく支那に對しても今日列強が試みるやうな干渉を行つたことはない、暹羅は只管將來に於ける國家の康寧を慮りて國內問題にのみ落頭してゐるのである。現有領土が曾て經驗したるが如き手段によりて他國に奪奪せられざる様確保するを旨とするのみである、暹羅の中立政策は暹羅國の存立を完ふせんとする爲めの必然的保全策に外ならぬ、暹羅としては支那問題に何等積極的な干渉を取てせんとする意圖のないことは支那人能く之を了解せんことを望んで止まぬ、支那は國際聯盟創立以來餘りに之に依頼し過ぎて自力更生の途を忘れてゐた、其の結果滿洲を失つたのである、又日本の勢力を北支に瀰滿せしめるに至つたのである、暹羅は前車の覆轍に鑑みねばならぬ、暹羅の自力更生策は即ち其の嚴格なる中立維持である、或は之を曲解して日本に與するものと爲すものがある、乍併、暹羅人は決して其の國家を日本の勢力下に寄託せんとする程、無氣力、愚鈍な國民ではない、日本は今日全世界に對して、東洋の大虎を以て任ずるの態度を示しては居るが、實は未だ一個の成上りの新大國たるに過ぎぬと云はねばならぬ、現在世界の如何なる政治家と雖も、噂さるゝが如き大戦が東洋に勃發せし時に米國、露國又は英國を向ふに廻した日本が必ず勝利を博すべしと斷言し得るものはない、而して一方暹羅は國內平和にして支那に於けるが如く、洪水の慘害も無く、同胞相食むの悲劇も無い、國民は現在の地位に満足し

て居る、一方支那人が誤解せるが如くに、日本と協力して他國の利益を侵すの必要が何處にあるか、支那人が支那本國の國運繁榮を冀ふと均しく、暹羅人も亦其の國の福祉の爲めに圖つて忠實であるべきことを認めねばならぬ、此見地に立ちて暹羅が其の國を守るが爲めに中立の態度を固守して如何なる國とも事を構へざらんとするのは當然である、之をもし攻撃するならば、それは支那人の度量の缺如と言はねばならぬ。

次に我國内政策上外國人關係の問題を討檢する、先づ外國人入國問題上及華僑兒童教育問題がある、支那は此の二問題に付て絶へず暹羅を批難して對暹輿論を刺戟してゐる、かゝる刺戟は兩國國民の同情善解を阻み兩國の關係を日支兩國の夫れの如くならしむるに至るの處あるものである、一部支那人の無理解なる輿論刺戟が暹支兩國國民の憎惡感を増長せしむるは眞に遺憾に堪へず、支那人識者の猛省を促さるゝを得ず。

支那人たるものは、暹羅國が支那と同様に、其の國運隆興の爲に努力するの權利を有するものなることを了解せねばならぬ、暹羅國の國土を開放して支那其の他諸外國勢力の侵入に委ぬること無主の地の如くならしめ、何等自國民保護の途を講ずるなからんことを我等に要求するならば、支那人は餘りにも自己の利益を追ふに急にして他國の利益を顧みざるものなりとの批難を免るゝことは出来ぬ、支那人が其の國家の滅亡を欲せざると均しく暹羅人も亦他國の奴隸となるを望まない、歐米諸國に於て支那人の入國如何に困難なるかを反省せよ、暹羅に於ける彼等の入國は遙かに寛大なるものであることを立るに悟り得るであらう、暹羅政府の外國人入國取締策に關しては支那として決してとやかく云ふべき筋合ではない、暹羅は支那人の入國を取締らざるべからざる種々の必要がある、その最も重大なるものは二つある、即ち共產主義傳播の防止と國民死活の經濟問題とである、現下支那各地の共產軍討伐には政府軍も散々に惱まされ兩軍の死傷は數十萬の多きに及んで居る、共產主義は暹羅國民精神と絶對に相容れぬものである、國家の公序に反する思想

の侵入に對して特に嚴重なる對策を講ずるは當然である。現在の支那は往年の支那と異り孫文時代以來殆んど共產主義國と稱するも差支なき有様であるが故に、暹羅の門戸を自由に支那人に對して開放することは思ひもよらぬことである。去りとして他の國が支那人に對して爲せるが如く全然之を閉鎖するものでもない、この點暹羅の意のある處を酌量して貰はねばならぬ。

四

次に暹羅の華僑教育對策を以て支那本國民と在暹華僑とは暹羅政府の對支非友好政策の遂行となして之を非難して居るが、これも亦暹羅の自國保全策に過ぎぬのである、凡そ一國の固有する文化風俗習慣は其の國家形成の必須要件であり又國家存立の要素である、タイ民族を大本として形成せられたる暹羅國に取りてはタイ民族の繁榮と其の固有の文化の維持は絶対必要の條件である、他の民族の來りて暹羅國に生を享けんとするものは宜しくタイ民族に同化すべきである所謂同化とは即ち一民族が他民族の文化風俗習慣の裡に融合化することである史上の例を顧みれば十三世紀の頃蒙古族が支那を支配せしも蒙古文化は支那文化に比して低級なりしのみならず數に於ても蒙古族は遙かに支那民族に及ばざりしが故に久しからずして彼等は支那の文化風俗習慣に同化して其の固有の文化を失ひ殆んど全部の蒙古人は自然と支那人となつて終つた更に十七世紀以來長く支那は滿洲民族の支配するところとなつたが、此の場合にも亦支那民族をして滿洲民族に同化せしむることなくして却つて滿洲民族の殆んど全部が支那民族の爲に同化せしめらるゝところとなつた、此の事實は支那固有の文化風俗習慣の如何に根強きものであるかを物語るものである、固有文化の維持確守は民族國家の常に心すべきことである、アメリカインディアンの滅亡しつゝあるは外來の白人文化に負けたからに外ならぬ。

暹羅は小國にして人口僅に支那の四十分の一に過ぎぬ、假令現在暹羅が或る方面に於て支那と同様若は支那以上に進んで居る點があるとしても、恐るべき支那の人口に對しては到底太刀打ち出来るものでない、若し此大人口を擁する支那の根強い文化風俗習慣の力が暹羅國全部に普く瀰漫することを現状の儘に放任するならば暹羅民族の固有性に重大なる影響を蒙り終には事實上支那國の一部となつて了ふに違ひないのである。

經濟問題に付ても亦同様である、今日の儘に之を放任して暹羅の商業界を獨占する華僑の數が暹羅人口の數倍にも達するに至つたならば暹羅民族は經濟上に於ても亦全く滅亡するの運命に立ち至るであらうことは必然である。

華僑教育問題に關して、政府が支那人に暹羅語學習を強制するは決して支那語の學習を禁止するのでは無い、又單に之を華僑學校にのみ強制してゐるのでも無い、外國人學校一般に對して全く平等である、教育は國の大本である、支那語に限らず凡て外國語にのみよる教育を施して暹羅語の授業なき學校が國內に存在するが如きことは政府として看過視し得べきことで無い、又華僑に對して一定の居住地を指定せんとすの計畫も在暹華僑をして日夜絶へず暹羅人と接觸し暹羅語を學習する機會を多くし且相互の理解を益々深くせんとするの主旨に外ならず之を以て暹羅國が強制的に支那人をして暹羅人に歸化せしめんとすとは暹羅を了解せざる者の言である、之を要するに支那固有の文化及風俗習慣が今日以上に暹羅のそれに影響を及ぼして支那化の進程せんことは我等の到底忍び得ざる處である、在暹華僑の人口が現在に於ても已にタイ民族人口の五分の一の多き數に達してゐるといふ警戒すべき事實を忘却する勿れ、かゝる事態が暹羅以外の國に於て有つたとしたならばその國が暹羅現政府の政策よりも何層倍か嚴格なる政策を取つたであらうことは云ふまでも無い、九百萬（支那人を計上せず）に達せざる暹羅人は到底その勢力を支那に於て振ふことは出来ないのであるして四億の支那人は充分その勢力を暹羅に於て振ふことを得るであらう、されば暹羅の支那人入國對策は單に一時的の方便ではなく國家永久の大策であると云はねばならぬ。

五

我等は門戸を開いて支那人の入國を迎へ暹羅の生命を脅かさざる範圍に於て彼等が各種の職業に従事することを許容

し得るけれども、共產主義の侵入と支那文化の壓倒的侵入によりて暹羅の固有文化が滅されたり又現在以上に華僑の人口が増加して其の職業的勢力が益々暹羅に於て旺盛となるに至らんことを默視し得ないものである、現在已に全國總人口の五分の一を占めて居る華僑は、將來新入國者皆無としても繁殖力旺盛なる彼等の子孫は其の數次第に増加するであらうこれは吾等の惱みである。

支那人が自家の利益を顧みると共に公平な立場に立ちて暹羅の利益を尊重し同情を以て相互依存共立の策に醒めるならばこれこそ眞に二國永遠の傳統的親交維持の爲め慶賀にたへない、予は暹羅の純なる自國保全政策を良く了解せんことを切に支那人一般に期待する。

十二月二十九日

二、昭和十年一月十五日暹字紙、ネイション社説 國際政治

パールバラ

現在の世界政局が一刻も安堵し得ざるものであることは苟くも新聞紙上の外報に注意を拂ふものゝ熟知する所であるが更に一度外電所報の政局の樂屋裏を覗いたならば人類の將來に付て戰慄すべき局面を發見するであらう、夫れは即ち戰爭の危機を孕む局面の展開に外ならぬ。

利己的國家主義は實に戰禍の原因となるべき國民的憎惡の種子である、有史以來世界の政治をして醜陋なるゲームに外ならざらしめたるものは主として利己的國家主義の遂行に由るのである。

此主義は現代に在りて尙ほ多數政治家の執着する所となつて居る、吾人は其の一例を將來極東又は太平洋に於ける戰爭の導火線たる可能性ある滿洲事變に見る、日本は滿洲を占領し滿洲國成立の宣言は極東の平和維持の必要に出づと説明した、現在の滿洲は其の張作霖治下に在りし日と異りて秩序の整然たるものがあるが故右の説明は一見尤もと思はれる乍併現在滿洲は平和にして進歩發達の途上にあると云はるゝも右は滿洲事件第一期の現状にして當然第二期が引續き展開される可きである、而して第二期に至りては或は日本は極東の平和維持云々の宣言を自ら撤回するに至るかも知れないのだ全世界の政治家歴史家は等しく遠からずして日露が干戈を交ふるに至るだらうとの危惧の念に驅られてゐる、日本は露西亞に取りて極東の一大敵手であり、同時に露西亞は日本列島の平和安全に對する一大脅威である、西曆一九三五年の春に於て日本が露西亞と敢て事を構へ武力を行使するにあらざれば露西亞の勢力増大して將來之に勝つことは困難とならう、日本が戰勝を欲するならば是非共右期間に戰はねばならぬ、滿洲事件第一期に於て日露疎隔の因となつた露西亞所有の東支鐵道の賣却問題も一時相當兩國國民を刺戟した、其後露西亞側は滿洲國國境に兵備を固め浦潮斯德軍港を擴大して軍備を整へ之に對抗する日本側の軍備集中等の現象は何れも近き將來に大戰ありとする豫言を裏書するものである。

日米關係を顧みるに、兩國間に蟠る相互不滿の感情は一九二一年の華盛頓會議以來今に至るも尙ほ解消せず、兩國の經濟的軍事的競争は益々激烈を加へつゝある、予が此文を草しつゝあるとき倫敦に於ける海軍軍備縮小に關する豫備會商に於ては既に何等の成果なきことの見通しが明瞭となつて來た、問題の海軍條約は一九三六年を以て期間満了すべく、右に關する倫敦豫備會商に於て日本は英米に對する五五五の均等比率を要求したのであるが米國は斷乎として之を拒絶した、今回の豫備會商に於て何等諒解の成立を見るを得ざるに於ては一九三六年の本會議に對しても亦何等の期待を待つことは出來ぬ、而して華府條約の不成功は世界政局の困難を示すものである、建艦競争は世界平和に致命的傷害を與へ必然的に前回の歐洲大戰以上の殘虐なる戰禍を惹起するに至るであらう、海軍軍備制限條約の不成立は日米間の

離間反目を益々深くするであらうことは吾等の均しく憂慮するところである。

三、昭和十年二月十八日 暹字紙ネイシヨン所載

バールバラ

英國と日本

現時國際政局の動向は相變らず神經過敏にして警戒的である。世界の一隅に過ぎない歐洲には小地域内に大小國家が群雄割據して政機の動きは最も鋭敏である。獨佛關係はザール歸屬決定後如何なる展開をなすのであるか、墮太利問題もオットー大帝復辟問題を繞つて如何なる暗中飛躍が行はれるか、凡て是等は容易に連斷を許さぬものがある。其の好むと好まざるとに拘らず是等歐洲大陸問題の紛糾に捲き込まれざるを得ない英國は其の態度を不明確にして常に各國に對して中立的であるかのやうに振舞つてゐる。所謂「好意ある仲介人」なる態度は英國の傳統的な遺言である。自國が深き利害關係を有する事件に付ても始めから自ら顔出することを爲さず中立者たるが如き態度を持って巧に他國を操縦しつゝ登場の機會を覗ひ終局の利益を獲得維持せんとするのが英國の奥の手である。此の政策は歐洲問題に於けるに限らず東洋に於ても亦英國の常套政策である。予は此の政策を敢て日和見政策 (Waiting Game) と呼ぶ。茲に予は特に東洋に於ける英國の巧妙なる日和見政策を歴史的に回顧して見やう。最近に於ける英國の日和見政策の衆知の一例は滿洲事件対策である。英國は合衆國に氣兼ねして敢て日本に與せずさりとて合衆國と共同して對日行動を起す勇氣もなかつた。その理由は日本の極東に於ける勢力並にそれが英國の東洋に於ける利益に及ばず影響の重大さを認めてゐたからである。合衆國と協力して日本に對抗するが爲に英國の拂ふべき犠牲は餘りに大であつて單に北支に於て英國が失ふであ

らう僅かな利益とは比較にならない。先づ第一に日本は赤露に對する亞細亞の有効なる障壁である。亞細亞に於ける英國各殖民地に對する此の障壁の價値は相當大なるものがある。若し此の障壁が失はれたならば印度其の他の東洋殖民地の統治はかなり脅威を蒙るであらう。又通商上から見ても日本は印度を仲介として英國の良顧客となつてゐる。即ち印度の對日輸出は輸入に超過してこの超過高はそのまゝ英印の關係に於て印度の輸入超過となつてゐるから英國としては日本との和合こそ其の利益あつて、合衆國と相携へて反日行動に出づることの利益は見當らなかつたのである。これが即ち英國の打算的日和見政策となり滿洲事件に於て合衆國との共同措置にも又日本の肩をもつことにも尻込した所以である。

又今は既に過去の歴史的事件となつた日英同盟も英國側から觀れば日本をして露西亞に對抗せしめて英國の極東に於ける利益の擁護者として自ら直接手を下さずして有效なる收獲を收めたる巧妙なる政策であつた。日本にとりても滿洲を壟斷して日本國防の安全を脅すに至つた露西亞と一戦を交ゆるに際して三國干渉に類する第三國の干渉或は共同對抗の心配を除いた效其絶大なるものがあつたか、英國に與へた利益はより大なるものがあつたと云へやう。此の模範的な日英同盟が終焉したのは仲裁裁判條約に依り日米間紛争に對して英國の責任免除の規定が設けられたに拘らず尙同盟に對して釋然としなかつた合衆國の感情を懸念したからであつた。併し又英國自身としても嘗て共同の敵であつた露西亞の脅威が消滅した以上同盟の延長は徒に日本側にのみ利益を與へ且又英米間に好ましからざる感情を生ぜしむるとの打算に基いて廢棄を可とするに至つたのであると思はれる。茲にも一途に或る一國と運命を共にするを欲せざる例の日和見主義の一端が窺へる。

さて通商戦に於て今は日英が相互に敵となつた一般に噂される時日英國交は如何なる局面を展開するであらうか。

今や日英兩國は全世界に亘つて烈しい通商戦を行つてゐると稱せられるか、予の手にせる統計に據れば日本は決して英國に打撃を與へるやうなことはない、反つて英國の良顧客であることを知る即ち過去二十五年間に於ける日印貿易は累計三十億圓の對日輸出超過となつてゐて同期に於ける英印貿易は累計二十八億圓の對英輸入超過となつてゐる、之を云ひ換へれば日本は年額約一億二千五百萬圓を印度に支拂ひその内より印度は年額約一億圓を英本國に支拂ふてゐる譯である、即ち日印貿易は英國の寶庫たる印度の英國品購買力を培養してゐるのではないか、此の一例を以てしても國際通商上英國は反つて日本の善き隣人であらねばならぬことを語るであらう。

然し乍ら一方極東に於ける日本の勢力伸長は當然英國の極東に於ける勢力を滅殺して徐々に其の殖民地に對する脅威を感ずるであらうか、それとも英國は巧妙に之を利用して反つて自國の利益を計り得るであらうか然し又將來此の極東の猛虎を他の猛虎と取組ませて其の間に自家の利益を收獲せんとする虎使ひは萬一の場合に備へて武器を整ふるの必要なることを英國は熟知してゐる、英國のこの備へか即ち新嘉坡である、一方に於ては飽く迄利益を貪り乍ら一方に於ては軍備を充實して萬一の場合に備へるのが國際政治の所謂「國交親善」なのだ。

滿洲事件勃發の際米國は日本の軍事行動を阻止するために英國と共同して日本に抗議を提出することを提唱したが英國は之に冷淡であつた爲何等效果のない米國の單獨對日通牒となつた、日本は全然之に顧慮を拂はずして終始獨自の行動を採つた、英國が米國と共同しなかつたのは日本が赤露に對する露西亞の守る事實と英國の北支に於ける利益は米國程に事變によつて影響を蒙らない爲めに敢て日本との友好關係を傷けることを欲しなかつたが爲であつた、若し其の際英米共同對日通牒があつたならば今日の極東の狀勢は生じなかつたであらう、英米二國の合同力こそ日本に脅威を與ふるものであるか、英米各單獨の勢力は今日の日本にとつて何等意に介する處ではない。

日露日米間に疎隔ある今日の極東政局に對する英國の態度は大體に於て親日的であると云へやう、英國は大戦當時の如く米國を求めてはゐない求むるものは日本との妥協である、極東の英國の利益を自力を以て維持するは困難なる故是非共日本との親善によつて南支の利權保護と英植民地に對する共產主義防禦の保障を得ねばならぬ、尙其上更に通商上の英國の良顧客として密接な貿易關係を結ぶべきである、さり乍ら英國としては日本との提携を策するが爲めには同じくアングロサクソン民族の國たる米國及海外領土の輿論をも顧慮する必要があるを以て親日的でありながらも尙對日日和見政策を續けるであらう、將來萬一日露或は日米が戦火を交ふに至つた曉には英國は果して如何なる態度に出るであらうかは興味ある研究對象である。

四、三月十五日 ラックムアング（支那系選字紙） 亞細亞人の成功の第一歩

註 本紙は元來排日的色彩濃厚なりしものなるが最近其態度を緩和し日暹支三國の提携を説くに至り一般の注目を惹き居れり

亞細亞諸民族の教育が幼稚で相互の交通が未だ發達せざりし時代に於ては彼等の眼界は極めて局限せられて毫も宇内の大勢に通せず徒らに内に於て相互に攻伐に殺戮に耽るを事とした、暹羅と緬甸とモーン、安南とカムボヂヤが絶へず戦ふて止むことなかりしが如きは其例である、一方支那及印度の如き大國は内亂に次ぐに内亂を以てし其の間白人に侵略の機會を與へた、それが爲め亞細亞民族の領土は殆ど全部白人に併呑せられて今日獨立國として残るものは日本、支那、暹羅の三國に過ぎぬ、而も此の三國の内眞に獨立國の名を辱めざるものは日本あるのみ、支那と暹羅は獨立の實

其の名に伴はず、殊に支那の如きは獵場の鹿に異らぬ、其の領土も其の貿易市場も外國人の割取に委して施すべきものが無い、一言にして掩へば支那は全く白人の権力の下に支配せられて居る。

然るに亞細亞民族の命脈は未だ全く盡き果てたものでは無い、天は先づ日本を覺醒せしめて救済の法を命じたのである、日本は天の命に従ひ國民を促して一意専心其の國防を充實し完全に獨立の實を擧げて白人の侵略に備へ以て亞細亞を防衛して今日に至り大に全亞細亞民族の覺醒に努力してゐる日本が亞細亞の防壁たるの名を得た所以である、日本が亞細亞の防壁であることが認識せられるに至る迄には幾多波瀾の重疊たるものがあつて時として殆ど絶壁の淵に沈まんとしたこともあつた、之れ亞細亞民族の大多數は今尙ほ其教育頗る低級であるのみならず爲政者たるものが國民の智能開發を志さずして却て民を愚にして其の私腹を肥さんが爲に擧る職權を濫用して好餌を外人の手から貪ることをのみ事とし來つた爲めに外ならぬ。

支那に達識具眼の孫逸仙あり、同志と相謀りて民主政府を完成した我暹羅には人民黨ありて君主專制政治を覆した、乍併暹羅と支那とに於ては革命は既に成功せりと雖も其の前途には尙ほ幾多の障害が横つて居る。

孫逸仙は死の直前に支那が強國となる爲には、又亞細亞を白禍より救ふの途は日本、支那及暹羅の獨立三國が提携して協心戮力するにありと遺言した、蒋介石、王精衛等の指導者は孫逸仙の此の政策實現の爲に努力してゐるのであるが國民の大多數は頑迷無智にして日本の朝鮮、臺灣、膠州、滿洲の占領に憤慨してゐる、彼等は是等の各地域は若し日本が之を保有しないとすれば必ず悉く白人の手中に落ちて其害悪は同民族たる日本の之を領有するの比にあらざることを覺らぬのである、日本が是等地域を領有するに至つたのは實に其の萬止むなきものあるを認めたが爲めである、若し成行に放任して置いたならば支那は必ず斃さるのであつた、支那が斃れたならば日本の獨立も亦危い、日本の獨立が

危くなれば我が大亞細亞は寸土を剩さず白人の勢力下に歸するに至ることは疑ふの餘地がない、日本が滿洲を投て獨立せしめたのも止むを得ざる必要に迫られたからである當時の滿洲は全然露國の勢力範圍に屬し支那は到底之を防衛するの力は無つた、若し滿洲を露西亞の占領に任せたとすれば亞細亞の防壁は倒壊して忽ちにして露西亞の勢力が決河の勢を以て侵入し來るであらう是れは日本としては忍ぶべからざる大脅威である、日本無くして支那と暹羅とは如何にして獨立を維持することが出来ようぞ。

以上の如く日本は必要に迫られて滿洲を獨立せしめたのであるが當時の支那人は思想淺薄にして之を覺らず只管蒋介石を攻撃した、今や支那が迷夢から醒めて眼を世界の大勢に注ぐに至り日支間の意思全く疎通し日支暹三國は互に手を携へて亞細亞の再興に猛進するに至りたるは祝福すべきである、是れ亞細亞人の成功の第一歩と云はずして何ぞ。

五、四月十七日 暹字紙ネーション論說

註 ネーション紙の論說は前刊會報及本會報にも屢次記載したる所であるが同紙は現外務省顧問アリンズウエアアの經營する所なることは公然の秘密として世間周知の事實で暹字紙中最も有力なる新聞の一にて其論調親目的の裡にも常に日本の對暹方針に關し一抹不安の猜忌心を包藏する點は注意を要するものあり

日本と暹羅

現今歐羅巴に於ける國際關係の動機は、誰か何と辯解しようとも、それが世界平和の維持にあるよりも、主として各國各自の地位利益の尊重維持にあることは疑ないところである。

亞細亞に於ける日暹兩國間の國交關係は歐羅巴諸國間の夫れに比して大に純真無垢なるものがある、國際聯盟總會に

於ける滿洲問題の票決に當つて暹羅代表が棄權して以來、日本は暹羅を目して其の親友となして居る。日本は日暹兩國の親善關係を説く毎に暹羅の此の棄權行爲を擧ぐるを常として居る、斯くて日本は暹羅の革命以降絶へず日暹親交の増進に努力し來り、爲めに歐洲諸國の猜疑を招き、終には愚にもつかぬクラ地峽開鑿の噂さへ生ずるに至つたのである。歐洲の國際政局に於てはつまらない一些事と雖も頗る敏感に取扱はれることが少くない、先頃のこと、伯林の一新聞が東京に通信員を置いたとか、又は日本の一音楽家が伯林で成功を博したとかいふやうなことが何か格別重要な意義を藏するかの如く傳へられるのである。

最近日本政府は絶えず東洋諸國政府の代表者を各種の會議に招待しつづつある、殊に暹羅は日本との間に親善關係を維持して居る、暹羅は日本から大學教授を招聘し、日本は棉花栽培の權威者を派遣して之れが調査を行はしむる等日暹親善關係を表明するものは一にして足らぬ、最近新皇帝の御即位に當りて日本天皇陛下は第一着に祝電を寄せられた如きも亦其の一である、歐洲諸強國は斯る日暹間の關係事項に付て一々彼等自身の勝手な解釋を下すのである、其の解釋考察の當否は勿論別問題である。

凡そ國と國との關係には或る目標が無ければならぬ、目標とは多くの場合に於て兩國間の利益交換ではる、而して信義を前提とする利益交換こそ國交親善の最も重要な根底である、辭禮の交換の如きは芳香と美觀ありて實を結ばぬ花に過ぎない、現在の日暹親善關係は純真無垢にして所謂信義に基く利益交換を根底とするものであることは斷じて疑ふべくもない、そして兩國の利益交換が通商を主とする經濟方面に於て行はるることも亦勿論である。

大阪毎日新聞特派員と國務總理及經濟參議との各會見談に徴すると日本は暹羅が將來日本品を制限することはないか否かに就て憂慮するもの如くである、同特派員が此點を質したのに對して國務總理及經濟參議は暹羅は今日に於ける

が如く將來も日本品を歓迎する旨の満足なる回答を與へた、殊に經濟參議は、予は自ら兩國通商の發展増進に努力するであらう、乍併日本は之に就て「暹羅に對して最も多くを與ふる國こそ暹羅から最も多くを與へらるる國である」といふことを忘れてはならぬと云つてゐる、日暹通商の増進に關して經濟參議の明言した條件は我國に好意を有して信義に基いて利益の交換を行はんとする我が親友日本國が満足をして迎へらるるならんことを吾人は期待する。

國務總理及經濟參議は日本の暹羅米輸入は極めて少量であらうとの懸念を發表して居る、望むらくは日本政府及國民が、能く暹羅人の意を諒として日本品の輸入を制限せられることは無いかといふ日本の懸念が一掃せられた如くに、暹羅側の懸念が速かに暹羅の友好國日本によりて一掃せられるに至らんことを。

六、四月十八日英字紙バンコックタイムス

日本と暹羅

歐洲列強は各自戦争の禍中に捲き込まれることなき様力め居り従て他國間關係の變化には事大小となく疑惑的となり居れり、而して右は亞細亞諸國に於ても亦同様なり、例へばネーション紙(當地支那系暹字紙)が指摘し居る如く伯林の一新聞が東京に特派員を駐在せしめし事及日本音楽家が伯林の公演に於て大成功を収めたるが如きことを日獨間同盟が成立せるかの如く大袈裟に報道せる新聞すら之れありたり、而かも斯る言説は支那に於て日本人軍事教官が獨逸人軍事教官に取つて代らんとする傾向ある旨の報道と共に終熄したり、日暹關係に付ても亦同様にしてネーション紙が云ふ如く日暹親善關係は由來する所古きも滿洲問題が聯盟總會に上程されたる際暹羅が棄權したる以來頗る好轉せるものにして歐洲に於ける一派の新聞紙は之を以て兩國間軍事同盟成立の證左なりとすら取沙汰したるものもあり自然クラ地峽

開鑿に付日本が必要資金其他を提供しつつありとの噂をも生むに至りたることあり、更に一層センセーショナルなる報道が新嘉坡方面より發せられ（昨年の日英開戦説を指す）暹羅に利害關係を有する歐洲諸國間に流布せられたることあり、斯る無稽の説は別とするも、ネーション紙が指摘し居る如く日暹兩國間は日本人教授の招聘、棉花技師の來盤及新帝マヒドール陛下踐祚に際し日本皇帝が外國君主中最初に祝電を寄せられたる事實等が證明する如く親善關係にあるも右は兩國當然の親善關係を表示するものたるに止まり昨年中歐洲方面にまで弘布せられたるが如き風評を裏書するものには非ず。

過日當國々務總理及經濟參議が大毎特派員を引見せる際も會談は單なる通商經濟方面にのみ互り政治問題には論及し居らず、即ち同特派員は最近日本品の著しき輸入増加に鑑み斯る片貿易の暹羅に與ふる影響に付質問し暹羅政府が將來他國の例に倣ひ日本品輸入抑壓手段に出づるが如きことなきやと質せる處同參議は斯る意思なき旨率直に確言せり、唯同參議は其の際暹羅はレンプロンチーを期待し居り暹羅米の日本輸出が漸減しつつあるは憂慮に堪へざる旨言明せり、右參議の言明は最近日本が北米合衆國及南米諸國に對し抱き居ると同様の感情を表明せるものなり即ち日本は南米諸國より更に多くを買ふ必要あると共に米國は更に多くを日本より買ふべきなりとの考へと同様の感情を表明し居るものなり。

吾人は日暹兩國が如何なる程度迄片貿易の調節を爲すべきやは知らず併し乍らネーション紙は暹羅關係は親善状態に在り而して右は單に通商上の取引のみに基ける關係なることを明かにし居れり。云々

備考

前掲ネーション紙及びバンコックタイムス紙（英人經營の英字紙）の二社説は去三月盤谷に往訪した大毎特派員工藤信一良氏の通信に係るパホン運國總理及ソラヌット經濟參議會見談の英譯が（三月十四日及同十五日大阪毎日）盤谷に到着するや

英字紙バンコックタイムス之を轉載し暹字紙にも譯載せられたのが本とて右に關聯して政府機關暹字紙ネーションは前掲の社説を掲げ *Chamberlain* の主義を強調して本邦に於ける暹米輸入解禁の迅速實行を要望する所あり、尤も右論説は日暹國交親善の基調は専ら經濟關係にあることを含蓄し經濟以外の關係に於て深か入りすることなきことを暗示したるものとも受取れざるにあらず、而かも是れは英國に對する遺憾から出でたものなるは確かなり、然るに英字紙タイムスは直ちに其翌日の紙上に於て早速右論説と相呼應して前掲の論説を掲げて暹羅人一般に訴へ易き點を捉へ、日暹關係を論じたるが特に日本は日本に不利なる片貿易調節を必要とすると同時に日本に有利なる片貿易も亦調節を待らざるべからずと爲して巧みに暹羅人啓蒙の筆致を弄し、且ネーション紙の日暹親善關係は通商關係を出でずとしたる點を指摘し居れるは英國人としての自慰に過ぎざるが如くにして、實は暹羅人讀者に對して一種の警戒を與へるもの、如くなりしは注意に値すべし。

七、五月二十四日英字紙盤谷タイムス社説要旨

大阪毎日新聞所載工藤特派員の記事に關する反響

前掲大阪毎日新聞記者工藤信一良氏が歸國後同紙に掲載せる日暹關係に關する記事の英譯文は五月二十三日盤谷英字紙バンコックタイムスに轉載せられ盤谷方面の歐米人並に暹國有識者一般の注意を喚起せるが同紙は機を逸せや翌二十四日前記事を批評する形式に於て次に掲出する如き社説を掲げた以來、更に一段の注目を惹くに至り五月二十七日の漢字紙民國日報は右バンコックタイムス社説要旨の漢譯を掲出せる外五月三十一日の暹字紙ネーションは主要次に掲出の通りの論評を試みたり。

是等新聞論調は日暹親善工作の全局觀に於て重大なる示唆を含蓄するものにして足らざる所なるが就中暹米輸入解禁問題が日暹親善關係上如何に重要な意義を有するかは蓋し思ひ半ばに過ぎるものあり。

昨日の本紙上に轉載せられたる大阪毎日記載の記事は當地に於ける一般讀者の興味と注意を惹きたるなるべし、右記事に於て述べられ居る筆者の見解の要點は日本は東洋平和の眞の擁護者にして暹羅は輝しき將來を有する土地なりと云

ふに在り暹羅は日本との眞の友誼を求むとの見解に對しては吾人は全然賛意を表するに吝かならざるものにして今日日本が世界に於て占むる地位に鑑みる時は右は誠に無理からぬ事にて吾人は今日教育上の便宜並陸海軍人の教練を歐洲よりも寧ろ日本に對し之を求めんとしつつあり、併し乍ら日本の暹羅に對して抱ける意圖は斯の如きに止るものに非ず即ち筆者は暹羅は日本品にとりて重要な市場にして且將來最も有望なる外國市場の一なりとて其の見解を實證する爲海關統計を引用し居れるが更に多くの統計を引用したらんには右の見解はより以上雄辯に裏書せられたるならん即ち一九三二年——二四年度に於ける日本品輸入價額は四百三十萬鎊、一九三一年度——三二年度に於ては五百八十萬鎊なる處一九三二年——三三年度には九百七十萬鎊に上り香港新嘉坡經由の分を合算すれば一千二百八十萬鎊に上りたり、更に一九三三年——三四年度に於ては一千四百六十萬鎊にして香港新嘉坡經由の分を合算すれば一千七百八十萬鎊に達し居れり而て昨年度（一九三四——三五年度）は更に躍進を續け居るべしと信すべき理由あり。

筆者が來盤の節暹羅は關稅又は割當に依り日本品の輸入を防遏する意思なしとの言明を得たると同時に暹羅は暹羅國に多量の輸入を爲す國が同時に暹羅産物に對する市場を提供し與ることを期待するものなる旨を告げられたり。

然らば暹羅の日本への輸出如何と云ふに一九三二年——二四年度に於て四百四十萬鎊、一九三一年——三二年度八百萬鎊、一九三二——三三年度九百萬鎊なりし處一九三三年——三四年度に於ては四百萬鎊に低下せり、然るにも拘らず筆者は右事實に付日本國民の注意を喚起する必要はなしとなせるが如し。

次に筆者は暹羅は日本の南洋に對する人種的發展の足場にして此の點に關する暹羅の重要性は言を俟たざる所なりとせり、斯る考は當地に於ける一部人士には耳新しきことなるやも知れず筆者の主張する日暹新友誼關係設定の實質的基礎なるものを稽ふるに其の第一は日本の對暹投資と銀行開設の問題にして元來暹羅の開発は外國資本により行れ來り現

政府は經濟開發の爲の實驗的事業に熱心なれば日本の對暹投資には絶好の時期なるべく日本銀行開設に關しては曾て當地に於て臺灣銀行支店閉鎖の經驗あるも右は日暹貿易額僅少なりし時代のことなれば茲に述べ立つるの要なるべく第二には日暹間直接航路就航船の増加と航空路の創設の必要を主張し更に第三には病院、學校設置等の兩國間の文化的提携を強調せり、然れども病院の點に付ては寧ろ其の有する施設を誇りとし居る事實を筆者は承知し居らざるが如きも夫れは兎も角、右第二、第三に關する筆者の提唱が實現されることは當地に於て歓迎する所なるべし。

何人も短期の訪問に依りて萬事に通曉するは不可能事なり筆者は專制君主制より解放せられたる暹羅が同時に歐洲列強の羈絆を脱せんと試むるは極めて自然的にして東洋人種として壓迫せられ多年白人の指導下に在りし暹羅人は今や東洋の眞精神を發見し喜び居れりとの見解を述べ居れる處右は謬見なり、右の如き所論が暹羅國民に歡迎せらるべきやは疑はしき所にして殊に歐米に於て教育せられたる官吏階級の感情に反するものなること明かなり、抑々暹羅は過去四十年間何れの國家よりも有効に歐米人のサービスと忠言とを利用し來りたるものなり、暹羅が歐米人に壓迫せられ又は屈從せしめられたりとなすは耳新しき所言にして而も誤れる思想なり、暹羅は單に自國の安固を獲る手段として諸外國を利用したるに過ぎず暹羅は是に依り歐米人の享有せる治外法權を撤廢し且財政の自由を獲得することを得たり而て其間何等の壓制の事實なし。

尤も此の筆者の謬見は當國に於ける日本の地歩に何等影響すること無く、兩國間の目的は和親に在り、筆者は前記の誤謬に拘らず日暹間通商上の問題だけは解決し得たり。

今や暹羅は自國の最重要輸出品たる米を日本が必要とせざることを知れり之が對策として筆者は當國の産業開發を行ふ爲日本の投資を提唱せり右産業開發の結果當國重要輸出品の種類は増加するに至るべし、斯て海關統計に依り示され

たる日暹間貿易に關する問題は紙上に於ては解決せられたり吾人は更に本計畫の實績を見んとす云々。

二〇

八、五月三十一日附暹字紙ネイション社説要旨

本紙は最近日暹關係に付社説を掲げ更に先週は殆ど毎日大阪毎日工藤記者の通信記事の爲めに紙面を割き來りたるが茲に更に右工藤記者の所説に關して所見の一端を述ぶるを必要と認む。

當地同業各紙は工藤記者の通信以外に、最近競つて日本に關する記事竝に我國人の渡日記事を掲載し、一樣に日本の國民精神の優秀なることを賞讃しつつあり、我國人が日本に於て受けたる款待は政府が公式に準備せる所なりとは云へ一般の日本國民が我國民に對し隣人として深大なる好意を有するものなることは吾人の疑はざる所なり。

工藤記者は現在の日暹關係に於て日本が暹羅より期待する利益に付公然と語り先づ暹羅が日本商品にとりて最も安定せる市場の一であり將來日本の貿易の發展にとりて最も有望なりと論じ次に日本の南方發展の重要な足場であると論じ居れり、之は要するに日本が指導者となりて黄色人種の文明を統一せんとする意圖を示し居れり。

同記者は更に若し日本の暹羅親善を眞に鞏固たらしめんとするならば單に暹羅人の日本訪問を招致する事のみ止るべきに非ず單に現在の如き状態を保つのみにては若し他日現在日本の友邦たる暹羅の態度に變化ある時は日本の折角の努力が徒勞に終る憂があり此の際日本側の努力をして水泡に歸せしめざるが爲には次の如き具體的な事柄に付兩國の堅き提携必要なりと斷じて居れり即ち一、兩國の經濟的關係の改善殊に農業其他の方面に於ける日本資本の投下二、兩國間交通改善特に兩國間の航空路の開通三、文化的援助例へば日本人經營の病院資本を投下し居るに於ては現在暹羅の利益を壟斷しつつある列強に對し事ある際有力なる發言權を日本に與ふるものなりと工藤氏は論ず、日暹兩國が相互に

利益を交換する點より見て日本が暹羅に建設資本を投下して眞に暹羅の利益を圖る好意を有するならば吾人の喜は大である、吾人は日本の資本投下は單に英佛に對抗する發言權を得んとし日本の利益のみを目的とするものにはあらざるべしと解す單に貿易上より論ずも今日對日輸入額は對日輸出額の數倍に上るの状態にして此點に付ては兩國共に改善せんと希望を有するものなれば將來かかる状態が永續するものとは思はれず特に暹羅の友邦として常に好意ある指導者たる立場を宣明する日本側は當問題の解決に深甚の關心を有すること、信ず暹羅は現在より改善せられたる水準に於て兩國の親交に相應する正當なる相互利益の均霑を得る時機の到來を待つものなり。

工藤記者は日本の對日進出が第二の英國或は佛國として將來暹羅に於て勢力を振はんとする野心より出でたるものに非ずやとの暹羅人一般の疑懼を觀察し居るが東洋諸國は嘗て泰西民族の桎梏に苦しみたるものにして日本とても過去に於て同様の苦き經驗を有したるものなれば日本が人間性に背きて友邦に對して斯る態度に出づべしとは吾人の到底信じ得ざる所なり。

故に吾人は日本の純真なる友好精神に信頼し今日迄暹羅國及暹羅人に對して種々の方面に於て示されたる友誼に對して深く感謝すると共に吾等兩國民は相共に相互利益交換に付更に考慮を拂ふべきなり、一般に眞實なる國際間の親善は共存共榮の實が眞に發揮せられて始めて成立するものであることを忘るべからず云々。

九、七月七日發行暹字紙「シークルン」

現代日本の教育

教育の發達は日本の進歩の一要因である

二一

今日吾等は深き注意を以て日本の姿を凝視して居る、それは我國家の繁榮を圖る爲めの參考資料を得んと欲するからである、近頃日本の事情は多數人士に依りて紹介せられつつあるけれども尙ほ一層日本の事情を聽かんことを欲する讀者は決して減少せぬのである、予は最近極めて有益なる資料を發見したから之を提供して同胞の奮起を促さんとするのである、茲に掲げた寫眞(註、本邦人の讀書振りに關する寫眞、省略)は日本の青年男女が如何に熱心なる好學者であるかを示すものである、日本人は時間を空費することを欲せず寸蔭をも惜んで快を讀書に求むるのである、日本人の大多數が如何に深き教養を有するかを窺知することも出来る、日本の現代的教育法が施行されて以來六十年にして教育全國に普及し全人口の九十パーセントは読み書きし得るに至つた、我暹羅國が現代的教育を實施したのは日本に先つこと十數年であるに拘らず我國民の文字を解する者は其の半數にも達せざるは何故であるか、勿論過去を論ずるも無益である、最近我國の教育施設も漸次完成しつつあるが故に十年後には國民の過半數が文字を解し得るに至るであらう。

日本の教育に關し注意を要する點は子弟の教育を政府に一任せずして父兄自ら子弟の教養に努め其の好學の美風を養ふことである、それが政府の教育事業の功を收むるに貢獻する所は多大なるものがある、我國でも國民擧つて此の例に倣ひて政府の教育事業を後援したならば幾年ならずして寫眞に示す如き光景を見ることが出来るであらう、更に一考を要するのは教科書問題である日本人は外國語に依りて知識を得て居ないことである日本に留學せんとする者は先づ何を措ても日本語を研究せざるに於ては完全の教育を受ることが出来ない、日本では百科の學術書は日本語で完成されて居る、暹羅では何時になれば之を暹語で編纂することが出来るであらうか、予は我が海外留學諸氏が奮つて此事業に當らんことを希望し且つ之を期待する。

マノートイ

十、五月十三日發行暹字紙ネーション

ブラチヤデイボツク帝と政府の衝突原因

註 先帝ブラチヤデイボツク陛下の退位問題に關しては政府は退位経緯報告書の公表迄一切の論評を禁じ居つたが先般漸く退位に關する往復文書を輯録したる沿革なる報告書を公表した本社説は右報告書發表後に掲載せられたものである。

ブラチヤデイボツク帝と政府との間に起れる衝突に付ては吾人は其の原因はブラチヤデイボツク帝の多くの誤解にありと思惟す。

第一にブラチヤテイボツク帝は「予は全然權力を有せず、即ち予は政府又は人民議會の行動を抑制するを得ずして責任のみ負ふものである、若し政府の施設が民意に副はざりし場合に於ては、予は之を抑壓することなくして政府の爲すが儘に放任せることに付き批難を受くるであらう、之れ予の到底堪へ得る所にあらず」と言ひ玉へり。吾人は皇帝は全然權力を有することなくして政治上の責任を負ふとの言に對し不思議の感を抱かざるを得ず、何となれば皇帝は嘗て自ら予は英國に於けると同様の民主主義を我暹羅國民に許與せんとする希望を有すと公表せられたることあればなり、而して英國憲法に従へば皇帝は違法行爲あるべからず、即ち皇帝には何等の責任なきなり、皇帝の名に於て行はるる總ての政務に付ては閣員之に署名して責任を負ふにあらずや、之を以て吾人は皇帝と意見を異にせざるを得ず、即ち皇帝は政務上責任を負ふ必要なく、責任を負ふ必要なければ從て權利に執着するの要なき筈なり、皇帝が政務上の責任を負はざるべからずと解せらるるは皇帝と政府との衝突の主要原因の一なり、皇帝が憲法を理解せざる近侍の説に聽従するに及び事件は愈々紛糾するに至れるは餘儀なき成行であつた。

第二に政府が皇帝の誤解を釋かんと爲め特使を派遣せるに拘らず皇帝が此の好機會を利用せられざりしことは特使チャウピヤシクマテイベートより國務總理に致せる文書中に「政府代表者は皇帝に謁見して別紙報告書の通り奏上したるに拘らず皇帝は尙ほ直接に政府と交渉して其の回答を求められた」と云ひ又「期待に反して交渉が皇帝と政府との直接續行せらるる以上最早滞在は無意義にして時間と經費の徒消に過ぎず」と云ひ居れるに依りて明かなり、兩者の間に意見扞格し意思疏通を缺く場合に於て採るべき最善の方法は代表者を派し互に胸襟を開き諒解に努め協調を圖るにあり、此方法は歐米に於て専ら行はれ假令一時的なりと雖も衝突を緩和する効がある。然るにブラチヤダイボツク皇帝と政府との間の問題に於て帝が此最善の方法を利用せられざりしは遺憾至極であつて衝突の起るに何等不思議はない。

第三に公示書に現はれたる諸種の事實に徴すればブラチヤダイボツク帝は専ら近侍者若は反政府黨の立場のみを基礎として政府の行動を批判せられたる傾がある、例へば帝が反亂關係者の嫌疑に由り退職を命ぜられたる官吏に對して恩給の支出を請求せられたるときには、其の近親たるモムチャウキブーンソワツトラングを引例せられた、之に對し政府が受給權者全部に給與せる旨回答するに及び皇帝は其請求を撤回せられた、又皇帝が事實無根の報告に基きて出版の自由拘束縛に關し政府に抗議せられたるときにも反亂者を主筆とするデーリーメールの件を引例せられたのであつた、斯の如くブラチヤダイボツク帝は政府の處置を批判するに當りて其の近侍者又は反政府分子の進言報告のみを基礎とせらるるが故に政府は皇帝と争ふ外なきに至つた、之れが皇帝と政府の衝突する一大原因である。

第四にブラチヤダイボツク帝は幾分性急の傾がある、皇帝相續財産の相續税免除法起草問題の場合に於ても皇帝は、「半時以内に法令起草の要あり」と仰せ出された位である、其後政府代表から右はサーロバートホールランド及レエスク兩氏に於て起草中なる處其の進捗意の如くならざるは起草上種々困難なる點あるに因る旨奏上するに及びて皇帝は始めて満足せられたのであるが、此外皇帝の性急を示すべき例は一二に止まらぬ、若し皇帝にして一層慎重の態度を以て事に當られたならば皇帝と政府との衝突は恐らく避け得られたであらう、皇帝に輕卒の舉動ありたるは惜んでも尙ほ餘りある事である、又時には將來に對する認識不足の事を仰せ出でらるることある。例へばブラビブーンアイソワン事件に於て若し内務局敗訴したならば予は退位するであらうと言はれた如き是なり。

以上は吾人がブラチヤダイボツク帝と意見を異にする主要點であり又ブラチヤダイボツク帝と政府との衝突を起す主要原因なりと吾人は確信す。

政府の特使はブラチヤダイボツク帝の諒解を得る爲め前後五回に亘りて謁見を乞ひたるが其都度懇切に之を引見せられ或問題に關しては深き理解を有せられたものもあつたが、時に脱線して九叙の功を一簣に缺きたるを遺憾とす、政府は有らゆる方法に依りて、帝の諒解を得んと計つたけれども帝の逆鱗容易に釋き難く政府の努力も遂に功を奏せず事件は不幸の終を告げた、議會は帝と政府の意見の相違に於て慎重審議の結果政府の處置を正當と認め從て議會は國民と共に遺憾ながら帝の退位を承認せざるを得なかつた。

ブラチヤダイボツク帝より政府への最後の通知に於て皇帝は「今回の事件に關しては予は何等の憤怒と惡感情を有せざることを政府は確信せられ度く且つ政府の有終の成功を祈る」と言はれ又「予は予の利益の爲めに何人をしても國內の平和を攪亂せしむるが如き意思を有せず」と公表せられた。

吾人は今回の事件を以て我國史上に於ける重大事件と信するを以て事實に基き吾人の意見を發表し且つ兩陛下の萬歲を祈るものである。

十一、暹字紙プラチャヤーテイパタイ

海外留學生派遣に就て

從來我政府は年々中學最優秀卒業生三名を歐米に派遣し居りしが聞く所に據れば將來政府は之を四名に増加すべしと
 のことなり、然るに歐米留學生の費用は一人一ケ年五百銖に近く別に莫大なる監督費を支出するを要す、而かも向後十
 年の間に海外留學生派遣の要なきの時機到達すべしとも思はざるなり、去れば財政困難なる今日に於ては極力留學生費
 の節約を圖らざるべからざるに付予は我政府が學費負擔を軽減するが爲に日本及「フキリツピン」に留學生を派遣する
 の適當なるを唱導せんとす、歐米留學生一名の學費は日本留學生四、五名の學費に匹敵すべし、加之現今日本の學界は
 最高の發達を遂げ毫も歐米に比して遜色なきのみならず特に日本は徳育及文化向上に於て優秀なる成績を擧げつつあり
 若し政府にして此の意見に傾聽せんか我國の海外留學生の員數は頗る増加し業成るの日相率ひて國家の興隆に貢獻すべ
 き有爲の青年續出するに至らん、而して予は日本は我留學生に對しあらゆる便宜を供與するの用意ありと聞く、右予の
 見解に關しては政府は宜敷最近歸朝せる佛教青年會代表者の意見を聴取すべし事理立所に明白ならん、予は本年度より
 直に學生を日本に派遣せんことを政府に懇請す、最善の途は新卒業生中より留學生を選ぶよりも既に相當の經驗と試練
 を經たる官吏中より若干員數を選ぶを可とす、弱冠にして海外に留學し徒らに外國の皮相を見て眞髓を捉ふるの能力な
 きものあり從て歸朝後國家の用を爲さざる者少からざる事實は世人周知の如くなり、故に予は留學生を青年官吏及學生
 より併せて選定するを以て最善の方法なりと思惟す又中學高等の語學科に日本語を選択科目として加へ日本留學希望者
 の便宜を計るは目下の急務なりとす。

チングムニ

○暹羅の親日的傾向に關する緬甸新聞の論調

蘭頁の英字紙「ニュー、ペーマ」は四月十二日「暹羅の新友邦」と題し暹羅は漸次英國との傳統的提携を拋棄し明
 かに日本と密接なる友誼的關係を結ばんとするの傾向ある趣なるが緬甸の隣邦たる同國に於ける成行は不斷に研究
 するの價値あり云々との記事を掲載せり今茲に其全文の要譯を掲ぐべし。

「暹羅の新友邦」

歐洲に於ては大きな太鼓がどん／＼叩かれつゝある一方、東洋に於ては人目を忍んで靜かに小陰謀が進行しつゝある
 ことは見逃がし得ぬ事實だ、其小陰謀は表面餘り目には立たぬが其實は重大なる結果を孕むものである、其小陰謀とは
 混亂せる陰謀の市となつた盤谷に最近引續き惹起せる事件を言ふのだ、近頃或る方面に於て暹羅が漸次英國との傳統的
 同盟關係をかなぐり捨て、新たに日本との緊密なる友好關係を結ばんとする方向に轉換しつゝありとの觀察を爲すもの
 があるが、吾人は暹羅に於ける引切りなしの政權の混亂並に其れから結果したる前皇帝「プラチャヤテイボク」の退位が
 此の暹羅の新對外政策と如何なる程度に於て關係を有するかは知る所ではないが併し最近の暹羅政局のいろんな事相を
 看れば如何なる風が吹いて居るかを悟らぬ譯には行かぬ、暹羅人民議會の代表團の一行は目下日本に滞在して暹羅の政
 治組織再建に資する爲め日本の事情を熱心に視察研究中である、日本の國情に明かに憧憬の念を持つ暹羅國人に取りて
 日本の政治組織が牽引力を持つことは疑のない所ではあるが、同時に併し暹羅の新親日政策と關聯せる最も重大なる出
 來事は暹羅の航空界に進出せんとする日本の熱心である、盤谷日本間の航空路を設定せんとは日本が既に聲明した所だ

二七

暹羅が其の新しき友國を求むる態度政策は英國及佛國に依て油斷なく注視せらるゝ所であるであらう、サー、ジョシア
クロスビー（盤谷駐在英國公使）も最近本國政府に屢々報告を提出したとの趣だ、兎に角吾人の隣邦暹羅に於ける形勢
は絶えず注視研究すべきだ。

○日暹關係に關する紐育トリビュン紙の社説

最近紐育市新聞中日暹親善關係に付東京及盤谷よりの電報等を屢次掲載し居るが去五月十九日の同市「ヘラルド、
トリビュン」紙は「シヤム」は火遊びをしつゝあるか」と題し左の如き社説を掲載せり最近の日暹兩國親善の空
氣が紐育市言論界まで刺撃したるは興味あることである。

「ヘラルド・トリビュン」紙社説

「シヤム」は危険なる火遊びを爲しつゝあるか

暹羅に於ける日本の勢力進展は過去一ヶ年有餘に亘り屢々喧傳せられ即ち「ファツシスト」的獨裁者「バホール(Baoh)

は自己の政權擁護の爲日本の同情を求めつゝありとか、日本は暹羅より馬來半島横斷運河開鑿權を獲得せりとか暹羅國
軍隊は日本人教官を招聘し又同國海軍は訓練の爲め二十數名の士官並に士官候補生を日本に派遣せりとか暹羅國は日本
造船業者との間に三十隻の軍艦を六ヶ年間に建造する契約をなせりとか報ぜらるゝ、勿論此等の報道は政府筋の承認を得
ざるも「盤谷」に於ける英國公使の活動より察すれば英國は早きに及んで同國が暹羅に於て重大なる利害關係を有する
事を暹羅國當路者をして認識せしめんとし居るものゝ如し。

事態の重大性を知らんが爲には吾人は暹羅國の獨立的存在は同國を緩衝國と認むるに至りし一八九六年の英佛條約に
依存する事を知らざるべからず、即ち一八九三年佛國は數個の土人國を支那の主權より分離して今日の佛領印度支那を
形成するに至りしが更に暹羅に侵入し後者が之に反抗するに及び佛國海軍は「盤谷」を封鎖しその領土の三分の一の割
讓を強要せり然るに他方英國は暹羅の國境地方に多數の馬來人「ブルマ」人居住するの事實を以て佛國の暹羅國侵入を
好まず、遂に兩國は條約を締結して暹羅國の獨立を保障し兩國は其の獨立擁護の爲武力干渉の權利を保留せり、當時暹羅
國王「チュラロングコーン (King Chulalong korn)」は多數の外國人顧問を招聘して行政改革を企て以て獨立の事實
を確立し爾來其の後繼者亦之に倣へり、然るに現「バホール」政府は東洋政治に復歸し幼帝の名に於て黨閥獨裁政を敷
き言論の自由、反對黨の抑壓を企て國內紛争を惹起せしめつゝあり、若し本年三月「プラジャシポック(King Pradjapok)」
王の豫言せし如く同國に於て何等かの政治的紛争惹起し又若し東洋の警官を以て自任する日本が暹羅國に重大利害を有
する事を宣明するに至らば英佛兩國は共に過去の權利と責任とを主張すべく頗る複雑危険なる事態を招來する處あるは
確かなり云々。

★

★

★

★

★

○渡日暹羅舞踊團歸暹歡迎夜會開催の件

曩に本邦朝鮮及滿洲等各地の巡回公演を畢へて歸暹せる暹羅國官立音樂舞踊學校教師及生徒の舞踊團一行の歡迎の意を兼ね七月二十日夜我矢田部駐暹公使は文部省文藝局長の協力の下に同校講堂に於て「音樂と舞踊の夕」を開催し廣く同國名士及在留邦人並に團員家族等を招待したる處、暹羅側よりは侍從武官長、外務省顧問等多數名士の出席を見成功を收めたる趣尙當夜開會に當りて同公使並に文藝局長及舞踊團代表等より夫々左記の通の挨拶があつた、該舞踊團の本邦來訪は日暹兩國の友好親善關係を増進する上に多大の効果を擧げたる所で之には矢田部公使東京駐在暹羅公使外務省文化事業部柳澤健氏及塚本嘉次郎氏の斡旋盡力に負ふ所最も多きは茲に特筆するところである。

矢田部公使の開會の挨拶

先般音樂舞踊學校の教師及生徒三十五名より成る舞踊團が日本を訪問して日本内地及朝鮮滿洲各地に於て公演を行ひ約二ヶ月半の日子を費して歸國したことは諸君御承知の通りであります。

三月の中旬一行の出發前に於て、其の行を送る意味を兼ねて今夕の如き催を致し度考へなりしも、當時私の健康がそれを許さなかつたのであります。従つて今晚一行の歸朝を歡迎かたがた諸君の御來場を乞ふて、一行が日本に於て公演せられた舞踊の一部を觀て戴く事に致したのであります。

舞踊團の渡日の目的は傳統的なる純粹の暹羅藝術を弘く日本に紹介すると共に、團員の見聞を廣め、兼ねて日暹兩國人間の了解融和に資するところあらんことを期待するにありました。勿論興業に依りて金錢上の利益を獲んとするが如き動機は毫も存在したのではありません。

一行出發前の各種の準備に付ては文藝局長始め校長教師生徒諸君が長い間の非常なる努力を以て萬遺漏なきを期せられたのであります。日本に於て一行の公演に關する事務は此種の仕事に多年の經驗を有する塚本嘉次郎氏が之に當つたのであつて、外務省の文化事業部と國際文化振興會とが之を後援斡旋したのであります。我暹羅協會も亦一行の爲めに種々斡旋したのであります。

塚本君が今回舞踊團公演の事を引受けましたのも何等金錢上の利益を期待しにもものではありません。唯收支相償ふことを得れば結構位に思つてゐたのであります。然るに到る處の各地に於て一行の受けた歡迎歡待は意想外に盛んであつて、又公演そのもの効果も期待以上のものが得られたのでありますけれども、興業上の收支成績は是亦豫想外に不良でありました。私は右に付て詳細なる報告を受取つて居ります。其の概要を申し上げますれば、各地公演の入場料収入合計は一萬九千二百三十圓で、此内から公演開催費一萬五百圓を差引いて、約八千七百圓の公演利益を擧げて居ります。

此の收益に對して一行到着前の諸準備費、盤谷日本間並に日本内地朝鮮滿洲各地間の旅行及宿舎に關する費用、公演準備の爲めの諸費用、殘務に關する費用等を合せて一萬一千八百圓を要して居りますので、差引三千四十五圓の不足即ち損失を招いて居るのであります。此損失は元より塚本君自身に於て之を引受くる外無いものであります。同氏としては

若し利益があつたならば之を一行の爲めに提供すると共に損失を生じた場合には自ら之を負擔することを最初から覺悟して居たのであつて、即ち同氏が一行公演の世話を引受けたのは、全く犠牲的な精神にスタートしたもので専ら日暹親交の爲めに貢獻し度いといふ純真なる動機に出たものであります。同君の盡力に對してはわれわれ大に感謝せねばならぬと存じて居るのであります。

興業の收支成績は斯様に不良でありましたけれども、一行は日本内地は申迄も無く朝鮮滿洲の各地到る處に於て極めて熱誠なる官民の歓迎を受けられたので此の點に於て一行の諸君が十分の満足を得られたであらうことは私の確信するところであります。又諸君は極東に於ける未知の山河風物に接せられ日本國民の暹羅の同胞に對して抱ける純真なる友誼に迎へられて此點に於ても定めて多大の満足を得られたことであらうと信するのであります。殊に、今回一行の日本訪問に依りまして、日本内地は申すに及ばず朝鮮滿洲の隅々までも暹羅國の存在と其の姿とを深く深く徹底せしめ得たことは疑も無い事實でありまして、此點に付ては一行の諸君は勿論のこと、文藝當局始め當國一般官民に於て多大の満足を感じて居られるべきことを確信致します。私が東京に於ける官邊の一友人から受取つた報告の内にも「斯の如き偉大なる効果は到底他の如何なる方法に於ても達し得べからざるものと考へらる」とまで申して居るのであります。斯る偉大なる功績を擧げ得られたことを願ひますれば、興業上の收支成績が良好でなかつたことの如きは殆ど問題ではありますまい。勿論諸君の日本訪問が始めから金儲の動機に出たもので無いことは先程申し通りであります。

三十五人といふ多人數の一行が海を越へての數十日の旅行の安全は私の深く懸念した所ではありますが、幸にして氣候風土の變化にも冒さるところなく重き任務を達成して御一同が無事に歸國せられたことは誠に喜に堪へませぬ。學校關係者諸君並に團員御家族一同の御満足も嘸かしく推察いたします。同時に、日夜日暹親善關係の増進のみを念として居る私としては一行の諸君の今回の御勤に對して感謝に堪へないのであります。

凡そ兩國相互の親善融和を圖るの途は色々あり得るのでありますけれども、藝術文化の相互交換理解といふことが其の最も根本的なもの、又最も効果的なものであることは今更ら申すまでも無いことであります。私は今回の如き催が將來相互に度々繰り返されんことを希望するものであります。

文藝局長挨拶要旨

日本に於ける舞踊公演旅行を畢へて歸朝した舞踊團一行の爲に今回日本公使閣下が舞踊と音樂の夕を御催し下さつたことは私の深く嬉しく存する所であります。

文藝當局が舞踊團一行を日本に派遣公演せしめて兩東洋民族の年少國民間の親交を圖つたことは今回を以て嘸矢とするのであります。

今回渡日舞踊團は期待せられた暹羅藝術の普及及日暹親善増進の使命を果して歸朝致しました、團員一同は各自の任務に勵み他の團員一同協力して其の失策を矯正するに努力し終始能く善處して満足なる結果を收め得たのであります。

音樂舞踊學校生徒渡日の宿望實現に付種々斡旋御盡力をお與へ下さつた日本公使閣下に深く感謝致します、今回の擧は日暹兩國の親善史上特筆すべき進歩を齎したことを確信致します。

舞踊團代表者の挨拶要旨

日本に於ける舞踊藝術公演旅行の機會を得た舞踊團を代表して簡單に報告申し上げます。

私共一行の公演旅行は日本官民よりの歓迎を受けて誠に愉快なる旅でありまして一同は生涯忘れ得ない程深い印象を得たのであります。日本の自然美は日本國民の麗しい魂と合して私共一行をして恰も自分等の郷土に在ると同様の感を抱かしめ且日暹兩國は血統を同うする民族であることを痛感したのであります。日本滞在中病氣に罹る者もありましたが別に誰一人として聊かの苦痛も蒙りませんでした。公演旅行區域は二十の府縣に亘り時には一行も甚しく疲勞を覺える時がありましたが其の疲勞を一行は却て常に愉快に感じたのであります。一行は茲に歸暹致しましたが尙常に日本の生活を日夜忘れ得ないのであります。

舞踊團一同に日本の秀麗なる自然を觀賞し且日本の進歩發達を目のあたりに觀察する機会を與へる爲種々御後援斡旋をせられました日本公使閣下に深く感謝致します又皆様が今夕の會に御出席下さいましたことを感謝致します。

○訪日暹羅國無任所參議の本邦視察感想

曩に視察の爲め本邦に渡來した暹國無任所參議クン、スコンタヴィットスクサローン(Kun Sogondhavit Sukshakorn)並にクン、サマハーンヒタカデーイ(Kun Samaharnhi Tagati)兩氏は約一ヶ月に亘る視察を了へ五月初旬歸暹せる處同月廿八日クン、スコンタヴィット氏代表として我矢田部公使を禮訪し滯日中我官民各方面より受けたる歡待に對し深甚なる感謝の意を表し左記の如き視察感想記を同公使に提示したる由又別に外務參議より右本邦官民の歡待に對し書面を以て暹國政府の深厚なる謝意を表明すると同時に右我政府並に關係民間諸氏へ傳達方依頼越したる趣にて矢田部公使は之に對する挨拶を發すると同時に委細外務省に報告があつた由。

クン、スコンタヴィット參議の本邦視察感想要領

今回我等の貴國視察に際しては貴國滞在中は元より往復の海路に於ても貴國官民一般より衷心よりの歡待を受け實に愉快なる旅行なりき茲に閣下の御周到なる斡旋を感謝す。

今回の渡日によりて予の最も痛感せることは日暹兩國の國民精神の根柢には或る種共通なるものが流れて居り非常に近似點の多き事實之れなり故に貴國に到着するや既に異國に渡來せりとの感無く全く昵懇なる隣家に招れ來れるが如き打解けたる感情の湧出るを覺えり。最近我國民一般の對日關心は急速に高まり、新聞紙も貴國に關することは何事によらず茲て之を掲載する傾向あり予も渡日前より之等貴國に關する諸般の記事及談話等に深き關心を拂ひ來たる者一人なりしも渡日前には尙多少の疑惑あるを免れざりしは事實なるも此度實地見聞の結果之等の疑念は一切解消せられたり、殊に貴國民の對暹關心及好意に付て然り此の點は予一人のみに限らず、我國上下の對日認識近來著しく向上されたとは云へ未だ多くの誤解と疑惑を抱き居るものなきにあらざるか、予は予が實地に得たる貴き信念を機會ある毎に友人知人及一般國民に語り今後日暹國民間の友情了解を益々強固ならしむるに微力を盡くす可し。

尙貴國滞在期間は約一ヶ月の短期間にして且予は日本内地に於て各方面の視察に充分なる時間を充てし爲滿洲國に赴く的機會なかりき、教育視察は折悪しく多數の學校が休暇中なりしは残念なりしが大阪にて大學を參觀し又東京府の教育關係官憲より教育組織及狀態に關する詳細なる高話を承り非常に有益なる收穫を得たり云々。

x

x

x

x

○暹羅國攝政會議首座薨去に關する件

三六

故攝政首座には豫て宿病有り本年六月中旬以降療養の爲政務を離れ英領「ピナン」又は當國「ホアヒン」に靜養せられたる次第なるが過般歸盤せられ八月一日人民代表議會開院式に臨まれ攝政會議首座として議會に對する教書を朗讀せられたるが其の音吐其の態度平素に比し格別異なる所無かりしを以て本月十二日忽然其の喪發せらるるや世人一様に何等かの疑惑を抱かざるを得ず早くも坊間には攝政首座は八月三日就縛したる陸軍部内の不穩分子と相通謀せりとの風評行はれ更に同殿下は前記不穩分子の逮捕に因り進退谷まりたる結果處決せられたりとか或は右事情の爲政府與黨は人を派して同殿下を弑害したりと云ふが如き塗説頻々行はるるに至り同殿下の薨去は暹羅政局に復又一抹の暗影を投ずるに至れり而て八月十三、四日頃に至りては暹字新聞中二、三のものは攝政首座薨去の裏面には或る事情の伏在せることを臆せず報道をなすものもあるに至りたるを以て政府は遂に故殿下の七日祭終了を機會に八月廿日の機會に於て萬事を公表して世上の疑惑を解くことに決定したるものなり。

政府の公表せる所に據るに攝政首座自決前後の様樣竝に自決に搦まる事情大體左の通り。

八月十二日午前十時十五分警察官憲は急報に接し直に攝政首座の私邸に駆け御臨終の場所を臨檢したる處攝政首座は血に染みて寢臺に臥し床上には齒(多分門齒と察せらる)一枚及口徑七、五耗の陸軍用拳銃を發見したるも寢室内の狀況整然として格闘等の形跡を認むる能はず拳銃は皆て攝政首座が侍從武官として君側に在せし時代に入手せられたるものなること判明したるが身體外面何れの局部にも銃創を認むること能はず臨檢の警察醫の檢屍及「レントゲン」檢

診の結果拳銃彈丸一個腦漿中に留まるを發見せられ而して前記の拳銃には彈丸一個を射出せる形跡歴然たるものあり且右凶變に際し家人の何等之に氣着くこと無かりしは件の拳銃の銃口を口腔内に差込み發射せられたる爲にして其の時刻は八月十二日午前五時より六時の間と推定せられたり。

敘上の如く故攝政をして自決の一途を撰ばしめたる事情に關し政府當局の解明する所に依れば故攝政は自決の前日現に宮内局に勤務せる「プリンス、ウパリツサン」(H. S. H. Prince Uparisan Iunbala)に對し先帝「ブラチャチイボク」(King phajadipo)の私有財産管理の事務引受方を依頼する書翰を認められ而て坐右には先帝の岳父「プリンス、サワン」(His Royal Highness Prince Suan)に對する進金の件、昨年來先帝に扈從して渡歐し君寵を受けたる側近の一名(目下歸暹し居れり)「モンツァン」(Mon Riwongse Samang)就職の件並に「ンアム」離宮を内帑局に百五十萬銖を以て賣却方斡旋の件等を故攝政に依頼する趣旨を記載したる先帝「ブラチャチイボク」の宸翰發見せられたる事情より察し(尙は前皇后陛下よりも其の父君たる「プリンスサワット」に對する進金問題に付攝政首座に對し種々要求ありたる模様なり)先帝の私産管理問題に付ては故攝政が極度に懊惱せられたりと推測する理由あり又皇族の一部には故攝政が其息子現に陸軍中尉として仕官せる「プリンスグスターウ」(H. S. H. Prince Gustavas Chakrabandhu)に對する恩愛に牽かれて現政府の特恵を蒙り得んと努めたりと中傷する者あり剩へ「プリンスチャイナート」(H. R. H. Prince Rangt of Gainad 先帝の異母兄)、「プリンスデツアファン」(H. H. Prince Deawongse Varohaga)先帝の從兄にして元外務大臣、昨年一月先帝に扈從し滯歐の處同年十二月單身歸暹せり、及故攝政兄君「プリンストツリウオン」(H. H. Prince Dossirong Chakrabarti)等有力皇族及肉身が故攝政に於て先帝私産管理の衝に當るに對し憤懣を表示し皇祖母殿下(Sombekphra Srisavarithra Parnaraja Devi phya Bauvassa Ayaka Chao)に對し故攝政

三六

には皇族一統に對して同情無く皇族を扶掖せず又皇室の儀式典例に通ぜずと言ふよりは寧ろ現政府に款を通せんが爲公衆の面前に於て他の皇族を蔑にせりなどと告ぐる有り又右の他煩些なる問題に關し有力皇族より加へらるる重壓と攝政首座たる地位との板挟みに陥り辭意を洩されたるも妃殿下の諫止に因り兎も角にも其の地位に留まられたる處遂に一朝遽に現在の苦惱を解脱する方途を執られたる模様なり。

尙前記政府側の公表したる以外に坊間には相當穿ちたる風説行はる即ち政府は前顯陸軍部内の不穩分子動搖の結果八月六日附法律を公布して一昨年十月の「プリンスボワラデート」謀叛事件の善後策として創設せられたる特別裁判所法を改正し向後は朝憲紊亂事件に關して特別裁判所の下したる死刑判決に對しては宣告後四十八時間以内に皇帝に對し特赦の請願を爲すことを得るものとし又若し特赦の請願を爲したるとき皇帝が右請願受理後四十八時間内に何等の決定を爲さざるときは判決確定し直に死刑を執行する趣旨の規定を設けたる處一部皇族中には右は恩赦の大權に重大關係ある事項にして先帝「ブラチャデイボク」陛下は死刑執行には判決確定後六十日の期間を附したる法律の改正にすら退位を賭して政府と抗争したる程なりしに反し今攝政會議が特別裁判所法を無難作に裁可したるは甚だ其の意を得ず毫も先帝の苦衷を顧みざる仕方なるは甚だ面白からずとて皇祖母殿下に讒訴したる結果皇祖母殿下は故攝政を面詰せられ爾來同殿下は快々として一身の處置を考慮するに至れり云々との説もあり右は過日議會に於て政府當路者の具體的には觸れざりし點にして或は右は事實ならんかとも推察するも其の實否未だ明白ならざるに付一説として茲に附記す。

故攝政首座は先帝「ブラチャデイボク」とは従兄弟の間柄に在らせられ幼にして陸軍幼年學校に於て教習を受けられたる以來陸軍軍人としての公生涯に終始せられ或は近衛歩兵聯隊に勤務せられ或は參謀本部に出仕せられ或は宮中に入りて侍從武官として君側に扈從し忠誠の譽高く佛曆二四六三年親王（「クロムツーン」）に列せられたり性格寡黙謹嚴に

して諸外國人との御交際は殆ど之れあらざりし様なるも本使に對しては年來常に多大の好意を寄せられたり御齡五十去を以て遽かに薨去ありたるは痛惜に堪へず。

○暹羅國に於ける反動運動

一、暹國々防相ルアピブン狙撃事件

本年二月廿三日夕刻國防參議ルアピブンは盤谷市内王宮前廣場に於て開催せられたる軍人選手のフットボール競技會に臨席したるが競技後賞品授與を了りて自動車に乗り退場せんとする瞬間一凶漢現れて拳銃を以てルアピブンを狙撃した、其際凶漢は數發の彈丸を亂射したが一彈はルアピブンの左頸部に中り皮下を貫いて左頸部に出で他の一彈は背面より右肩胛骨の上部に中り皮下を縫ふて前方に脱出した、尤も右の銃創は淺く皮下を通過した程度にして何れも重傷にならずピブンは直ぐ衛戍病院に入院して約三週後に退院した、右凶漢は現場にて逮捕せられたが其當時警察官憲が如何に手を更えて訊問するも口を割らざる點から見て精神異常者でないことは直に察知し得た由である、又犯人は逮捕の際囊中に現金僅かに十五錢の所持金あるに過ぎざりしに凶行に用いた拳銃は未登録の新調品なりし點より同人の背後に使曠者の存在することは直に察知せられ極力檢察に力めた結果二月二十六日に至り連累者合計八名盤谷市内及ナコンパトム（盤谷より約五十軒の地點）に於て夫れ／＼就縛した前記凶漢はナイブムと稱し以前に屢浮浪罪を以て問はれ一時不逞の故を以て偏僻の地に隔離處分に付せられたことある札付の無賴漢でルアピブンとは全然面識なき人物なり又同人の外に共犯者として今日迄判明し居る限度に於ては其姓名職業並に事情等左記の如し。

ナイピットポンテミ

右は元憲長大佐にして「ピアトラニナルベート」と稱したる人物なるが昭和八年秋プリンスボワラテートの反動内亂に左袒したる廉を以て官職位階を褫奪せられ特別裁判所に於て禁錮一年の刑に處せられ本事件發生の數ヶ月前刑期満了して出獄したる人物なり。

- 宮内省官吏
- 豫備陸軍大尉
- ルアンシツチバンナコン
- ルアンワラバリチーブーバーン
- ルアンワラサンバンヂョンラクサ
- 辯護士
- ナイチユムバタイチャン
- 辯護士
- ナイチユムチャイデート
- 辯護士
- ナイリシベンブーク
- ナイシンラースブロイ
- ナイチツトチャンベート

以上本件關係者氏名は暹國情報部の公表したる所に依る。

狙撃本人ナイプムなる人物は全く一個のロボツトに過ぎず此人物を使曠したるは元憲兵大佐ボンテミーにして同人は元來プリンスナコンソワン家の使用人として同殿下の眷顧を受け立身した人物で一昨年六月現政府與黨政權を掌握した後反動派系統の地方官約五十名に對し今一度のチャンスと與ふる爲め政府に對する忠順の宣誓を爲さしめた上特に現官に止めたことがあつたがボンテミーも其一名であつた然るに一昨年秋プリンスボワラデート一味の舉事に際し同人は南方警察管區の司令官たりしが款を叛軍側に通じた爲捕えられて特別裁判所の審理に附せられ處罰せられた次第だが却て

是に依り現政府に對する反感益々募つたと見え出獄後は現政府の中心人物を暗殺する計劃を爲し昨年十二月十四日憲法發布記念日の混雜に乗じて平素同人が目して共產主義者なりとする内務參議ルアンブラヂツト、ルアンピブーン警視總監補ルアンアドウン暗殺を執行せんとし右三名の生命に夫々五千銖の懸賞を附し會て自己の部下たりし一警察官をして陰謀を執行せしむる手筈を整へたるに右警察官及其手先兩三名は決行の現狀に臨み怯氣を生じたる爲め遂に計劃水泡に歸した儘越年し本年二月上旬より友人たる辯護士ルアンワラサンを通じて其使用人ナイプムに渡りを着け後者をして遂に前記の凶行を演ぜしむるに至つたものだ。

本件首魁ナイピットボンテミーは此種反動的暗躍に當り隨時自己の輩下に金圓を握らせ又武器を供給し暗殺計畫に關聯し成功謝禮金の提供を約する等の點より見て相當纏まりたる資金を有することは想像に難からざる所であるが若し然りとすれば官職と恩給に離れた同人に對し資金を提供する何人かの存在は否定し難く是れが即政治的觀察よりすれば本件の核心たる點で世上一部並に政府要路者の一部も首魁ボンテミーは先帝ブラチヤデボツクの皇岳父プリンスサワより資金の供給を受けたと言ふて居るに對し警察當局者は之を否定し皇族中にはナイピットと通謀した者はないと言ふて居る其真相は一寸捕捉し難い。

二、陸軍部内不穩分子逮捕事件

本年八月五日頃最近盤谷及「チェンマイ」駐屯の陸軍部隊内に不穩事件有り約七、八十名の軍人逮捕せられたり云々の風説頻に行はれたる處豫て陸軍部内の准士官階級に軍部の現幹部を暗殺して一派軍人の手に依る獨裁政治を實現せんとする陰謀を爲すもの有りとの説あり依て治安當局に於て嚴重内探を遂げたる結果陸軍准士官級に十數名の不穩分子

有ること明となるを以て治安當局は専ら是等一派の行動に警戒を加へ遂に八月三日午前一時を期して是等一派の檢舉を執行し准士官十一名を逮捕し續て其の當時休暇を得て郷里「ドンブリー」、「ピサヌローク」、「アユチイア」等各方面に歸省中なりし者をも夫々陸軍の手にて逮捕せり八月七日附を以て國防參議「ルアンピーン」の公表したる所に據れば本事件に於て逮捕せられたる准士官は近衛歩兵第一聯隊一名、歩兵第二聯隊十一名、歩兵第三聯隊二名、第一地方軍管區司令部附一名(右司令部は國防省内に在り)合計十五名なる趣にして(當時軍部當局の公表は以上准士官十五名のみなり)此の外兵卒にして同時に逮捕せられたるものあること事實なるが如きも其の數等未詳なり)當時陸軍部内の幹部は故らに本事件を問題視せざる風を裝ひたるも右は動搖の普く軍部内に波及すること無きやを深く懸念せるが爲めなりしが如し。

本事件直後政府は會期中の議會に特別裁判所改正法案を提出し八月六日附を以て是を公布即日施行せり。

右改正法は佛曆二四七六年「プリンスボワラデート」の反動内亂直後に設置せられたる特別裁判所は右内亂關係者のみを審理するものなるを改めて原則として右内亂事件以來本法公布の日に至る迄の期間に於ける一切の内亂事件を裁判するものとし只本法施行の時他の裁判所に繫續中の内亂罪に關する刑事訴訟事件は特別裁判所に移審することを得ざるものとし特別裁判所の權限、構成、訴訟、手續、判決の效力竝に主管者は國防參議たる點は故の如し。

只本法に於て特に注意に値する點は現行刑事訴訟法死刑の判決は其の宣告の日より六十日の期間經過したる後に非れば之を執行せず又死刑判決に關し皇帝に對し特赦を奏請したる場合には上奏の日より起算して六十日經過の後に非れば死刑を執行し得ざるを規定せるに對し特別裁判所に於ける死刑の判決は原則として判決言渡の後四十八時間以内に特赦の奏請を爲すことを得勿論特赦の奏請は直に皇帝に上奏するものとし而して右上奏の時より四十八時間以内に何等の沙

決無きときは茲に判決確定するものとし右兩者の場合何れに於ても死刑判決の效力確定するときは直に死刑を執行するものとすせられたる點なりとす。

斯くて逮捕せられたる十五名は直に特別裁判所の審理に附せられ内十三名は有罪として告發せられ裁判の結果九月三日判決言渡あり一名は死刑、八名は終身懲役、三名は二十年の懲役、一名は十六年の懲役に處せられたり死刑の判決を受けたる被告は法の許す所に従ひ直に皇帝に對し特赦の請願を爲したるも法定期間内に何等の沙汰に接せず死刑判決の效力確定して九月十一日早期媚南河口に在る「サムツトラカン」縣下の一地に於て銃殺せられたり。

政府は右死刑執行後直に本件に關する特別裁判所の判決書を新聞紙上に公表したるが右に據れば本件被告等の陰謀は相當大掛りのものにして國務總理「ウヤン、ホン」(Phya Phahol Pholphayula Sena) 國防參議「ルアン、ヨーン」(Luang Phulalongkorn) を捕へて人質とし内務參議「ルアン、プラキニット」(Luang Pradit Manudharm) を捕へて是を殺害し各外國公使館を警衛する一方政府各部署の事務所を占領し是に抵抗を試むる官吏は總て之を處刑して政府を顛覆したる後昭和八年秋「プリンスボワラデート」の内亂に加擔して投獄せられたる者を釋放し現皇帝を退位せしめ攝政「プリン、スプーテイット」(H. H. Prince Adityaqib Ahha) 八月十二日攝政首座(アマワット) 親王薨去せられたる後首座となる(外務省及國務院顧問「ブロンヌマンノイナブ」(H. S. H. Prince Varnvaidyakara Voravan) 及其の異母兄内務省顧問「ブロンヌサナン」(H. S. H. Prince Sakol Varnnakara Voravaha) 等其の一族を盡殺し然る後先帝「プラチャディボット」(King Prajadhok) の復位を奏請し若し容れられずんば王制を廢し共和制を採用する等の計畫を爲したるものなり、本件に關し特別裁判所は被告十三名全部に對し一先づ死刑を擬したる後本件取締に當り犯行を自白したるもの及罪狀に酌量の餘地有るものは夫々規定に従ひ減刑したるが被告中一名は頑強に終始犯罪を否認し續けたるを以て遂に

死刑の言渡しを受けた次第なり。

尙ほ本件被告等の計畫中攝政首座「アマワット」(當時は生存し居られしなり)に觸れずして攝政次席の「アーティツト」を殺さむとしたる事情は不明なるが、兎も角「アマワット」殿下の念死に當りて同殿下が本件陰謀事件に關係したりとか又は他殺なりし等の風説生じたるは右の事實に由るものなるべし、又本件關係軍隊にありては事件發覺以來兵士の外出を禁じ死刑執行後に至りて漸く之を解禁せる由にて多數兵士の逮捕説の傳はりたるが之が爲めなりしならん、更に又本件の如き大陰謀が十數名の下士官のみより計畫せられたるものにして背後に何等の勢力をも有せざりしとは受取り難き所なるが判決は何等其の點に觸るゝ所なく事情未だ明かならず。

(「バンコクタイムス」の掲載したる本件判決書の英譯文當協會に接し保存し居るも頗る長文なるが爲め茲に之を掲載せず)

○第三回臨時憲法發布紀念日行事に關する件

革命政府成立以來滿三ヶ年や其の基礎漸く鞏固ならんとし居るやに見受けらるゝ處六月廿四日は當國政治史上記憶すべき第一回クーデターの三週年紀念日に當り同廿七日は先帝ブラヂヤデイボツク陛下が臨時憲法草案に署名せられたる紀念日に當るを以て二十三日夜以來大體左記プログラムの通諸種の催し行はれたる處政府に於ては此機會を利用して國務總理以下各紀念放送を行ひ政府の爲し來れる諸施設並將來の方針に付國民一般に訴ふる所ありたり尙右は政府の大體方針を知る上に於て好個の參考と思考せらるゝに付左に各要譯を添附す。

一、六月二十三日(日)夜サラロム御苑内の國民黨俱樂部(People's Party Club)主催の晚餐舞踏會あり國務總理兼外務參議ビヤバホンを始め内務參議ルアングブラヂイット、國防參議ルアングピボン、國務院無任所參議兼國務院書記

官長ルアングタムロンダ其他の國務參議及在整の人民代表會議議員等多數出席せり。

尙當日發行の各通字新聞は筆を揃へて「當日は當國政治上最も記念すべき日なるも未だ盛大なる公式行事を舉行して記念すべき日には非ず國民一般が我等が革命精神の眞義を靜かに反省し恭謙以て記念すべき日なり」との趣旨の論旨を掲げたり。

二、六月二十四日(月)當日は各新聞は休刊して祝意を表せり政府に於ては當日議會事堂前廣場に於て一昨年十月の内亂事件に際し現政府側に援助を供與したる各方面の遜人労働者及農民に對し總理列席の上記念メダル授與式舉行せらるゝと共に總理は官邸より記念放送を行ひ「立憲政治下に於ては議會に依る國政參與は必要にして右は毫も皇帝の尊嚴を傷ふことなく議會の存在することに依り却て皇帝は國家の首長としての地位の安泰を期し得らるべきこと、西歐文明との調和を計る爲政府は着々改革を行ひつゝあり右改革の成功を期する爲めには國民黨の掲ぐる六大原則に據るを要する處先づ第一着手として右原則の一たる完全なる獨立の理想實現の爲法典編纂を完成し現存條約のラインに則り他國との間に於ける平等其他各般の方面に於けるフェヤーブレイを獲る爲必要な準備を行ひ居れること茲に國防教育及經濟等の方面に於て政府が前記原則に依り大に努力し居ること等を強調し最後に將來益々國民の團結の必要を要望した。

三、六月二十五日(火)夜前夜の國務總理の記念放送に引續き國務參議兼國務院書記官長ルアングタムロンダは左記要譯の記念放送を行ひ立憲政治確立上尙前途幾多の困難横はり居る旨を説き國民の協力を求め居れり。

四、六月二十七日(木)夜内務參議ルアングブラヂイットは記念放送を行ひ過去一年間に於ける内務省の治績に付詳細なる報告を爲した。

尙同夜八時國務院總理兼外務參議は外交團、暹羅政府備聘外國人顧問及暹羅人高官一同をミサカワンガーデンの晚餐會に招待し晚餐後引續きミサカワン劇場に於て暹羅演劇ラコーンの鑿應ありたり晚餐席上國務院總理兼外務參議より外交團及顧問に對する挨拶あり右に對し我矢田部公使は外交團を代表し答辭を述べ尙主席顧問ルネギモン (Rene C. Guyon) 佛人、司法顧問) よりも答辭があつた。(矢田部公使及佛人顧問の挨拶は之を略す)

昭和十年六月二十五日ビヤタイ放送局より放送せる國務院無任所參議國務院書記官長ルアングタムロング紀念演說要旨

政府最高の方針は常に我國をして各方面に進歩發達せしむることである爲政者としては萬事を深慮深く慎重に處理すべきである立憲制度採用以來既に三年の歳月が流れたるが未だ漸く其の緒に就いたのみで國事益々多難である、外難防禦乃至維持の問題にせよ財政、經濟、教育及社會問題にせよ種々の障礙を打開せねばならぬ必要な資金の缺乏せりと、知識、技術或は機械の不足、對外關係上の困難及條約拘束等は吾人の克服せねばならぬ主なる障礙である予は政府の立場を言譯せんとして右の事情を語るのではない。吾々は政體變更以來相當の成績を擧げてゐるは事實である一例を擧ぐれば立憲新政府は僅々三年間に財政の均衡を圖り相當の保證準備金も保有し借款の返済を行ひて財政上經濟上の改良をなしたことは何人も否定しないことである。

新暹羅の發展計畫を實行する爲に充分必要數の人材を得られないことは最も遺憾な事實であるが一方より觀察せば此の事實は政體變更後起りたることなる故爾來如何に吾等が覺醒し各方面に於ける國家及國民の進歩發達に努力し來つたかを物語るものである昔時の暹羅に於ては決して今日の如く人材の拂底を痛感しなかつたのである。

茲に於て文部當局に於ては教育の普及發達に全力を傾け又官吏を外國に派遣し多數の留學生を送り着々と時代の要求に應ずる人材の養成を期してゐるのである。我國が他よりの拘束を蒙り居る状態に付て吾等は決して徒に悲觀すべきではない既に徐々として羈絆より脱することに成功してゐるのである、乍然古來より實力不足に起因して蒙りし羈絆より完全に脱することは非常なる難事である國民は逡巡することなく政府と協力一致して總べての困難を克服して進まねばならぬ、政體變更後日向淺き新國家の前途には當然數多の難關が横つてゐることは國民も既に覺悟をしてゐることと思ふ國民の團結と弛まざる努力が先づ必要である云々。

昭和十年六月二十七日夜ビヤタイ放送局より放送せる内務參議ルアンプラディット紀念演說要旨

本日は臨時憲法發布後滿三年の紀念日であり昨年予が諸君とラヂオにて語つて以來滿一年である年々立憲暹羅が進歩發達して行くのは一に國民諸君の努力の結果である。

國家の發展に付國民の團結が如何に必要であるかは去る二十四日總理が既に語られ更に將來國民が一致打開すべき障礙の多々あることに付ては二十五日國務院書記官長が語られたのである、國家の生命の繁榮を圖る爲には國家の四肢たる國民の完全なる一致團結を圖らねばならぬこと勿論である。又書記官長の言の如く新立憲國に適應する立派な人材を養成することは當面の急務である羅馬は一日で成らず吾人は先づ國家の基礎となるものを確實にすることが大切である内務參議として革命の六大原則に據る過去一箇年の吾等の努力の結果を報告せば大體左の如くである。

一、獨立の原則 司法上の獨立に付ては民商法第五篇親族法第六篇相続法、民事訴訟法刑事訴訟法及裁判所構成法等既

に議會の協賛を経本年十月より實施の筈であり目下諸外國と交渉中である政治的及經濟的獨立に付ては政府に於て眞に確固たる獨立の要素の充實に努力邁進中である。

二、革命の第二原則たる治安維持の成績亦良好で重罪刑事々件の數は非常に減少した(統計を擧げ居るも省略す)檢察及監獄施設にも著しき改善を見特に囚人セツルメントの建設教誨及囚人職業教育等に付ては政府は大に努力を拂つて來たのである。

地方自治制の實施も着々として行はれ近く各地に縣會(Changvat Council)も開會せられ盤谷、チェンブマイ、トンブリの如き人口稠密の地方には市制を施き其他の重要地方には徐々に郡制村制の適用を擴大する爲既に必要豫算の協賛を得て居るのである。

公衆衛生に付ては政府の豫算以外富籤收入及篤志家の寄附金等により數ヶ所に公衆病院の設立を見其他各地方に病院を建設することに付ては銳意努力中にある(各縣に於ける具體的計畫を説明す)多年の宿望であつた公衆衛生法傳染病法等も公布され當局及醫師會協力して國民の健康増進を期して努力中である。

行政上重要な土木事業に付ても著しき進歩を見重要地方國道の中既に一部は完成し其他は工事進行中なるもの多數あり更に本年の豫算を以て工事に着手する國道多數あり(國道建設計畫を説明す)

特に盤谷及トンブリ住民の爲内務省は暹羅電力會社と交渉の結果本年より除々に電燈料其他を値下をなさしめることに成功した。

其他の治安維持に付ては警察當局以外軍人の協力を得て完全なる治安の維持を計ることを得たことは我等の大に喜ぶところである。

三、次に第三の重要問題たる經濟政策に付ては後日當該官憲より詳細なる説明がある筈である。

四、第四の平等權の原則及第五の臣民の自由權に付ては既に憲法の明文を以て保障され居る外右に抵觸する法律勅令其他は總べて政府により廢棄せられたのである。

五、第六の教育の原則に付ても政府は最善の努力を拂ひ地方の公立學校の數も激増し尙前政府が地方より教育振興費として借入れたる借款を現政府は各地方に返却し各地方をして地方自治制の發達に適應する地方教育の普及振興を圖らしめ且適當なる補助金を交付する等極力救助を吝まないのである。

要之憲法政治第三年の成績は以上の如くで我等の能ふ限り良好なる實績を擧げたのである。將來益々努力して國家の進歩發達國民の幸福増進を圖る爲國民一般が我等の憲法に對して忠實であることを切望する、憲法を愛すること即ち立憲暹羅の生命を恒久ならしめる所以である云々。

○佛曆二千四百七十八年度暹羅國通常議會開院式に於ける

攝政教書送付の件

佛曆二千四百七十八年度暹羅國通常議會開院式八月一日舉行されたる處、當日各攝政臨場して攝政首座アマワット殿下(H. R. H. Prince Anuvatanā)は皇帝の名に於て別記譯文の通教書を朗讀して開會を宣せられた。右教書は政府各般の施設に付概括的なる説明を與へ居れる處就中(一)皇帝陛下は親しく國民と御接觸あらせらるゝ爲め本年中には御歸國の御希望なること竝に(二)從來未完成のまゝなりし各法典は前議會に於て全部成立發布を見たる處一方諸外國との條約は殆んど全部改縮期に入り居れるを以て政府は完全平等の條約を訂結する爲め改縮交渉を開始するの機會を俟ちつゝ、

あることに言及し居れるは最も注意すべし。

五〇

B、E、二四七八年通常議會開院式に於ける攝政の教書

議員諸君

B、E、二四七八の通常議會開會の盛典に當つて本員は國王陛下が常に變り無き御健康で在らせられ、今年中には首都御還御に依つて國民と相見え、且つ元首と國民との個人的接觸の機會を愈々多からしめんと企圖あらせらるゝを告ぐるの光榮を有する次第であります。

國王陛下の政府がB、E二四七七年九月二十二日に聲明したる政策を忠實に實行致して居る事は申す迄も無く、諸外國との國際關係はあらゆる點に於て益々親善を加へつゝあるは慶賀す可き事であります。

例の六大主義についてはその中の權利の平等と自由主義とが既に我國の憲法の條章中に確實に規定せられて居る事は今尙改めて申す迄もありません。

又獨立の主義については議員諸君の努力と勤勉の結果殘餘の部分は法律の規定として公布せらるゝに至りました。而して時恰かも諸外國との間に現存する諸條約は何れも満了の期に達して居るのであります。従つて政府はこの機會に於て全然對等の基礎の上に適當の時期に於て諸條約の改正を企て、居る次第であります。

裁判の獨立を確保し、判決の適正を期する事は判事の地位の安定に俟たねばなりません。従つて此處に新裁判法の公布を見た次第であります、これに依つて司法行政に一步を進める事となりました。

尙軍事上の點に關しては議會の協賛を得た豫算の御蔭で陸軍海軍並に空軍は國家の平和と安全を保つ見地より防禦軍

としての地位に適したる十分の威力と安全性と確保するに至りました。

國內の秩序維持に關する原則としては政府は犯罪の豫防並に阻止の目的を以て諸種の施設を行つたのであります。その結果著しき成功を収め重大犯罪數が非常に減じた事は明かなる事實であります。従つてB、E、二四七六及び二四七七年度の初期に於て横行して居た諸犯罪は今日影をひそめたと申すも過言では無いのであります。

又都市に於ける自治制については政府は既に準備的の地方議會制を制定し、各縣に於てはそれ〴〵縣會の開催を行ひ且つ各都市よりは縣會に市政監督を派遣してその議事に参加せしめたのであります。當政府としては現在の地方衛生局を市政管下に移管せしむる可く着々歩を進めて居るのであります。

國道に於ては地方衛生局に對する援助或は公益事業監獄行政公衆衛生等に關する自治體の援助として豫算の許す最大限度に於て本事業は擴張されつゝあるのであります。各縣に於ける本事業に關係の諸氏は既に各地に國道が建設されたのを目撃された筈と思ひます、のみならず電力供給所も建設され、電力安價供給の契約も出來上り、病院並に療養所も又これ等に附隨する醫員訓練の道もそれ〴〵備つて居る事を御覽の事と思ふのであります。

のみならず地方行政をして更に一層有効にして且つ廣汎なる共同力に依りて施行せしめんとしたため地方委員會を召集しバシッコクに於て既にその會合を遂げましたが、同會合は所期の目的を十分に達成したものと見られて居るのであります。次に經濟に關する主義については政府は既定の方針と方法に基いてその活動を繼續し且つそれを擴張して參つたのであります。農業及び漁業についても政府は家畜の繁殖と飼育とを奨励し、植物の害虫驅除並に植物の疾病撲滅の手段を講じ、稻の種子を配布し、他方各縣に農業展覽會を開いて斯業の發達に資したのであります。政府は更に進んで護謨の制限を實行し、國際協定に於てシヤム國の得た四萬噸の配分率に止むる策を執つたのであります。政府は又綿花栽培の

五一

準備を進め、その他胡椒、煙草及び黄麻等本邦の國土に適したる植物の調査をし、且つ漁業の目的として沼湖の利用可能なるや否に就ても調査を進めたのであります。灌漑事業は既定の網領に従つて進められ、運河の如きも開墾し又は浚渫して水深を深めたのであります。鑛山に關しては或る地方の鑛山探堀權は擴大され、森林業については森林の専門學校設立の準備が進められて居ります。又産業組合組織に關しては此種の組合又は協會が既に各縣に設立さるゝに至つたのであります。

鐵道についてはコンカエン、ウドン間の鐵道建設は着々歩を進め、郵便及び電信關係では盤谷市に於ける電話を自動式たらしむ可く工事に着手し、無線電信竝に郵便貯金等も益々その運動を擴大し港灣事業に於ては水先案内業を統一し船舶登録を擴張し、民間飛行は各所に於ける着陸地點の建設を開始したのであります。科學については農業の目的のために農業水産省が共力一致の歩調を執り、商事登録省は標準度量衡の適用を次第に擴張せんとして居ります。商業に關してもトレード運動は嚴重に監視され且つ今や組織を改めんとして居るのであります。

教育の主義に關しては初等教育は各地に於ける地方學校設立の結果著しく擴張され、中等教育は規定に適合さす可く學科の改良を行ふ一方それと並行して教科書をも改正する手段を講じて居るのであります。職業教育に關しても同様各方面に著しき進展を示して居ります。農業教育方面では各縣に新しき進展をなし、商業教育に於ても數縣に新校を開設したと云ふ實狀であります。又高等教育方面について云ひますならばチュラロングコーン大學及び德育竝に政治大學は最近組織を改めてその標準を文明諸國のそれと匹敵出来る迄になつて居ります。體育の方面も又組織を改め該方面の教育に適切で且つ重要な効果を齎らす様仕組んであります。従つて本教育は目下身體訓練、諸種の運動競技、學校衛生、少年團、少年赤十字活動、竝に軍事教練等の諸部門を包含して居るのであります。これに依つて青少年を訓練陶冶し

同時に將來の體育教師の養成に資し且つ國家體育場の建設の氣運を生み出さんとして居るのであります。宗教省の仕事としては宗教的問題を保護し且つ佛典の研究及び國民の道德教育等を大に助長したのであります。美術については美術學校の活動は盛んになり殊に考古學的趣味に富む地方に關する諸活動、美術品及び考古學的物件竝に國家博物館に對する運動等は益々助長されつゝあるのであります。同時に各地に中央圖書館の分館設立に關する諸運動もこの中に含まれて居る事は申す迄もありません。

以上述べたる諸施設が實行に入るのは一に人を得る事と二には必要な財源を得るにある事は申す迄も無いので従つて國民全體の支持を得なければならぬのであります。

官吏の職務と官吏自身の標準を所期の點迄上げる必要上官吏の地位を整理する事が必要であり又一方には各省をして十分に仕事の能率を發揮せしむ可く行政組織の改善を斷行する事は非常に必要でありまして目下政府はこれに關して尤も慎重なる注意を拂つて居るのであります。官吏の訓練に關し及び官吏たらんとするもの、訓練に關しては前述の二大學が所要の標準迄その程度を向上せしめて居るのみで無く多數の獎學金が用意してありますから官吏にしても在學の學生にしても更に海外に於て研究を進める目的を以て獎學金獲得の競争に参加するの機會が與えられて居るのであります。財政の點に關しては我國の財政的地位は強固であると云ふを得るのであります。従つて政府が豫算を提出した時、諸君は國民の進歩發達をこれに依つて確保する意味よりして好意ある考慮を與えられたのであります。本員はこの點に關して議會全議員諸君に滿腔の感謝を表する次第であります。

この目出度き時に當り攝政參議會は國王陛下の名に依つてB、E、二四七八年の通常議會が此處に開會せられた事を宣言致します。庶幾くば三種の寶石の惠深き保護と宇宙の神聖不可思議なる威力に依つて本議會の議員各位が我が國と

我が國民のより大なる繁榮と進歩發展との爲に審議協贊の任を盡されん事を希望して止まないのであります。

五四

○暹羅新皇帝陛下御踐祚に付暹羅協會よりの奉祝電報轉達往復

暹羅新皇帝御踐祚當時近衛當協會長より在暹帝國公使館經由暹羅國務總理へ祝電を發せられたることは會報第一號に記して置いたが過般矢田部公使より右祝辭は當時左の通り轉達方取計を了せられた旨の委曲報告に接した。

一、三月十四日附在暹矢田部公使發暹羅外務參議宛書翰譯文

以書東啓上致候陳者本使は貴國皇帝陛下御踐祚に付日本暹羅協會々長公爵近衛文麿閣下より深厚なる祝意を暹羅國務總理閣下に傳達せられたき旨の左の電報を接手致候に付茲に右御通知申上候 敬具

電文「アナンダマヒドル陛下御踐祚に付シヤム協會を代表し謹んで御祝辭を呈す 公爵近衛」

二、三月十八日附暹羅外務參議發矢田部公使宛書翰譯文

以書東啓上致候陳者本官は皇帝陛下御踐祚に付日本暹羅協會々長公爵近衛文麿閣下より深厚なる祝意を國務總理に傳達せられたき旨貴官へ電報を以て御依頼相成りたる趣三月十四日附貴翰御來示の次第敬承致候

本官は依て貴翰の趣直ちに之を國務總理に轉達を了し候事を貴使に申上且本官は國務總理の名に於て會長及暹羅協會の厚意に對し深甚なる感謝と満足の意を暹羅協會々長閣下に傳へられんことを貴使に御依頼申上候 敬具

○暹羅國攝政會議長アヌフツタナ殿下薨去に付當協會より弔電發送

暹羅國攝政會議首座「アヌフツタナ」殿下は去る八月十三日盤谷に於て突然薨去遊ばされた趣承知せし故近衛本會々長より翌十四日左の弔電を外務省經由發送した。

左の通り暹羅國國務總理に御傳達を乞ふ

攝政會議首座「アヌフツタナ」殿下御薨去の趣拜承茲に暹羅協會を代表し謹んで深厚なる弔詞を捧ぐ。 近衛

在暹矢田部公使殿

右に對し暹羅國々務總理ビヤ・ホン氏より深謝の答電が在東京暹羅公使館經由で本協會近衛會長に通知あつた。

○暹羅國攝政會議首座任命並攝政會議補充

暹羅國攝政會議首座「アヌフツト」殿下 (H. R. H. Prince Anuvartana) 薨去の爲缺員となる攝政會議補充は八月二十日の人民議會に於ける決議に依り現に同會議の一員たる「アヌイット」殿下 (H. H. Prince Aditya) を同會議首座 (President of the Council of Regency) に又「チャオ・ピヤ・ビチャヤンマ」大將 (General Chao Phya Kijyendra Yodhin) を同會議の一員に任命した旨正式に發表した。從て新攝政會議は左記三名より構成せらるゝのである。

一、「アヌイット」殿下 (首座) (H. H. Prince Aditya)

二、「チャオ・ピヤ・ヨラート」(Chao Phya Yomraj)

三、「チャオ・ピヤ・ビチャヤンマ」大將 (General Chao Phya Bijiyaendra)

尙議會に於ける決議經過を見ると最初國務總理「ビヤ・ホン」を推薦する者あつたが國務總理より受諾の意思なき

五五

旨を述べ一官撰議員より「ピチャエンドラ」大將推薦意見出で國務總理右意見を支持し結局其の任命を見るに至つたもので右官選議員の同大將推薦發議は政府との打合の上なること勿論にして右に付外務參議の説明したる所に據れば攝政候補者は先づ國務院にて決定したる者に就き官選議員一同の同意を経て更に現任攝政二名の同意を求めたる上之を議會に提出するの手續を採りたるものとことである。

同大將は既報の通元侍從武官長にして去る昭和六年先帝「プラチャダイボツク」陛下の本邦御訪問の際隨員となり勳一等旭日章を贈與せられたることもあり我國に對しては深き理解を有し、邦人に對して常に好感を表示して居る人物である。

○暹羅國國務院改造

暹羅國々務院改造は八月一日附官報を以て發表せられ新國務院は左記所載の顔觸を以て構成せられたが政府は其の翌二日の人民代表議會に於て憲法の條規に適ひ新國務院に對する信任投票の動議を提出し論議の末二十四票對八十票の多數を以て信任決議を通過した。右議事に當りて主として論議せられたるは、海軍軍令局長海軍大佐ルアンシン (Luang Srinha Sangnam) が全く無經驗の文部參議に任せられたること、文部參議ブラサラサが教育行政上の今日迄の經驗計畫を犠牲として農務に轉ぜること並に信任投票は新國務院が其の政綱を議會に提出したる後に於てすべしといふことの諸點であつたが後者に付ては總理は從來の政綱に何等變更なしの旨を以て突張り文部農務兩參議の問題も特に之を不適任とする積極的の理由はなかつた様だ右の外大藏省附無任所參議ピヤ、マハイ及び外務參議ピヤ、シー、セナーの人物

物閱歷に付て質問を發したるものあつたが右は兩人が一部議員間に熟知せられ居らなんだ爲で新外務參議は從來内務官吏を以て終始し毫も外交官の經歷を有せざる人物なるに拘らず何等問題とならず一議員の如きは同參議の地方官としての治績を賞し同參議の選任は總理の爲めに慶賀すと陳述したるものもあつた。

之を要するに今回の國務院改造は大藏參議ピヤ、マナワラートセーウイが前議會(本年三月會期終了)終了後健康上の理由を以て請暇し司法參議ピヤニテイ、サートバイサン (Phya Nisastara Baisitja) 次でピヤ、ホン總理臨時に大藏參議の事務を兼攝し居つた處愈ピヤマナワラート辭任方決定したること、新年度に於て農務省新設せられ差當り經濟參議をして其の事務を臨時兼攝せしめ來り今回新に農務參議任命の必要なりしこと並に昭和八年十二月國務院の機構中に加へられたる宮内省を廢止して一局とすること爲りたること(右は新帝未成年の間は小規模の宮廷事務局を以て足ると認められたるに由る)の外一二無任所參議の辭職者も之れありたる結果に由る次第で從て今回の改造に付ては格段なる政治的の意義は無之もの趣である。

新國務院

總理兼大藏參議

陸軍大佐 ピヤ、ホン、ホル、ブニヤ、セナー
Colonel Phya Phahol Pholphyunya Sena

(總理如故、外務參議兼任を免じ新に大藏參議兼任となる、官選議員)

外務參議

ピヤ、シー、セナー
Phya Sei Sena

(新任、内務次官、盤谷副市长、チャンタブーン州ブケット州總督等を経て再び内務次官となり今日に至り居れり)

農務参議 Phra Sarasana Prabanh

(文部参議より轉任、官選議員)

文部参議 海軍大佐 ロアン シン ソン グラーム チャイ
Captain Luang Sindhua Saengrajaya

(無任所参議より新任、國防省海軍部軍令局長、經濟省港務局長兼任如故)

司法参議 Phya Nitissar Baisanya

(留任、官選議員)

經濟参議 海軍少將 シヤン ラエ ユット セーニ
Rear Admiral Phya Sorayuth Seni

(留任、官選議員)

内務参議 ロアン プラチット マヌータム
Luang Prachit Manutharm

(留任、官選議員)

國防参議 陸軍大佐 ロアン ピブリン グラーム
Colonel Luany Pibul Songgram

(留任、官選議員)

無任所参議 Phya Mahai Svarna

大藏省附 (新任、元大藏省管財局俸給局長)

ロアン コビー フン イオン
Luang Kovid Abhayawongs

(新任、現郵電局長、官選議員)

陸軍中佐 ロアン チヤム ナン ユタシン
Lt-col Luang Jaman Yuthasitpa

(新任、現第一軍管區司令官、官選議員、昭和九年渡日將校團の一人)

ロアン ナート ニチター
Luang Nathitchada

新任、辯護士、元判事、チャヤブミ選出議員、本年五月渡日議員團の一人)

海軍大佐 Phya Wicharn Chokritch

(新任、現國防省海軍部長、日本留學出身)

警察大佐 ロアン アダル チャラット
Police Colonel dung Adulcharat

(新任、現警視副總監)

陸軍大佐 Phya Ahaya Songgram

(新任、現國防省陸軍部参謀局長)

ブラドゥルヤターン プリチャワイ
Phra Dulyatharn Pijawada

(留任、辯護士、元判事、チェンライ選出議員)

海軍少佐 ロアン ダムロン ナワサワット
Lt-Comdr. Luang Damrong Nawasawat

(留任、國務院書記官長如故、官選議員)

海軍中佐 ロブソン スンチャヤ
Commander Luang Subhajalasaya

(留任、文部省體育局長如故、官選議員)

クンサヤヘーン ヒタカデー
Khun Samahar Hitagadi

(留任、盤谷選出議員、昭和十年春來日せし人)

クンソーン タサイ ソク サローン
Khun Sugondavib Sukshakor

(留任、サムットサコン選出議員、昭和十年春來日せし人)

プヤ スリヤヌワット
Phya Suriyannuwat

(留任)

以上二十一名

○暹羅國外務省米國人顧問任命

當國外務省米國人顧問レーモンド、ステイヴンス (Mr. Raymond B. Stevens) 本年二月契約期間満了を機會に退任歸國後暹羅國政府に於ては依然米國人顧問を備聘する方針の下に後任者物見中なりし處今般同國政府は米國人フレデリック、トルベヤー (Mr. Frederick R. Dolbeare) を外務省顧問として備聘することに決定既に國務院の承認を経たる趣にて九月初着任の豫定であつたから最早今日頃は着任したるならん。

尙同氏は一八八五年ウイスコンシン州に生れ一九〇七年エール大學卒業後暫く教職に就けることあり外交官勤務に入りたるは一九一四年にして爾來英、獨、澳、瑞西、波蘭、土耳其等各國に歴任、一九二八年在加奈陀米國公使館參事官を最後とし外交界より引退せるものなり。

○駐暹英國公使の賜暇歸國

盤谷駐在英國公使サー、ジョシア、クロスビーは去る四月中暹羅北部地方スコタイ方面を旅行中發病。爾來盤谷にて靜養中なりし處其經過渺々しからず依て賜暇歸朝することとなり五月廿二日出發歸國の途に就きたる趣なり、同公使はステュデントインクアプレターとして青年の時英國より暹羅に派遣せられ爾來殆ど三十年間暹羅及海峽植民地地方に駐在副領事領事館領事等に歴任して現に駐暹英公使に就任したる人にて、暹語を操ることに暹羅人同様で頗る疎腕家の聞えがあるが同時に最近日暹の親善關係が著しく増進して來たのに對し尠からず神經質になつて居るとの評判もある人だ。

○在暹英國公使館附海軍武官任命

從來在暹外國公使館中海軍武官を常置し居るものは我國の外は佛國のみなりし處 (佛國は陸軍將校が海軍武官を兼任す) 此程英國政府に於てはジョージ、ローランド、アレン中佐を同國公使館附海軍武官に任命せる趣。

○財務顧問辭任歸國の件

六二

暹羅政府財務顧問英國人 *James Paxler* は昭和七年九月着任した人であるが本年九月を以て滿三ヶ年の契約期間満了に先ち七月初め辭任同卅一日出發歸國した其の後任に關しては政府當局の言ふ所に據れば未だ何等決定し居らざる由なるが多分英國人を雇備することゝなるべく察せらる尤も外務省顧問プリンス、ヴァンヴァイデイヤは右に關して從來財務顧問は政府顧問にして省顧問にあらず最高の地位を有するものであつたが今後雇入ることあるべき財務顧問は其の地位報酬を低くして大藏省顧問たるに過ぎざるものとする考へなりと云ふて居る。

○暹羅内務參議外遊

暹羅内務參議「ルアン、ブラジツト」氏は先般歐米及日本に視察旅行の目的を以て整谷を出發したが右外遊を以て内務參議と現政府の大立物ルアン、ピブン國防相との不和の結果に歸し甚しきは内務參議は外遊の名の下に體よく中央政府より追放せられたるものなり杯のデマも飛び居れるが之に關して暹羅政府よりは何等具體的の發表なく又同氏自身も多くを語らずして巷間の揣摩臆測裏に出發した觀があつたが出發後去八月中旬頃新嘉坡通過の際同市英字紙ストリートタイムズ記者との會見談に於て同參議は追放風説を強く否定した後大要次の如く語つた。

一、余は先づ瑞西に赴き同地にて御勲學中の「アナンタ」幼帝に拜謁したる後更に英國に赴く筈にて英國にては「ブラ

チヤテイボツク」先帝に謁見の上諸種の重要問題に關し商議したき考へなり。

一、余は歐洲一巡後米國及日本を經由し六個月以内に歸國の豫定なり。

一、内務參議たる余が重要外交使命を帯びて外遊するは外務參議が政治的「デイスカツション」に經驗少きが爲にして余は「ビヤ、バホン」總理並暹羅政府に對し全幅の信頼を置き居り一方余も總理並政府より信頼を受け居れり。

一、現在國內には格別有力なる反政府的運動あることなし現政府は一般の信頼を受け居り國內の安定と平和維持に成功すべきことを確信す、而も現政府は決して獨裁的にあらず、攝政會議は憲法上の機關として實力を備へ居り、「フアシズム」又は軍人獨裁の如きは暹羅に於ては考へ及ばざる所なり。

一、各國との修好通商條約は何れも近く期間満了となるに付ては完全なる平等を基礎として改訂せらるべきものなり。

一、暹羅が將來日本に特惠を與ふべしとの説あるも右は事實ならず吾人は尙歐羅巴に依存すべきもの少からず今予の旅行も歐羅巴を先にする所以なり。

因みにルアンブラジツトの日本着は多分來年一月中旬頃と想定せらる。

○本邦駐在暹國陸軍武官任命

暹羅政府は豫て本邦に陸軍武官を駐在せしむる意嚮を有し居た處先般バンズン步兵隊第六聯隊大隊長にして現に人民議會第二種議員を兼ね居る歩兵中佐ルアン、マロモータ (*Lt. Colonel Luang Vira Yota*) 並に補佐官として參議本部附步兵大尉ワードコンカム (*Captain Vira Congum*) を夫れく研究員の名義にて本邦に派遣するに決した右兩將

六三

校は去五月末本邦に着任せり。

因に本年二月着京引續き我が國に留學中の同國陸軍將校學生の官職氏名は次の通りである。

暹羅國陸軍將校學生官職氏名

工兵大尉	Iuang Chalernsakdhi sogram
通信大尉	China Nolsaiha
騎兵大尉	Iuang Lahnberiehi
砲兵大尉	Vong Soravidhya
歩兵大尉	Khun Roupporpak
主計大尉	Khun Suran Surasakdi
通信中尉	Thonghun moongtham
騎兵中尉	Larp hasaditra
工兵中尉	Fuen Auhodhin
砲兵中尉	Krasse Booy Subadhana
歩兵中尉	Sahab Vonarhindu
主計少尉	Prang Vijira Bhakdi

是等留學將校は我陸軍の韓旋に依り來朝早々夫れく在郷軍人將校の家庭に宿泊して専ら日本語の學習に勉めて居た

が一通りその學習を終つて此程夫れく近衛聯隊其他の隊附きとなつて實務の教練に従事することゝなつた。

○暹羅國皇帝陛下御歸國豫定

目下瑞西「ローザンヌ」に御滞在中なる暹羅國幼帝(十一歳)アナンタマヒドン陛下本年中に御歸國有之べきことに關しては去八月一日通常議會開會式に於ける攝政教書中に言及せられたところであつたが同國外務省當局の漏らしたるところによれば陛下は丁抹國イーストアジアアチック會社船にて來る十二月十日盤谷着の御豫定なる由尙御歸國の上は恒例による齋戒式の外信佛宣誓式(憲法の規定に依り皇帝は佛教信者たることを要求せらる)を行ふ筈にて其他祝賀に關するプログラムは未だ決定し居らず又皇帝は議會に臨御あらせらるゝ筈なるも御歸國の當時は議會開會期にあらず従つて多分明年二月に入り臨時議會の開會を俟つて議會に御臨御の後再び瑞西に赴かせられることゝなるべしとのことである。

○暹羅國前經濟參議ブラサラサ着京

暹國前經濟參議ブラサラサ氏は客年九月下旬暹國議會が同年五月政府の調印加盟した護謄生産協定に對する批准を拒否した爲め國務院が連袂辭職を爲すに至る迄經濟參議たりし人にして豫て本邦の經濟狀態視察の爲め渡日の宿望を有し居たる處先般來爪哇スマトラ方面視察旅行の途中新嘉坡に至り急に同地より本邦に赴くことゝなり夫人(佛國人)及び當

歳の幼児を帯同し去九月五日三井物産汽船青葉丸にて新嘉坡出發同十六日東京驛に着せり協會よりは矢田理事及山口主事出迎ひたり。

六六

因みに同参議は曾て外交官として各地に在勤し公使館一等書記官を最後に官界を退き其儘佛國に滞在し居りたるが滯佛中内務参議ルアンブラジツトと肝膽相照らすに至つたものゝ如く同氏滯佛中は屢々「五五五」の匿名を以て盤谷暹字紙タイノムに寄書し專制政治時代の陋習殊に暹羅國の歐洲勢力に偏倚して目覺めざる限り國內の經濟開發乃至蒼生の幸福は庶幾し難しとの思想を鼓吹し居り昨年初歸國し同年四月上旬經濟参議として國務院に列したものだ。同氏は頭腦頗る明晰評論家としては天晴れなる力量を有することは自他共に許すところであるが尙ほ同氏自身は暹國經濟政策の確立及遂行には自己を措ては他に其人なしとの矜持を抱き居れるものゝ如く今回の渡日も約一年間滯在して本邦の經濟財政産業の各般に亘り徹底的の調査研究を遂げ其の結果を齎らして本國の開發再建に資せんとする決意頗る鞏固なるものゝ如く察知せらるゝ兎に角同氏は今偶々臺閣の外にあるもその前途は洋々たるものあることは確かなるが如し。

○名古屋日暹協會の設立

名古屋伊藤次郎左衛門氏の一方ならざる熱心と盡力に依つて暹羅國とは經濟上からも宗教上からも極めて密接の關係に在る名古屋に今回「名古屋日暹協會」が設立せられた。同會は日暹兩國親善の増進及文化の發達を圖るを以て目的とし先づ第一の仕事として暹羅國學生にして我が國に留學する者に對し獎學資金の給與其他修學上の便宜を與ふることとし、其の創立總會が去る六月二十日午前名古屋商工會議所で盛大に舉行せられた。當日の出席會員約三十名來賓

には駐日暹羅公使ブラミツトラカム、ラクサ氏、桑島外務省東亞局長、篠原愛知縣知事、大岩名古屋市長、岡谷名古屋商工會議所會頭、當協會山口主事等あり、同地暹羅名譽領事加藤勝太郎氏開會の辭に續いて經過報告を爲し推されて議長席につき議事に入り協會規則、留日暹人學生獎學要領の件を決定後役員選任に移り滿場一致で伊藤次郎左衛門氏を會長に推薦、會長の就任挨拶ミツトラカム公使桑島東亞局長篠原知事山口當協會主事の祝辭あつて閉會午餐を共にして散會した。目下の會員は約六十名あるが本年度には二、三名の暹羅學生を招致することとし其の人は在暹矢田部公使並に暹羅政府當局者の銓衡に一任し到着の上は同市で就學さす計畫との事である。同會と當協會とは其の目的趣旨を同ふするもので恰度兄弟姉妹の様な關係に在り衷心より今後の健在なる發達を祈る次第である、現在の役員は左の通りである。

- 會長 伊藤次郎左衛門
- 副會長 加藤勝太郎
- 名譽會長 駐日暹羅公使 ブラミツトラカムラクサ
- 同 駐暹日本公使 矢田部保吉
- 理事 名古屋市長、同助役、名古屋商工會議所正副會頭、名古屋駐在暹羅國名譽領事、名古屋醫科大學長、第八高等學校長、名古屋高等商業學校長、名古屋商工會議所理事、日蓮寺代表者
- 監事 安田久之助、増本敏三郎

○大阪日暹文化協會設立の企圖

六七

大阪に於ても豫て日進文化協會設立の計畫ある趣聞及び居りたるが、今回愈々其の實現に着手せられたるものゝ如く、此程關西日進協會設立委員總代として片岡安、榎並充造、安住伊三郎、安宅彌吉、森平兵衛五氏の名に依り各方面に對し左記の如き趣意書を配布し寄附金の勧誘中なる由なり。

冠者、近年我國と暹羅國との國際關係は日に月に親善を加へ來り我國の文化經濟を始め風俗習慣等百般の事情に關し研究の爲め來航する人士多数に上り居候加之同國に於ては近來日本語習得熱旺盛を呈し居候得共之が教鞭を執る人無之洵に遺憾に存居候折柄今春來阪神有志諸氏と屢々協議の結果關西日進協會を創立し先づ最初の事業として三名乃至五名の適當なる語學教師を同國に派遣し盤谷府に學堂を開き我國語を始め諸般の典禮風習等を教授せしめ以て彼我兩國一層の親善に貢獻致度存候。(下略)

名古屋といひ大阪といひ近來暹羅に對する關心の勃興に伴れ着々として日進親善の實際的工作の具躰化を見るに至るは大に人意を強ふる所である。

○暹羅少年團より日本少年團へ寄贈の象授受式

暹羅少年團より日本少年團へ寄贈の牝象二頭は六月三日神戸着の大阪商船バタビヤ丸にて無事到着一頭は直に大阪動物園に一頭は汽車にて東京上野動物園に運ばれた、其後同月九日午後二時より上野動物園にて東京市少年團日本聯盟及暹羅協會の三團體共同主催で盛大なる象授受式が行はれた、列席者は牛塚東京市長、重光外務次官、二荒伯、三島子其の他少年團役員加藤泰通子爵乗杉東京音楽學校々長其の他數十名を算した。式は先づ日進兩國の國歌吹奏に初まり井原公園課長の開會の辭あり右終ると暹羅少年團を代表し在京暹羅公使令息(十歳)が可愛らしい學習院制服制帽で登壇極て

ハツキリした日本語で暹羅少年團を代表して茲に日本少年團に象を贈るの挨拶があり之に對し日本少年團を代表し少年團中山光君の感謝答辭があつた、之れで兩少年團間の贈物受渡しを終り今度は此の象を東京動物園に贈ると云ふので二荒少年團日本聯盟理事長と牛塚東京市長間に受渡し挨拶交換があつた後當會矢田常務理事は暹羅協會より寄贈の象着一着を又少年團よりは象にバナ、其の他果物澤山を夫れく贈呈し東京市歌の吹奏を以て盛況裏に閉會した。其後象は暹羅より態々附添て來た暹羅人象使ひ手三名により園内廣場に引き出され各種藝當を爲し觀せたが從來の象と異なり能く馴れ居るので男女子供連の大拍手喝采を受け直ちに親しき御朋友となつた。當日は天氣快晴、初夏の日光を浴びて申し分なく一般參觀者何千名と云ふ盛況であつた、其後も參觀者連日大入りと云ふことである當日當協會は左記「暹羅の象について」併に「日進兩國少年團の友好關係」なる二題目の記事及別に繪ハガキを印刷し一般入場者に配布した。

東京市では此の珍客に附すべき日本名を一般より募集したところ應募者二萬餘人に達し審査の結果「はな子」と決定、六月十六日其の命名式及歡迎會を日比谷公會堂に於て舉行したが之れ又前の授受式以上の盛況であつた、其後「はな子」は至極健全をふして從來の象と違ひシャム以來能く馴らされて居る爲め或は參觀兒童を象の背に乗せたり各種藝當を爲す杯目下動物園の人氣を一人にて占領して居る有様である。

大阪の方も六月九日同市動物園で盛大なる象授受式を行ふたとのことである。

○暹羅の象について

象は性質甚だ伶俐で能く人語を解し、人の命令を聞きわけ之に服従すること極めて忠實である。其の體軀と力量の偉

大なることは實に家畜中の王者である。動物が往々超人的本能を有することは殆く知られてゐるところであるが、象に至りては此の本能が特に顯著である。深林の奥に於ても又曠野の間にありても、決して其の往くべき方向を誤る事が無い。加之能く吉凶禍福を豫感すると云はれてゐる、されば古代蒙昧の民は、象は摩訶不思議なる神通力を有するものと信するに至つた、印度では古代から象を神聖視して聖天(大聖歡喜天)として崇拜したもので、印度文明の感化を受けること最も多き暹羅人が象を崇拜するに至つたことは決して不自然でない。暹羅の善男善女は、象を佛陀の前身として崇め尊ぶ風がある。斯様に象は一般民衆から崇拜せられるのみでなく、又國家の法律に據りて保護せられることが厚い、例へば當局の許可を得ずして野象を捕獲したものは一年以内の禁錮又は八百銖以内の罰金に處せらるる方法の如何を問はず象を屠殺したものは三年以内の禁錮又は千銖以内の罰金に處せらる、更に又奇瑞を有する象を隱匿飼育し、之を皇室に奉獻する事を怠つたものは一年以内の禁錮又は五百銖以内の罰金に處せらる象に傷害を加へたものは十八ヶ月以内の禁錮又は五百銖以内の罰金に處せらる、昔は日本に於ても、春日の神鹿を殺して死刑に處せられたといふ物語もあるが、今の時代に家畜を殺して禁錮三年に處せられると云ふが如きは恐らく世界無類であらう。

暹羅人が特に神聖視する象には三種類ある。白象と亞白象と短牙象である、白象は其の中の最も優れたるもので、七つの瑞相を具備する。一は白眼、二は白頸、三は白爪、四は白毛、五は白皮、六は白尾、七は白鬚である、亞白象は白象の有する七種の瑞相の一部を備へたものである、短牙象は一に黒爪、二に黒皮、三に巴焦の花の形せる牙を有する雄象であるといはれる。

暹羅人が象を崇拜する念の強いことは、白象を以て其の國旗として居た事實によりても之を推察することが出来る。尤も今は改めて三色旗が採用せられて居る、白象の出現を見るときは、皇室も國民も國家の瑞兆として之を慶祝する、白象の飼育を民間に許さるゝことは前に述べた通りで、瑞相ありと認められる象が発見せられたときは、必ず之れを中央政府に報告せねばならぬ、宮内省からは直に専門の技術官が現地に派遣せられ、數ヶ月に亘つて嚴密な検査を行ふのである、検査の結果白象に間違なしと決定せられると、之れを盤谷に輸送して皇室に奉獻し、皇宮内の特別象舎で飼育せられることになる、その時には極めて重々しい儀式と賑やかな行列など行はれるので、それは恰も國王の公式鹵簿の如きものがある。

朝廷の御璽は白象の牙を以て作られる慣例である、現王朝の御璽も勿論そうであるが、今から丁度八十年前(佛曆二三九七年)に黄金の印璽を以て之れは代用する旨の勅令が發せられた。之れは牙印の磨滅を避けて貴重印璽を保存する爲めである。

暹羅では佛教僧侶の戒律が極めて嚴格であるが、破戒僧、殊に女犯の僧は、黄衣を褫奪して路傍にさらさるゝこと三晝夜の後、相手の女と共に象の飼料とする草刈の刑に處せられる、而もそれは終身刑である、破戒の罪の最も重い女犯の罰として、國民の上下が最も崇拜する象の爲めに草刈の役を課するといふこと、其の對照の奇抜なものには驚かされる此の習慣はつい近年迄行はれて居るのであるが、今は廢せられた。

象の眼中には山も無く谷も無い、象の向ふ所は林も何も皆一樣な道である、彼の巨軀を運んで泰然として樹木を倒して潤歩し又は沼澤を徒渉して過往する野戰に於ては大副將を載せて縱横無盡に敵の陣中に馳驅し攻城には底知れぬ其の大力で城壁破壊の任に當る、戰時に於ける軍需の運搬は勿論のこと、平時に於ても長途又は短距離の旅行にも貨物の輸送にも象ほど重寶で能率の上るものはない。今日でこそ文明の利器が利用せられ、鐵道も建設せられ、道路も築造せられるに至つたが爲に、平地に於て象が使用せられることは少くなつたけれども、往時交通不便の時代に於て、象が未開人

の爲めに重んぜられたことは想像の外であつた。暹羅人が象を大切にする觀念は、自然其の有用動物であるところからも来るものであると考へられぬでもない。今日象が最も有効に使用せられるのは森林の伐採作業に於てである。深林溪谷の間に於て伐り倒される、周圍幾抱へ、長さ數十尺にも及ぶチーク樹の運搬は象の偉大なる力に依るにあらざれば爲し得べきところで無い、處によりてはレールを敷設してトロツコに巨木を載せて牛にひかせる場合もあるが、その場合牛凡そ十頭位を要するの象ならば易々と鼻の力で溪流の側まで運んで行くのである、増水期に山川を流下してメナムの本流に達する迄には淺瀬もあれば大きな岩石もあつて多數の流材が處々に集結する、それを整理して流れに向はせることは、日本で木場入足がするやうに、嵩口突いたり引張つたりする程度のみやさしい仕事ではない、それは象の力を利用してこそ出来るのである、象は家畜でもあるが野獸でもある、飼育によりて蕃殖を計ると云ふ事も出来ぬではないが、同時に野象を捕獲して作業に訓練することも行はれる、野象狩は馬來地方ではゴム園を荒らす象を退治する爲に行はれることが時々あるやうであるが、暹羅では飼育訓練の目的で行はれる、象狩は十年乃至三十年目に行はれる、騎馬の卒伍が山野に陣列を布いて無数の象群を驅り出し遠巻に追ひ寄せて豫め設けた柵内に追ひ込むのであるがさりとて追ひ込められた象の全部を捕獲するといふ様な事は決してない。只其の中からは性質のよささうな幼象の何頭かを選んで捕獲するのである、政府の催す象狩は近年中絶したけれども地方に於ては森林作業其他の目的で官憲の許可を受けて小規模に象狩の行はれることがある、此の許可は縣知事か陸軍大臣の認可を経て之れを與ふことになつてゐる、全體暹羅にはどれ位の象の數があるか、野象は數が到底知り得べくも無いが統計年鑑の家畜統計に據ると一九三〇—三一年には合計九、五八二頭である、五年前には八、三八九頭、十年前には六、八一八頭であつた、毎年増加してゐる様である之は野象の捕獲の増加の爲めであるか又は年毎の調査の行届く様になつた爲めであるかその邊はわかつてゐない。

○日暹兩國少年團の交友關係

昭和四年の春のことであつた。少年團日本聯盟で暹羅の少年團を招ぼうといふ話が起り、時の暹羅協會理事長大倉男爵に相談すると男爵は非常に賛成され、費用を提供して援助しようといふことで招待の話は直ちに成立した。そこで、聯盟理事三島子爵は、急遽時の駐日暹羅公使と交渉を開始し、兩國間に同年夏期に暹羅少年團二十一名の來訪を得ることに決定した。七月下旬に暹羅少年團の一行はロアン・サナー氏を團長として來訪した。一行は神戸、大阪、奈良、京都、名古屋、東京、横須賀等の少年團と交遊をし、到るところ市民の熱誠なる歓迎を受けた。彼等は山梨縣笛吹川の東京聯合の合同野營に臨み、シャム少年團總裁陛下より我國少年團へ御土産として米を運ぶ牛車の模型を正式に寄贈され現に同車は帝室博物館に陳列されてゐる。この野營に秩父宮殿下には暹羅協會總裁の御資格を以て御台臨を賜つたのである。暹羅少年團は、之を無上の光榮として非常に感激したのであつた。

越へて昭和六年一月には同國少年團の全國大會の機會に於て我國少年團二十一名を總裁陛下の思召で招待したき旨を申して來た。少年團日本聯盟は理事長二荒伯爵を派遣團長とし全國より優秀なる健兒二十一名を選抜して派遣し、一月三日より十二日迄同國に滞在し、國王陛下の特別なる御優遇を受け、國を擧げての歡待に接し、殊に歸國に際しては、同國の古利ナコム、バトムのムラバトム、チエディより佛舍利の分與を受け、派遣團は之を捧持して歸朝し、現に東京震災記念堂に奉安してある。

又昨年少年團日本聯盟練習船義勇和蘭丸が南洋遠航の途次九月八日より十二日まで盤谷府メナム河に寄港した。其際

暹羅國政府は特に本船錨地を軍港なる海軍省前に位する浮標に碇泊の便宜を與へられ、文部大臣大藏大臣其他の大臣は義勇和爾丸歡迎委員と共に來船、日暹親善の辭を交はし、上陸の際は特に王族用棧橋の使用を許され、同所より日本公使館まで暹羅國少年團員千五百名は音楽隊を先頭に、市中行進を行ひ、恰も凱旋將士を歡迎するが如き盛大なる接待を受けた。文部省、赤十字社、大學校、中學校、基督教青年會、アユチャ市の招待等は國賓同様の待遇をなし、愈々出帆の折には約十萬の見送人は各自日章旗を振つて非常に盛大な歡送であつた。

今回暹羅少年團が少年團日本聯盟を通じて東京及大阪の兩市に象を寄贈する如きは兩國少年團運動によつて日暹の親善を象徴し、益々その敦厚を加へることゝ信するのである。

○プラモンダ商務官の送別會

昨年八月渡日以来在東京暹羅公使館附商務官として日暹通商關係の増進に多大の盡力をして居られたプラモンダ氏は今回盤谷經濟省商務局長に榮轉せらるゝことになり、六月九日横濱發郵船伏見丸にて一路歸暹のことに決定したので、當協會では六月一日夕同氏送別晚餐會を數寄屋橋「ニユグランド」で開催、「プラモンダ」氏夫妻の外「ミットラカム」公使をも招待協會側よりは矢田常務夫妻山口主事夫妻出席打ち解けたる談笑裏に別を惜んだ。

○造船聯合協會等の暹羅海軍士官歡迎晚餐會

我が造船聯合會函館船渠會社及三井物産の三團體は連合して、今度函館造船所にて建造することになつた暹羅海軍事務艦(タンカー)の造船監督の用務を以て過日來朝した暹羅國海軍中佐「ロアングプラミット」外四名を主賓とし、目下三井船舶に乘船航海術研究中の暹羅海軍將校研究生二名を陪賓とする歡迎晚餐會を五月三十一日夕芝紅葉館にて催した當夜はプラミットラカム公使プラモンダ商務官も出席し主客計三十餘名造船聯合會理事長斯波孝四郎氏の鄭重なる歡迎挨拶あり之に對しプラミット中佐の答辭あり盛會であつた、協會よりは山口主事出席した。

○暹字紙ネーション匿名記者パールバラの得體

盤谷暹字紙ネーションは暹國外務顧問プリンスヴァイデの經營する暹國隨一有力なる新聞紙で或る意味では殆んど政府の機關紙とも目すべきものであるが、該新聞にパールバラなる匿名を以て常に日暹の關係、暹支の關係若くは東洋問題に關する世界政局を論評する寄書を発表するものがあるが仲々の才筆にて其の觀察も亦頗る肯綮に當るものあり右パールバラは果して何人なるやは盤谷に於ける同新聞讀者間に不尠興味を以て揣摩せらるゝ所である、或人は同人を以て現任ネーション紙主筆ナイクラブサイプラデイト Naikrub Sai Pradit の許婚にして目下官立チュラロンコン大學在學史學專攻中のプラユーン Prayun なる若き婦人なりともいひ又或は目下北京にて東洋史を專攻する文部省留學生ナイソットクラモロヒッド Nai Sot Kuramohit なる青年なりと云ふものもあり同人は北京に轉學前一時東京に留學し居りたるものである兎に角パールバラのえたいは今日迄の處未だ一向分らぬ。

○暹羅國宮内省官制改正

七六

暹羅政府は八月十日附宮内省官制改正に關する法律を公布せるが從來宮内省は國務院の組織内に在りて國務參議を長官とする獨立の一省なりしものを今回の改正に據り、之を廢し、替ふるに國務總理に直屬する二局を設けたるものなり即ち一は宮内事務局にして一般宮廷並に皇室財産に關する事務を管掌し他は皇帝秘書局にして皇帝一身に關する事務を管掌するものなり。

又右と同時に文官身分法改正に關する法律を公布し本身分令中宮内官吏に關する條項を廢し、宮内事務局及皇帝秘書局職員の任免並に昇進は凡て皇帝の裁可を経て國務院總理之を行ふ旨を規定せる條項を設けたり。

因に本件二法律は本年八月一日に遡り施行せられたるが、今回の官制改正は現皇帝陛下未だ幼年なる爲め宮廷關係事務少きことを理由とし居れり。

○松嶋巡閱大使の歸朝

インド近東地方に對する外務巡閱使松嶋大使は去る六月二日神戸出帆、佛領印度支那、シヤムを振出しに前後約五ヶ月の長きに亙りインド、ビルマ、アフガニスタン、イラン（波斯）トルコ、シリア、パレスタイン、イラク諸國を歴訪し各國駐劄帝國使臣に對し廣田外相の重要訓令を傳達する一方近東諸國に對する日本商品の市場情況を調査しつゝ、あ

つたが、十月十九日午前八時東京驛着列車にて歸京し廿一日外務省に登廳廣田外相に對し重要報告を行つた歸着早々同大使の語つた所は左の通りだ。

今回の視察で第一に痛感した事は近東の諸國が歐露の舊勢力の完全なる壓迫下にあり乍ら而も完全なる獨立國家の體制を目指して營々として努力しつゝあることであつた。エチオピア問題に對しても彼等はこの黑人帝國を自分達の運命に引きくらべ痛く同情の意を表してゐるのみならず伊エ紛争の經過を通して歐洲老大國の我儘増長振りを目のあたり見ることが出来ると語つてゐた。

英帝國とソヴェット勢力の中間に介在し獨立の國歩を營々と開拓してゐるアフガニスタンの如き日本の經濟的技術的援助を衷心から切望し繁榮を求めて獨立を切望してゐる姿を明瞭に見る事が出来た、イラン、イラク、トルコの如き諸國は目下の所近隣の英佛露の完全なる勢力下に置かれ身動きのならない状態は同情すべきものがある。

エチオピアに對するこれら諸民族の同情は豫想外に強くインドの苦力を募集して東亞遠征隊に付加せんとしたイタリ政府の要求もインドの新聞及び一般輿論の反撃に遭つて沙汰やみとなつたと聞いた、又アラビア人は紅海の對岸に於いてエチオピアに對する武器供給の運動を續けてゐるといふ話であつた。

通商貿易問題についても十分なる調査を行つたがインドより西の諸國は政治的に歐露の勢力下に立つてゐる上に自然的資源にめぐまれず多くの購買力は望み難い事情にあり如何に彼等がパーター制度の取極めを求めたところで日本の

七七

買付原料が皆無といふ有様なのだからこれ以上の貿易増進は先づ望まれない。

× × ×
幻想的な想像を起させるトルコ、イランの舊大國が夫々歐洲形式の新生活様相を急速度に取入れ國民生活を改造して行くその努力には敬意を表した、近東諸國の文化方面における日本の工作は非常に立遅れてゐるから日本の正しい認識といふものもこれらの諸國においては欠けてゐる憾みがある、亞細亞を指導せんとする大目的のためには文化領域における働きかけもこの際必要だ。

○最近渡日暹羅人の増加

最近本邦に渡來する暹羅人の數頗る増加の傾向著しきものがあるが今在暹日本公使館の發給せる暹羅人旅行者の査證に付て取調べたるに別表の通にて昨年は一昨年より二倍に上り更に本年は六ヶ月間に既に昨年の二倍半に達し居るを見る。左に之を表示すべし

區分	最近に於ける渡日暹羅人の數 (旅行者の査照に據る)		
	一九三三年	一九三四年	一九三五年 六月迄
駐日外交官(家族及使用者を含む)	三	五	一
視察官吏	一	一六	四四
陸軍々人	一	五	一〇
計	五	二六	五五

海軍々人	一	一	二五
在日留學生	八	一六	二一
商業	二	三	六
觀光	一七	一三	四六
雜	一	一	六
通過	三	四	二
計	三三	六二	一六一

備考

- 赤十字大會參加關係者七名を含む
- 横濱復興博覽會參加關係者八名を含む
- 音樂舞踊學校劇團三十五名を含む
- 少年團寄贈象輸送關係者五名を含む

○秩父宮家に於ける本協會新舊役員の御招き

本協會總裁秩父宮殿下が平素日暹兩國の親善關係并に本協會の發展に就き深甚の御關心を抱かせらるゝことは協會員一齊の常に感激し居るところであるが同宮及妃殿下に於かせられては七月十七日午後四時半より赤阪同宮御殿に於て協會新舊役員を御召しの上御茶會の御催はしを遊ばされた當日左記役員參殿兩殿下は懇ろに御拜謁を賜はり且協會狀況其

他に付き打ちくつろぎ種々懇切なる御下問あり五時過より一同卓に就き御鄭重なる御饗應に預かり六時過一同は暇乞退出したし暹羅公使「プラミトラカム」氏も本會名譽會長の資格にて御招きを受け參殿した。

近衛會長	徳川副會長	岡部理事長	矢田常務理事	加藤理事	川田理事
高楠理事	鶴見理事	南條理事	村田理事	桑島理事	二荒理事
赤間理事	北島理事	溝口理事	門野監事	濱田前常務理事	安川前理事
原前幹事	山口主事				

尙、大倉、三島、酒井、黒田、藤山、飯塚、伊藤の諸氏差障あり豫め拜辭した。

○近衛會長の寄贈

本協會々長近衛公爵は豫てより日暹兩國の親善關係に深甚の關心を有せられ居る所近今暹羅留學生の本邦に来るもの日増に増加する傾向あるに是等新來の留學生を收容し之を世話する何等の機關なく協會に於ても斯かる機關設備を爲す急要あるを認めながら改組早々資金の缺乏に苦み居る事情を諒察せられ此度目白に於て公爵所有土地貳百貳十坪の上に公爵の舊邸宅の一部を移轉して之を以て前陳暹羅學生會館に充つべしとの趣意を以て之を本協會に寄贈せらるゝ意向を通ぜられたが尙此邸宅の一部は更に改増築を爲すにあらざれば前記の目的に應ずるを得ず之が費用約壹萬圓を要する所是亦公爵は自ら支辨せらるゝの決意を通告せられ今や改増築に取り掛らんとしつつある現情にて來年三月頃よりは約貳十名位の暹羅留學生を收容し諸種の便宜を供與することを得るに至るべく協會の感謝措く能はざる所なり。

○横濱駐在暹國名譽領事新任

暹國政府は最近日暹通商關係の増進に鑑み豫ねて横濱に名譽領事館を開設せんとする希望を有し適當なる候補者を物色中なりし處此程倉田猛郎氏(倉田鐵工所長)を擧げて同名譽領事に任命我天皇陛下より其認可狀を下附せられたるに付き東京駐在暹國公使プラミトラカム氏は倉田氏を主賓とし同氏新任披露の宴會を十月三十日公使館に於て開催したが招きに應じたるは來栖通商局長、桑島東亞局長、上村東亞一課長、岸祕書官笠原出記官の外横濱側より有吉前市長、青木市長、石田神奈川縣知事も參加した、協會よりは岡部理事長酒井伯矢田の兩理事も招きに應じた。

○暹國農務省招聘技師三原博士の送別

外務省東亞局長桑島主計氏は過般暹國農務省に招聘せられ近く出發赴暹せらるゝ三原農學博士送別の午餐會を十月二日外務次官々邸に於て催した當協會矢田常務理事及山口主事も招きに應じ參加した因みに三原博士は本月十五日門司出帆の三井物産汽船那智山丸にて出發する筈。

○シヤム鐵道貨車全部日本に落札

十月十二日盤谷矢田公使より外務省に到達せる電報に依れば暹國鐵道局の貨車(木造並に鋼鐵製)の入札は全部日本側に落札したとのことだ。

○會員通信

八二

在暹日本公使館勤務の會員天田六郎君並に目下暹羅國政府内務省土木局に奉職中の會員東森藏君稻垣茂樹君より孰れも左の如き雁信に接した、三君共常夏の彼地に於て至極健全なるは何よりのグールドニユースである。

八月十四日付天田君來信

謹啓彌々御清祥の段奉大賀候陳者小生儀先般暹羅國在勤被命七月十六日東京發本月三日着盤致し候實は東京出發前是非共御面晤の上御挨拶申上度存居候處種々の事情にて其機を不得申譯無之候。

當地到着以來シヤムの事共異常の變化を呈し居るを觀て實に一驚を喫し申候諸政の革新は申すに不及、國人の心構乃至考方等、以前に比し顯著なる異相を呈し居る有様直に感得され候。而して此の間に於て邦人の活躍目覺しきもの有之は快心の極、御同慶の儀と被存候、但し小生としては全然新しき場所に參りたる如く感ぜられ、目下「ストレンヂヤー」の格構にて諸事情の研究に着手致したる爲體に御座候。

追々落付くに伴れ貴協會に對しても何か御役に立ち度く心掛く可く候に就ては何等御用件等有之候節は御下命相成様致度く候。

右不取敢御挨拶迄斯の如く御座候。

敬具

昭和十年八月十四日

山口主事宛

九月十三日付東君稻垣君來信

拜啓時下殘暑の砌益々御多祥の段慶賀此事に存じ上げ候。

陳者小生共暹羅國に招聘され候に付ては一方ならぬ御高配を辱ふし御厚情誠に難有奉鳴謝候去る七月十日門司出帆の船に便乗仕り同二十一日無事着盤二十四日より内務省土木局にて勤務致し居候間御承了被下度候。

着盤早々挨拶申上ぐべき筈の所勤務比較的繁忙にて且つ急を要する事柄のみにて其上最近まで住宅決定仕らずホテルに滞留致候等の爲遅延致候次第何卒不惡御諒承被下度候御承知の如く盤谷市以外の國內の土木事業は中々遠環の前途を有するが如く被察緊張裡に従務中に候、目下各種の構造物の基本設計作製に従事致し雨季經過後現場にも出掛ける都合に相成居候候も健康維持の上困難を感ずる所は今日までの經過にては認め得ず候小生共不肖ながら當國の爲に努力相試むる考に御座候此の上共御指導御鞭撻被下度願上候。

未筆ながら御健康の程切に奉祚上候。

敬具

昭和十年九月十三日

山口主事宛

八三

十月五日付東君來信

八四

拜啓益々御多祥に被爲涉候段慶賀此の事に奉存候。
陳者小生儀暹羅國渡航に際しては一方ならぬ御高配御同情を辱ふし河に難有茲に厚く御禮申述べ候。
七月十日門司港出帆海上至て平穩涼風に迎へられつゝ七月廿一日朝無事整谷に上陸仕候同廿四日より當國內務省土木
局に於て勤務致居候間御安意被下度候。御承知の如く當地は熱帶圈内に介在し暑熱甚しく候へ共日本に於て想像する
程度にては無之入國以來最高九十二度最低七十八度多くは八十二三度を示し目下雨季とて雨量多く風之れに伴ひ暑熱
を緩和致候十一月よりは乾季に入り四月には太陽直上に迫り温度百度に達することありとするも濕氣軽く爽風常にあ
りて温度の割合に暑熱を感じぬ趣承り候當市は暹羅國中最も氣候良好の部に屬し日本人の居住にはよく適する様に思
料仕候。當國の文化は磐谷に集中し中等學校あり大學は法文醫理に分科され理科中には建築土木等も含まれ候病院あ
り寺院は最も華麗を極め其の數大小百餘に達し。歴代のキング如何に佛教に努力せしか思ひ知るもの有之候。磐谷と
地方とは産業交通衛生等文化の程度に於て著き隔りあり地方の開発は前途遼遠と申すべく候、磐谷の人口六十萬と稱
し多様の人種の寄合にして其の過半は中華民國よりの移民にして經濟的に成功せるもの多きことは特筆に値するもの
と存じ候之れに亞くものは即ち暹羅種に候、風俗習慣も多岐多様にて兎に角四季を通して夏服だけにて足るは一般の
生活に至便なる一面に於ては之れが向上發展の素質を失はしむるものと愚察仕候。市街地にては殆ど舗裝完了し路面
至て良好車の動搖少く又暑熱に對して路面の悪化することも尠く路幅も充分に候新市場にては並木の綠美特に目立ち
日本にて味ひ難き爽快を覺へしめ候幹線道路には電車（一米ゲージ）運轉され自動車は市内だけにて六千臺に垂々と

し又之れに倍する人力車と共に交通の重き任務を致し候。市街を貫流する「メナム」川は水面中五百米濁流漲り四時
水量豊富水深五十尺に達する所あり舟行の利便甚大六七千噸級商船が十數隻碇泊せること敢て珍からず候之れに連絡
する支川及運河と共に貨物集散上重大なる責務を負ひ磐谷の文化に貢獻する所幾何なるを知らず候唯だ其の水位高く
市街の排水を妨ぐるごと及百年河清を見ることなき汚濁に對しては好意を持ち難く候。地震を知らざる國として建築は
單純にて粗惡なる煉瓦積の外面を漆喰にて手際上手に化粧せし瓦葺を高級とし木造トタン屋根の苦力小舎に至るまで
色々に候大建築は舊王朝時代に政府の造營に係るもの多く民間に貸下げ又轉貸も行はれ候米産地なる爲に日本食はた
やすく得られ不自由無之果物は種類及量共に豊富に御座候此の點最も仕合に存じ候。

入國以來雨季に遭遇し地方視察困難なる爲磐谷以外の實情を詳にせざるも農業鑛業及山林業は正に將來大なる開發々
展を期待し得らるるもの如くに候。土木事業に付ては磐谷市を除き殆ど見るべきもの無之貫通幹線國道の唯た一筋
だに設けなきを以て其の一端を窺ひ知らるべく候産業的に軍事的に暹羅國の急務中の緊要事項は先づ道路の完備鐵道
の延長に必死の努力を試みるにありと固く相信する次第に候、先般の革命に於ては道路なき爲め戰鬥は多く列車と列
車の間に行はれしと承り候、政府は或は道路網の計畫に或は標準設計の制定に或は規格材料の指定に或は土木試驗所
の擴張等に諸準備行為に着手し土木の大發展を遂げんとし待機中の様に候小生共（同僚稻垣君と）目下鋭意標準設計
及規格材料指定に付設計調査中に御座候。

言語は暹羅語を主とし支那英佛語等使用され暹羅語は發音複雑にして磐谷市内にても使用する人と場合に依りて言葉
に相違あり市内と地方とは又必ずしも同一ならず候。一般に衛生状態は憂慮すべき程度にて上水道あれども絶対的信
用なく煮沸水を飲用し下水の排除は「メナム」河水位高き爲め至て不完全に候悪疫の流行絶ゆること無之衛生施設の

八五

完備と市民の衛生思想の徹底を計る必要最も大なりと存じ候。

當國には暴風なく從て災害少く候特に日本の災害多きことを痛恨し暹羅國外債總額壹億圓は日本の一ヶ年分の災害費に比敵するものに候同僚各位の御奮闘を希望する切實に候日暹間交通貿易は長足の進歩を來し將來尙は有望視さるるに至り候。

右様入國以來の概況を御傳へ致し以て御挨拶と致し候氣候不順の折柄偏に御自愛の程遙に奉祈上候。 頓首

昭和十年十月五日

Department Of Public And Municipal Works,

Division Of Way

Bangkok, Siam.

東 森 藏

協會 矢田 理事 宛

○暹羅協會財團法人設立許可

豫て文部省に設立許可申請中であつた本協會財團法人に改組の件は、五月二十七日付東京府學務課經由左の通り指令に接した。

東專二六六號

財團法人暹羅協會設立代表者

子 爵 岡 部 長 景

昭和十年五月十一日附申請財團法人暹羅協會設立ノ件民法第三十四條ニ依リ許可ス

昭和十年五月二十四日

文部大臣 松 田 源 治

依て協會は直ちに登記の手續を終へた。

○協會理事會其他

六月十日(月)霞山會館に於て本會財團法人設立許可後の第一回理事會を開催左の議事に付報告又は協議をなした。

一、財團法人暹羅協會の設立許可及登記に關する件

一、理事長及常務理事の互選に關する件

一、副會長の推薦に關する件

一、新理事の推薦に關する件

一、新監事の推薦に關する件

一、新評議員の推薦に關する件

六月廿七日(木)霞山會館に於て第二回理事會を開催左の議事に付報告又は協議をなした。

- 一、新理事の推薦に關する件
- 一、新評議員の推薦に關する件
- 一、協會經費資源集方に關する件
- 一、財團法人設立經過報告の件
- 一、留日進修學生に關する件
- 一、新會員の募集に關する件
- 一、協會前幹事原忠道君表彰方に關する件

七月六日(土)及七月卅一日(水)霞山會館に於て本會財務に關する特別委員會を開催種々財務に關する協議をなした。

○本協會新入會員

其後本協會新入會員左の通り

- 山本 武 信君 (大阪) 電気機具製作者
- 岸川 國太 郎君 (大阪) 梅田電気商會主

- | | | | |
|-------------------------|--------------------------|------------------------|---------------------------|
| 平尾 藤 太君 (大阪) 精版印刷株式會社 | 南郷 三 郎君 (大阪) 日本綿花株式會社 | 早川 德 次君 (大阪) 早川金屬工業研究所 | 男爵 |
| 大谷 清 一君 (兵庫縣) 在盤谷大谷洋行主 | 片岡 岡 安君 (大阪) 大阪商工會議所副會頭 | 福光 外次 郎君 (東京) 三井物産會社 | 清尾 隆太 郎君 (東京) 貴族院議員 |
| 安宅 彌 吉君 (大阪) 大阪商工會議所副會頭 | 中村 幸 助君 (大阪) 三井物産會社大阪支店長 | 小池 厚之 助君 (東京) 小池證券會社々長 | 原田 龜太 郎君 (大阪) 原田商事株式會社取締役 |
| 永井 幸太 郎君 (大阪) 日商株式會社 | 伊藤 忠 治君 (大阪) 合資會社土出商店 | 範多 龍 平君 (大阪) 貿易商 | 佐藤 幸 徳君 (熊本) 第六師團參謀 |

- 宮原武雄君 (東京) 實業家
- 大田周三君 (在暹) 商工省貿易通信員
- 倉田猛郎君 (橫濱) 倉田組鐵工所長 (橫濱駐在暹羅名譽領事)
- 森平兵衛君 (大阪) 大阪商工會議所會頭
- 植木房太郎君 (東京) 日本化學研究所取締役
- 松宮順君 (東京) 外務省官吏
- 稻垣茂樹君 (在暹) 暹羅國內務省土木局技師
- 東森藏君 (同) 同
- 山口喜三郎君 (東京) 東京電氣株式會社
- 岡村寧次君 (東京) 參謀本部第二部長
- 石井滿彦君 (大阪) 貿易商
- 斯波孝四郎君 (東京) 三菱重工業株式會社
- 津田信吾君 (神戸) 鐘淵紡績會社
- 今岡十一郎君 (東京) 外務省囑託
- 石橋貞男君 (東京)
- 長瀬徳太郎君 (大阪) 株式會社長瀬商店常務取締役
- 友田合資會社外國部殿 (東京) 藥種商

- 出光 勉君 (大阪) 貿易商出光商店
- ロアンラツタナテীব君 (東京) 暹羅公使館書記官
- アルンウイチツタラナング君 (東京) 暹羅公使館外交官補
- 野澤源次郎君 (東京) 野澤組
- 山本留次君 (東京) 株式會社博信社社長
- 三原新三君 (暹羅)

○書籍其他の寄贈

左の通り夫々寄贈を受けた御好意茲に深く感謝する。
 在暹日本公使館 The Directory for Bangkok and Siam, 1935—36.
 東京地學協會 東亞及南洋地質地圖 五枚
 元在暹羅日本公使館書記官高津富雄君
 外交時報昭和七年より十年に至る合本 十五冊
 東洋經濟新報同七年乃至十年合本 十五冊
 外交時報 十年十月號 一冊
 東洋經濟 同上 一冊

○暹羅關係人事

八月一日附左の任命あつた

公使館一等書記官

森

喬

暹羅國在勤ヲ命ス

財團法人暹羅協會總裁及役員

(昭和十年十一月現在)

總 裁	秩父宮雍仁親王殿下	同	川 田 順
役 員	(イロハ順)	同	高 楠 順 次 郎
會 長	公 爵 近 衛 文 麿	同	鶴 見 左 吉 雄
副 會 長	侯 爵 德 川 頼 貞	同	南 條 金 雄
名譽會長	駐日暹羅公使 プラミットラカム、 駐暹日本公使 ラクソットラカム、	同	村 田 省 藏
同	子 爵 岡 部 保 吉	同	桑 島 主 計
理 事 長	子 爵 三 島 通 揚	同	伯 爵 二 荒 芳 德
常務理事	子 爵 矢 田 長 之 助	同	伯 爵 赤 間 信 義
同	伊 藤 次 郎 左 衛 門	同	醫 學 博 士 北 島 多 一
理 事	男 爵 大 倉 喜 七 郎	同	伯 爵 溝 口 直 亮
同	加 藤 恭 平	同	門 野 重 九 郎
同		監 事	

會報第壹號附錄

一、日暹提携論

矢田長之助

暹羅の名は、アユチャ王朝の昔、山田長政の偉勳に依り僅かに我史上に示されてゐるのみであつた。然るに我國の國際聯盟脱退の際に、暹羅は亞細亞の一國として友情を寄せ、初めて我國民に親しみを持たせ來つた。

以來日本と暹羅との關係は急速に親近し、暹羅は日本を以て兄弟國とするのみならず、指導國若くは師匠國と仰ぎ、日本の文物制度を大いに倣はんとしつゝある。最近の暹羅學生舞踊團の來朝を初め、二十名の代議士團、續いて少壯官吏團の來朝、暹羅軍令局員一行の訪日等々、今や暹羅は一國を擧げて、日本の立法、行政、司法、文物百般を究めつゝある。之に反し、日本は暹羅に對し明確なる認識を缺くのみならず、何等暹羅に意を注がうとしないのは甚だ遺憾である。余は茲に、暹羅は日本の國策上如何なる意義を有するかを考察し、我南進政策と暹羅の重要性、更に進んで日暹提携の必要を概述して見たいと思ふ。

暹羅の境界は、東は佛領印度、西はビルマ、北は佛領印度とビルマが暹羅の北境に於て殆んど接壤して居り、南は馬

來聯邦並に海峽植民地である。東西の幅は千十哩、南北の最も廣い所が四百八十哩、面積は五十二萬平方杆(約二十萬平方哩)である。現在の獨逸より稍々廣く、佛蘭西及び日本より稍々狭い北邊は山嶽多く、余は嘗て北方國境附近のチエンセンと言ふ千年の古都を訪れ、國境を流れるメコン河を渡り、その向ふに迄入つて行つたが、この邊境一帯の風景は全く日本に酷似し、山河の明美を誇つてゐる。

南方は沖積土の平原にして、文字通り沃野千里、四望際涯なき緑の米圃である。暹羅の經濟はチーク、錫その他の鑛石も出るが主としてこの豊沃千里に穰る米穀に依り成り立つてゐるのである。暹羅領土中最も狭い所はクラ地峽と稱し幅三十哩弱にしてパナマ運河より狭い。日本と暹羅が同盟をして此處に運河を開鑿し、新嘉坡の後方を扼するにあらずやのデマを英國の新聞が書きたつてゐるが、齋東野人の語に過ぎない。人口は約千二百萬、遅々たるものではあるが年々増加を示してゐる。首府盤谷は人口六十萬の都市、その中支那人及支那人系が二十萬前後居る。政體は元來君主專制政體であつたが、昭和七年六月革命起り、今日では完全なる立憲政體である。

二

暹羅の歴史を一瞥するに、上古史は暫く措き、西曆初期に於ては、現在の暹羅國は三帝國の支配下にあつた。即ち東部メナム平原はクメール帝國に、西部地方はモン族に、南部馬來地方はバレンバン王國の支配下にそれ／＼屬してゐたのである。人種はタイ族と稱し、雲南地方より移動し來つた頗る強健な人種である。このタイ族がナンチャオ王國を建設して漸次南方メコン河流域地方に移住を企て、十三世紀に至りアラランが盤谷の遙か北方スコタイの地に首府を定めた(今日その址を見ず)。西曆一二五七年から一三五〇年まで丁度一世紀間この王朝は持續した。次に起つたのはアユ

チャ王朝と稱し、我が山田長政が偉勳をたてた王朝で、之は一三五〇年から一七六七年まで四百年間續いた。この時代は暹羅とビルマは葛藤絶えず、常にビルマと交戦の状態にあつた。山田長政はこのビルマの外寇を見事撃退し、アユチャ王朝をして泰山の安きに置いたのである。爲めに六昆(リゴール或はシンゴラとも稱す)王に列せられた。聽てこの四百年のアユチャ王朝崩壊し、現在のチャクリー王朝が生誕した。この王朝は今日に至る約百六十年間永續してゐるのである。

アユチャ王朝滅亡の原因はビルマ軍の侵寇であつたが、其の時支那の混血兒ピア・タクシン出で、ビルマ軍を驅逐して自ら暹羅の王位に即いたが、この王は僅か十五年にして逝去し、其後を繼げて王位に即かれたのが現暹羅王朝の第一世たるチャオピア・チャクリー王である。第四世キング・モンクット王は一八五一年即位し、聰明なる君主にして、開國進取の政策を執り、諸外國と條約を結び、西歐文明の輸入に努められた。英國との通商航海條約も此の王の代に於て初めて締結せられたのである。第五世チュラロン・コーン王は現王朝中第一の英主である。この王は在位四十年に及び其の間、鋭意内治外交に力を致し、奴隸制度の如きもこの王の時廢止せられ、諸外國との關係益々頻繁となり、近代暹羅は全くこの王の時代に建設せられたのであつた。

三

吾人は、暹羅の經濟的價値を見通してはならない。明日の日本は、有ゆる意味に於て南方への關心と工作を餘儀なくされるであらう。日本の南方進出の據點としての暹羅が、單に親日的であると言ふのみでなく、其の經濟資源に就ても決して輕視出来ない。況んや暹羅は東南亞細亞に於ける唯一無二の親日獨立國たるに於てをや。

面積に於て歐羅巴と略々同一の廣袤に人口三億を擁する印度を初め、南洋諸島、或は佛領印度等豊穰なる亞細亞の大半が白人の支配下に在る。獨立國なると屬領國なるとは、貿易に於て如何なる差異があるかと言へば、例へば印度が日本の爲め重要な地であると思つても、英國の植民地なるがため日本は印度を自由に利用出来ない。或は七千萬の南洋土民に廉價優良なる日本品を賣付けんとするも、僅か三萬四千平方杆の芥子粒の如き和蘭に諒解を求めねばならぬ。日蘭會商の如きも未だに埒が明かぬ状態である。佛領印度亦然りである。斯くの如く日本は南方に伸びんとするも、その盡くが白人の征服下にあるため、思ふ儘に發展出来ない。こゝに我が南方進出の悩みがある。

然るに幸ひ、暹羅獨り克く獨立を保全して居り、殊に新政府が樹立されて以來、彼より我に傾倒し來り、提携を欲してゐるのである。印度南洋四・五億の人口中、暹羅は僅か千三百萬の人口を擁するに過ぎない。が、遺利を有し、且つ獨立を保全してゐることは、日本の南進政策助成への天來の賜でなくて何であらう。

日暹兩國間の貿易は、暹羅より米が日本に輸入されてゐた當時は兩國の輸出入關係は均衡が取れてゐた。昭和八年末に日本が暹羅米の輸入を停止して以降、日本の輸出の（昭和九年度）二千八百萬圓に對し、輸入は八十萬か百萬に過ぎない。然るに暹羅の日本からの輸入は最近五箇年間に五倍の増加を見せてゐるのである。之に依り之を觀るも、暹羅は其の貿易上の價値に於て決して尠くないのである。

暹羅の外國貿易状態を表に示せば、（單位千銖）

年 度	輸 入	輸 出	輸出超過
昭和四年	一八九、七九〇	二五二、四七三	六二、六八四
同 五年	二〇六、七一三	二一九、七七二	一三、〇五九

年 度	輸 入	輸 出	輸出超過
同 六年	一五五、〇〇〇	一六一、五一八	六、五一〇
同 七年	九九、九〇七	一三四、二〇六	三四、二九八
同 八年（四月に終る）	八九、四九七	一五二、五二二	六三、〇二五

右の表に依つて明かなる如く、暹羅は常に輸出超過國である。輸出の大宗は米であるチーク其の他の木材少額の工藝品ゴム、鑛物等は米に比すれば言ふに足らない。暹羅の大切な顧客は、新嘉坡、シンナ、英領馬來聯邦、印度ビルマ等の所謂英國植民プロックとも言ふべき地方であつて、この方面よりの輸入が五十四%、輸出が七十七%となつてゐる。最近の日本と暹羅との貿易概況を表示すれば左の如くである。（單位千圓）

年 度	日本より 輸 出	暹羅より 輸 入	△印は輸入超過 +印は輸出超過
昭和四年	一〇、六三三	二〇、八一	△一〇、一七八
同 五年	九、四七六	一八、八四三	△九、三六七
同 六年	四、七二二	六、七九二	△二、〇七一
同 七年	八、三八一	一一、一九七	△二、六一六
同 八年	一八、一三四	一二、二五五	+五、八六九
同 九年	二八、〇四八	一、五四〇	+二六、五〇八

昭和七年には日本が金輸出禁止をなし、昭和八年からは輸出超過に變り、更に昭和九年は實に長足の進歩を示してゐる輸入激減の原因は暹羅米の輸入禁止に依存する。

獨逸、英本國よりも其の面積に於て廣大なる暹羅國は、今後人口さへ増加すれば、國內の豊富なる資源と相俟ち、東南亞細亞の一角に於ける一大強國の運命を持つことはこゝに敢て贅論を要しないであらう。

我南進政策を論じ、日暹提携を考察するに先立ち、暹羅と最も深い關係にある英國の對暹政策を一應検討して見る必要があらう。

人或は現前の英勢力及び外交を目して、狐城落日若くは干潮であると觀察する。余はその觀察に對し一半の眞理を認めると同時に吾人は、大英帝國の基礎がそふ容易に動搖するであらうとの樂觀に對し、警告する者である。若しラテン人をして英國の地位に立たしめたとせば、恐らく英國の如く百年二百年の長きに亘り、その世界的スプレマシーを堅持し得なかつたであらう。英吉利人なればこそ克く維持し得たのである。英吉利の外交政策は所謂「分ち支配する」の原則に則り、周到水も漏さず、而も融通自在常に大局を誤るなく、寸斷の焦慮もなければ、些の弛緩もない。一と度目的を定めたらば之に向て唯だ邁進するを知るのみ。此處に大英國の強味がある。恭で言へば名人の面影を窺ふのである。

所謂「泰山は土壤を譲らず。河海は細流を擇ばず」これ英帝國が今日の強大を致した外交政策の眞諦であると思ふ。暹羅は英吉利の利害關係から言へば、印度などに比較すべくもない。印度は英吉利の寶庫であり、生命である。それに比すれば暹羅は同日の論にあらず、併し其の些少なる暹羅に對するに、英國は周到なる用意と大計を以てする。公使の如き極めてエイブルな外交官を遣り、各方面の顧問を派遣するにも嘗て日本が支那になしたが如く、老廢期に在る官吏及び軍人の古手を以てせず、經驗と識見と、頭腦、手腕兼備の人士を撰拔する。そして本國政府は勿論それ等遣外の使臣其他の人士は悉く常に深甚なる關心を拂ひ、全き暹羅の把握に努めてゐる。所謂獅子は兎を撃つに全力を以てするの論の如く、英國今日の外交は正しくそれである。

然るに日本は從來事大主義と言ふか歐米崇拜主義と言ふか、輕佻淺薄にして其日暮しの御都合主義に終始し、内外の國策に就き深謀遠慮なく、根本的經綸がない。國家百年の大計を樹立することなく事大思想に囚はれるは誠に遺憾である。日本の將來の運命が何處にあるやも知らず、南方の重要性も思はず、暹羅と言へば一概に馬鹿にする。宛も二十三年前對支外交が日本の外交の樞軸であることに氣附かず、亦大部分の者はその認識を持たなかつた。支那通を呼ぶに「支那ゴロ」の言を以てし、外務當局に於ても成績悪き者を支那に派遣し、派遣されるもの亦支那のインポータンスをリアライズしてゐない。二十年前の日本は當にこの状態であつた。併し現在東洋全局に於ける支那のインポータンスは争はれない。如何なる角度より見るも、支那は今日日本の最も重要な外交樞軸である。余は暹羅の今日は二十三年前の支那に比較すべきインポータンスを持つてゐる事を強調したい。

最も必要なるものは日本の南方經綸である。日本の外交及政策が餘りに北方に偏し、南方に薄き憾あるは何としたことか。成程滿洲國の資源、北支の經濟開發は刻下の急務であらう。滿洲國の完全なる發展を翹望すると共に更に之を蒙占に西比利亞に擴伸するの必要は痛感する。併しそれだから南方を輕視して好いと言ふ理由は成立しない。否なそれだから愈々益々南方への膨脹發展が必要となつて來るのである。經濟的に見て北方は此處暫く、否な多年の間出費を意味し、南方は直ちにプロダクションを意味する。軍事的、政治的に見るも南方の重要性は北方に勝るとも劣らない。日本が南方へ進出する上に於て面積に於て獨逸佛蘭西に比すべき廣袤を有する暹羅が沃野千里の中に多くの資源を包蔵し、獨立を保全してゐることが、明日の我が南進政策遂行の上に如何に貢獻することか。

4. 暹羅の米輸出高累年

	数量	金額	輸出總額に對する割合
昭和1/1	21,800	165,226	69.1
2/2	38,671	201,156	72.8
3/3	34,667	175,124	69.4
4/4	18,860	139,087	63.3
5/5	17,112	103,068	63.8
6/6	22,200	77,500	57.7
7/7	27,876	94,201	61.8
8/8	27,725	82,697	57.8

5. 暹羅の主要輸入品 (單位千パート)

	昭和	7/8	8/9
食料品	17,821	16,100	15,093
石油	4,904	4,156	4,348
ベンゼン油	4,269	3,467	4,313
燈油	1,394	1,191	1,380
寶石(粗)	364	153	121
ゴム製品	1,231	1,357	1,165
陶磁器	936	452	591
電気機械器具	4,518	1,884	1,482
金銀細工品	288	100	121
麻袋(ガンニ一袋)	3,605	5,419	4,459
帽子類	265	453	471
機械類	2,455	1,277	2,957
マッチ	488	43	8
籐、竹、藁製品及敷物	902	799	962
藥品	1,609	1,242	1,199
金屬製品	7,110	6,667	7,295
油類	982	1,135	988
紙	2,311	1,982	1,656
石鹼	670	253	265
綿織物	11,492	14,919	16,035
其他織物	2,050	2,111	1,696
煙草類	4,580	4,228	4,250
車輛類	1,915	1,252	1,734
絲類	2,914	4,441	2,653
酒精飲料	1,259	1,030	1,141
阿片	3,328	0	4,080
其他	13,821	11,551	12,258
金銀塊	2,730	1,806	545
計	99,909	89,497	92,963

2. 暹羅の主要輸出品 (單位千パート)

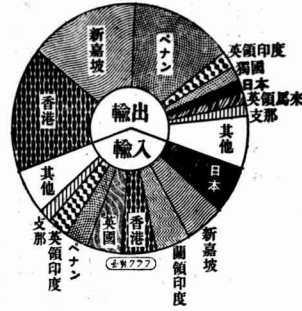
	昭和6/7	7/8	8/9
米	77,500	94,201	82,967
錫及錫礦	13,433	14,304	24,543
チーク材	4,950	3,312	4,274
其他の材木	1,448	1,118	1,078
ゴム	538	397	2,360
水牛	82	214	516
牡牛	150	280	474
家禽	493	340	341
豚	1,118	1,125	1,210
コブラ	1,164	491	182
皮革類	753	676	830
煙草	98	178	28
胎貝(乾)	345	168	198
魚類(鹽)	367	391	288
王葱	2,049	2,162	1,824
胡椒	360	348	417
鹽	289	203	171
綿製品	574	329	391
其他	447	384	352
再輸出	8,854	6,531	5,343
金銀	2,711	2,075	2,075
計	17,299	23,293	23,293
計	134,207	152,522	144,079

3. 暹羅の米輸出量地域別割合 (單位%)

	昭和6/7	7/8	8/9
香港及支那諸港	36.1	41.0	40.2
新嘉坡	29.9	25.6	26.7
蘭領印度	8.3	5.1	0.7
歐洲	4.6	7.9	6.4
日本	10.4	9.3	4.9
西印度諸島	4.9	3.4	5.9
其他	5.8	7.7	15.2
計	100.0	100.0	100.0

*ブートセイド及アレキサンドリアの輸出を含む。

暹羅の貿易相手國割合(昭和8/9年)



1. 暹羅の貿易累年 (單位百萬パート)

	輸出	輸入	差引超
昭和 1/2	239.2	196.5	42.7
2/3	276.3	201.1	75.2
3/4	252.5	189.8	62.7
4/5	219.8	206.7	13.1
5/6	161.5	155.0	6.5
6/7	134.2	99.9	34.3
7/8	152.5	89.5	63.0
8/9	144.1	93.0	51.1

暹羅王國外國貿易年報による。以下本報の資料同じ。

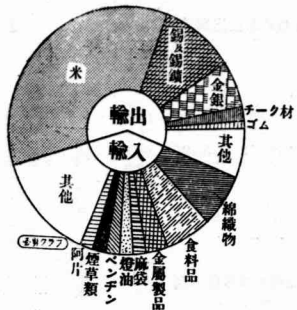
同國の對外貿易は年々出超を常態としてゐるが、同國は貿易外收入が全然ない處へ、巨額の外債利子、外國人の投資に對する收益、同國在住華僑の送金等貿易外支拂が莫大の額に上るので經濟的には相當逼迫してゐる。

輸出入品 暹羅の重要輸

二、暹羅の貿易 (昭和十年十一月國勢グラフに依る)

最近、盤谷に於ける同國關稅局發行の暹羅王國外國貿易年報を入手したから次に詳細數字を掲げて參考に資する。暹羅の貿易は毎年四月から翌年三月迄を一年度として集計され、貨幣單位は昭和七年以來パート(銖)と變更された。一銖が平價で我約八十九錢に當り、十一パートが英貨一磅となつてゐる。英貨標準であるから金に對しては現在英貨と略同程度の下落をしてゐる。但し現在實際の本邦圓貨との爲替相場は暹貨一銖は我が一圓六十錢餘に當る金本位確立以前に使用してゐた貨幣單位チカルと同價である。

暹羅の主要輸出入品
(昭和八・九年)



6. 暹羅の貿易相手国別(単位 百萬バート)

	輸出		輸入	
	昭和7/8	8/9	昭和7/8	8/9
日本	9.02	4.16	9.80	14.65
新嘉坡	34.26	35.44	11.37	12.60
英領馬來	23.76	33.25	5.72	7.65
香港	4.75	3.52	0.57	0.75
英領印度	52.96	38.37	15.38	11.27
英領印度	4.95	0.88	11.54	11.54
英領印度	1.63	5.79	3.74	6.88
英領印度	4.38	2.66	5.26	4.04
英領印度	0.75	1.14	12.25	10.87
英領印度	4.20	4.18	3.16	3.05
英領印度	0.15	0.12	2.16	2.73
英領印度	1.70	1.46	1.69	1.18
英領印度	0.05	0.22	0.86	0.78
英領印度	13.96	12.89	6.00	4.97
昭	152.52	144.08	89.50	92.96

出品は米を第一位として錫、チーク材、魚類等二三の少種類であるが、米の輸出額は總額の六〇%近くを年々占めて同國輸出貿易の増減をこの一品で左右してゐる。即ち昨年度について云へば米の輸出額が著しく減つた爲に、譬へ錫及銅、チーク材、ゴム等重要品の輸出は相當著しく

殖えても輸出總額に於ては前年よりも一割近くの減少を示してゐる。米の輸出額が著しく減つたのは數量も減じたが價格の低落した事が原因である仕向先から云へば香港方面を初め、蘭領印度、日本等へは激減してゐる。日本は當時は周知の通り過剩米の處分に困り抜いた結果、昭和八年十二月以降米穀統制法による米の輸入許可制を實行したからである。次に注目すべきはゴムの輸出が前年に比べるに急激に増大であるが、これはゴム制限國際協定成立の見越によつて價格が騰貴したからである。

輸入品では綿織物を策頭に、食料品、金屬製品、麻袋、礦油類、煙草等が主要なものであるが、昨年は前年よりも殖えてゐるものゝ方が多い。即ち綿織物を始め油礦類金屬製品等ばかりでなく其他のものゝうちでも機械類、車輛類、酒精飲料及び阿片等の輸入は激増してゐる。

減つてゐるのは食料品、麻袋等が目立つてゐるが其他にも電氣機械器具、ゴム製品、絲類、紙、藥品等は減つてゐる。國別貿易 輸出は近隣の東南洋諸國で、新嘉坡、香港、彼南等が總額の七割近くを占めてゐる。日本への輸出が前年よりも減つてゐるのは前述の如く米の輸出が激減したからである。蘭領印度への輸出減が著しく目立つてゐるが同じく米の輸出が前年よりも著減したからによるか、英領印度へは反對に米の輸出が急増した爲に輸出割合が大きくなつてゐる。支那、香港方面への輸出は昨年度は大打擊を蒙つた。

輸入では、輸出程東南洋近隣國に偏倚してはゐないで、英米獨等の歐米諸國から完成品の輸入を行つてゐる。然し主要な仕入國は勿論、近隣國であるが特に目立つてゐるのは日本の躍進である。昨年度は全國の輸入相手國としては日本が第一位となり、新嘉坡、蘭印度、香港の順となつてゐる。然も新嘉坡や香港へは日本品が盛に輸出され、そこから更に暹羅方面へ再輸出されるのであるから、暹羅が輸入する日本品は頗る多額に上るものと見られてゐる。

歐洲諸國のうちでは英國の進出が著しく目につくが同國からは機械、金屬製品、車輛類を主として輸入して居り、蘭領印度からは礦油類を多量に輸入してゐる。

三、暹羅無任所參議の日本紀行

註 本年五月暹羅無任所參議クインスコクタウィット及クインサマ・ハーンヒタガダイの二名は本邦視察旅行に來朝したが歸還後クインスコクタウィット氏は其旅行記を盤谷暹字紙ネーションに寄稿した是れが即茲に譯出さるものである一讀頗る興味がある故附録として掲載することにした。

五月二十八日 プラチャーチャート紙所掲要譯

日本紀行 (暹羅から日本へ)

クインスコクタキタヤスクサーコン

幸運がめぐり來つて予は日本旅行の機会を得た、二月二十一日スラバヤ丸に搭して暫しの別れを熱愛する暹羅に告げた、スラバヤ丸は四千三百噸の老朽貨物船である。船客は一等と三等丈で、二等客が無い、併し三等室でも頗る清潔で設備も良い、支那行の貨物船の比ではない、同行の者はクンサマー・ハーン・ヒタカデー、モムチャウ・ラクサナー・コン・ナリー・ワラキツチ及びナイ・ポ。それに此度我國の棉花調査を了へて歸朝する三原博士を加へて六名である。船はメナム河を下つて、午後四時、我國の關門とも云ふべきパークナムを通過した、河口の淺瀬は國家的の大事業であるが、今尙可否兩論にわかれて互に一歩も譲らぬ有様である。盤谷港の改良は前途未だ遼遠なりと言はざるを得ざるものがある。

二月二十二日、チャーン島島の沖合五〇哩を隔て、航行す、早朝起床して船員の作業を見る、日本の海員は能く規律

を守ることが嚴格で、黙々として受持の事に勵むのみである。其の食事も極めて簡單で一汁一菜に過ぎぬ、休憩時間内にも至つて靜肅で毫も喧囂の聲を聞かぬ。彼等は恰も世の歡樂に無關心なるもの、如くにすら思はしめられる、高等船員が職務に忠實で行動一糸亂れざるものあるは感服の外ない。

二月二十三日、東甫塞のブローオビ島の十里沖合を航行す。

船内の規律として賭博を禁じ、銃器、酒類及び阿片の所持を禁じ、又猥に船員室に出入することを禁ぜらる、船員は夜間の外は殆んど暇なきに拘らず、皆な心を傾けて吾等の一行を優遇し、時に三原博士と快談して愉快なる航海を續けて居る、感謝に堪へず。

此の日午前中は風穏かにして波なし、午後に至りて多少の動搖を感ず。

二月二十四日、刻々西貢に近い午後三時ココテオール灣に假泊す、上陸の機会を得ず。

二月二十五日、午前二時拔錨して河を溯る。

西貢の警備は極めて嚴重で、陸海軍あり航空隊あり、市中は到る處に軍人にあらざれば巡警を見る、西貢は全く軍人と巡警の町の如くである。聞く所に據ると政廳は土人を其の高官に任用せず、同階級の官吏軍人で、佛本國人と土人との間には俸給手當にも多大の等差を設けて居るのである。西貢の通用語は安南語と佛語である、殊に佛語は一般の通用語で、英語は殆んど用を便することか出来ぬ、又佛人は決して安南語を使用しないのである。

二月二十六日、西貢駐在領事ナイ・ブラユ・ラバマ・モン・トリーが來訪した、午前十時西貢を解纜し、午後三時セント・チェック岬を通過した。安南では色々の非常事件次から次へと續發して、佛蘭西は其の統治に頭を悩まして居る様である。時間に限りありて精細に事情を悉くす能はざりしは遺憾であつた。

三月五日、二月二十六日西貢を發し、今日臺灣基隆港に着く、此間七晝夜、時に海神の怒に觸れて風波高く船の動搖甚しきこともあつた、午前九時三十分港外に達す、港口に大岩礁あり、水先案内に導かれて港内に進む、スラバヤ丸は一行の乗船を報ずる爲に暹羅國旗を掲ぐ、直に基隆水上署員の來訪あり、上陸に非常の便宜を與へられた、次で總督府外務部主任の出迎を受けた。

臺灣島は琉球の南海に在り、面積三、九〇八平方哩、人口五百萬、主要産業は米作で、三毛作であるといふ。農業の隆盛を窺ふに足る、此外甘蔗、バナナ、茶等がある。中でも製糖業發達大に見るべきものあり、目下臺灣、明治、大日本等十大會社がある、臺灣は平地に乏しからず且つ風光に富む、觀光には春季を好時節とし製糖業視察には冬季を宜しと聞く。

基隆は一小港なれ共風光の美愛すべく市政整頓市街は裏通に至る迄アスハルトで舗装せられて居る。

水上署員は一行を基隆市廳及支那富豪の庭園に案内せらる、午後臺北に赴く、基隆臺北間距離約十八哩、汽車の便あれ共一行は自動車にて四十五分にて臺北に達した、其間二、三の隧道を過ぎ、或は山麓を迂回し又は河岸に沿ふて走る沿道悉く耕地ならざるは無い、鐵道ホテルに投じたる後總督を訪問す、臺北市は人口三十萬、市街を三區に分ち總督府は城内に在り、大稻埕及マンカーを商業の中心地とす、家屋の多くは煉瓦又は石造である。臺北一帶農家に至る迄電燈を使用す、電燈料の安値なるを知る、一般學生の氣風高尚なるもの、如く到る處の書籍店には學生殺到して愛讀の書籍を漁るを見る。住民は勤勉力行營々として職業に勵む、恐く教育と訓練の然らしむる所であらう。

三月六日、早朝總督秘書官の案内で、臺北を距る約十哩にある温泉地を訪ふ、臺北絶好の遊覽地である。一步市街を外に出づれば一望悉く水田にして、山上に至る迄階段を築て耕作せられ寸尺の荒蕪地も無い、用水の設備ありて灌漑せ

られる、三毛作の出来るのも成程と肯かれる。

臺灣には職業婦人も少くない、政廳、大商店、鐵道に於て多く之を見受ける。

臺北に歸つて總督を其官邸に訪ふ、總督は一行の爲特に晝餐を饗せらるる感激の至りに堪へず、午後臺北を辭して、基隆に歸り、再び水上署の厚意に依りて瑞穂丸に乗り込み、午後四時出帆、解纜の際見送の人々は色紙を以て雙方を支持連結し長さの盡る迄名残を惜まれた。

臺灣訪問は全くの微行なりしに拘はらず、官憲は固より一般民衆も皆吾等の寄港を熟知し、各新聞記者は一行の撮影と感想談を求めた、之れは日本政府の宣傳部の注意周到なるに由るのであらう。一行は基隆及臺北の官憲から見學上大の便宜を與へられた、只遺憾なことには時間の餘裕が無かつたが爲に之れ以上語ることは出来ない。臺灣總督府は日本の一政廳であつて特別豫算を有する、佛曆二四七七年年度總豫算は一〇、八二一、二六〇圓で、略ぼ我國の豫算七千三百萬鎊に相等す。産物は殆んど我國と同じ、米、茶、砂糖、甘蔗、甘薯外金銀鑛、石炭、石油等である。

臺灣と我國との關係、佛曆二四六一年我國から臺灣への輸出高は六三四、五三六圓、我國への輸入高は二二九、四二七圓、佛曆二四七〇年の輸出は二、五五七、五七八圓、佛曆二四七五年のそれは一、三九〇、四九一圓であつた、通商上注意に値する一國である、若し商務官を置いて我産物の市場開拓を監督せしめたらば相當の發展を來すことであらう。

三月八日、六日午後基隆發一路東北に向て航行す、基隆神戸間の距離は七四二哩、船は大海の中心を駛せ水天の間他の一物を認めず、瑞穂丸は神戸基隆間連絡の客船で、乗客定員四百名、速力十三節である。

三月九日、早朝門司港に近づいて附近の島嶼と兩岸の連山とを望む、冷氣募りて久しく甲板に立つに堪へず、室に入

る、七時三十分港内に投錨す、門司は日本の主要港の一つであつて下ノ關と相對す、新聞記者團先づ來りて撮影を求め、又皇帝の退位新皇帝の即位問題に付て質問を連發し、更らに國務總理及青年の現況を問はる。

門司水上署より代表を派して一行を迎へ且つ一行の爲に自動車を提供せらる、感謝に堪へず、朝食後大阪商船門司支店長の案内にてカッサン山上に登る、市街の情況港内の模様一望の下に開展す。

九州門司から日本本土に到るには船にて門司海峡を渡る、此不便を除く爲め日本政府は海底隧道開通計畫中なりと聞く。

暹羅から日本迄(續) (六月七日)

午後二時門司を解纜して、島嶼美で有名な瀬戸内海を續航する、乗船瑞穂丸はスラバヤ丸に比べて種々の點に於て優秀で且つ船體も巨大で波浪を凌ぎ平然たり。

三月十日、朝六時三十分神戸着、商務官ブラブラモン氏一行を出迎ふ、神戸に於ても大阪商船會社から諸種便宜提供の意を通ぜらる、不相變の厚意を謝す。上陸前に早くも新聞記者團集し來りて撮影を求め且つ一行の來意を質し同行の皇族(モムチャウラクサナコン)に敬意を表す、日本人は皇族に對し極めて敬虔である。蓋し皇室尊崇の發現である。

吾等一行は官命を帯びて來朝せる旨簡單なる談話の後ブラブラモン氏の案内にて東洋ホテルに投ず、間もなく神戸駐在暹羅名譽領事の訪問あり、豫告なく出迎へ能はざりしを遺憾とする意を述べ、且つ本日は日露戰爭紀念式典に參列せざるべからずとて著愼辭去す、自動車壹臺を提供し商工會議所員を残して東道の任に當らしめられた舞子の濱に遊び歸途楠公神社に詣つ、恰も六百年祭典中にて參拜者踵を接す、軍人最も多し、沿道の民家は戸毎に國旗を掲げ、學生の旗行列を見る戰勝紀念の爲めなりと云ふ。

此の地で吾等一行は夫々其の仕事の爲めに袂を分つことになつた、即ちモムチャウラクサナナイ及ナイイボは大阪に向つた、ナイイワラキツチは横濱博覽會に於ける出品陳列に必要なガラス器具を調へるのである。

神戸港は横濱港と相並んで東西兩大關の地位にある、西よりする船舶は先づ神戸に、東よりするものは先づ横濱に入る、神戸は大阪といふ大商業地を控へ、横濱は首都大東京を控へて居る。

吾等の一行は十二時二十五分三ノ宮發の特別列車で東上する事にした、特急列車に乗るには普通貨銀に一等に一人六圓を追徴せられる、特急列車は著名の都市以外には停車せぬから時間が大に節約せられる、汽車は快速力を以て田畑の間を走り、又は海岸や谿谷に沿ふて走り、時に河川を横ぎり隧道を過ぐる等、刻々轉變應接に追が無い、二十一時東京驛に着く、ブラミットラ公使及留學生諸氏の出迎あり、警官親切に護衛す、夜中の到着もあり且つ豫告もせぬ事故新聞記者團の包圍を免がるゝならんとの豫期は全く裏切られた、ブラミットラカム及びブラブラモンと同行して帝國ホテルに投ず。

東京は不夜城である、商品の宣傳店頭の廣告皆電燈を利用し其の明るきこと畫を欺く、電燈料安價なるにあらざれば出來ないことである。

三月十日、早朝ブラブラモン來る、相携へて香港上海銀行に立寄り、銀座街三越百貨店にて日用品を購ふ、三越百貨店の建物は八階で、數百名の賣子あり、日用品殆んど全部を調ふ、裝飾の美、配列の妙、價格の低廉共に顧客の購買心を唆り大なり小なりの所持金は皆無となること受合なり、それで毎日滿員の盛況なりとは驚くの外ない、若し此店が盤谷に在りとすれば數日を出でずして顧客の種は盡くるであらう。

銀座は東京目抜の街で、銀座を見ずして東京を語ることは出來まい、商賣放賑、日曜日の如きは我國祭日にも勝る人

出なりと云ふ。

午後ブラミットラカム氏を公使館に訪問して大に歓迎せられた、久振に暹羅料理の饗應を受く。
食後色々の話があつた、就中注意に値するのはミットラカム氏が政府及民間諸方面と連絡を取つて能く諒解を得たる爲め日本政府は暹羅米の輸入解禁を承諾するに至つた、未だ議會の承認を経ざるを以て法律として實施するには至らなけれ共ブラミットラカム氏の努力空しからずして殆んど成功に近い、此外滿洲國に於けるチーク材の販路に就ても目下交渉中で、若し之が成功すれば我チーク貿易の進展を促し、價格も亦多少に拘らず騰貴するであらうとの事であつた要するにブラミットラカム氏は駐日暹羅公使として忠實に任務を盡し、皇族の一部の方にも特別の御愛顧を受けて居り又多數の高官と親交あり、日暹實際の圓滑なるのは我國の爲め祝福せざるを得ぬ。

午後ホテルに歸る、山口氏及暹羅協會々長の名刺を受領す、山口氏は親しく訪問せられたれ共不幸にして面談の光榮を得ず、陸軍留學生ルアングチャラム、クンラーング來訪す、談偶々留學生問題に及ぶ、日本語は其文法が暹羅語や英語と甚しく相違して學ぶに非常に困難である、陸軍が十ヶ月間に日本語を練習せしむるは恐く效果少からん、それにも拘らず陸軍留學生は必死に勉強して居る、幸ひ家庭に在るが故に、日本語の理解及び會話は著く進歩したりとは云へ日本語を學ぶの外研究の餘地なきを思ふ云々と、ルアングチャラムと約し、親交増進及暹羅人と關係を有する日本人の厚意に對し謝意を表する爲め、陸軍留學生監督者全體を招待する事としブラミットラカム氏に相談することとした。
今夜ブラブラモン東京第一の支那料理店雅徐園にて支那料理を饗せらる。

三月十二日、ブラミットラカム氏の先導で天皇皇后兩陛下並秩父宮殿下の訪問名簿に署名す。

近衛公に名刺を通じ、外務大臣を訪問す、不幸大臣に面會するを得ず次官に會見し其他外務省官吏數名に名刺を通す

正午航海術練習中の海軍大尉チロー氏及びノム來る、午後陸軍中尉モムルアングラーブハツサザン及び大尉ルアングラーベン來訪す異郷に在りて同胞の見舞を受け安否を問はるゝことは非常の樂みで誰しも同感であらう、在外の同胞相親み易いのは人の知る處である、而して互に相助け苦樂を共にせねばならぬ事は今更言ふ迄もない、且つ海外に居た時の心持を永久に持續し度いものである。

此夜再びブラミットラカムより暹羅料理の晚餐に招かる、度々同氏を煩はすを心苦く思ふた、陸軍留學生監督者招待宴を二十三日に催すこととしブラミットラカム氏代りて招待狀を發送するに定めた。

東洋に旅行した諸君は、何故日本は國民協同一致の實を擧げ、之に反して支那は何故四分五裂して統一が出来ないかを究める要がある日本が、一小島國を以て支那や露西亞の大國を向ふに廻して戦ふことを恐れざるは、日本人の愛國心旺盛なる故である、日本の國民性には幾多の美點がある、日本人は國家の爲めには死をも恐れぬ、國家の爲め喜んで自己を犠牲にする、之に反し支那人は「支那人あつての支那國」といふ根本的に誤つた考を持つて居るから、協同一致は甚だ困難である、日本人の愛國は他に比類を見ずとは世界の定評である、予は日本に來て其の偽ならざるを體驗した、日本が強大國として今日あるは國民愛國の賜である、予が觀察せる範圍に於て日本人の多數は麗はしき性向の所有者である、即ち1、何時もこゝろして愛想よき事、2、自然を愛する事、3、簡潔に生活する事、4、禮儀正しき事、5、正直なる事、6、道義心に富む事等は重なるもので是れは久しい年月間の教育訓練の結果なるべく、此性向が日本の興隆發展を助けたるは言ふ迄もない。

五月十四日、モムチャウラクサナー及びブラブラモン來會陳列館設備に關し協議す。

午後陸軍大尉クンラーングと中尉クラセー來訪して快談夜に及ぶ、愛國の眞情溢れ囊中の錐の如し將來有爲の青年で

ある。

書記官ルアングテールの私宅に於て暹羅料理の晚餐に招かる、多年暹羅に滞在した日本老婦人の手料理で素人とは思はれぬ手際であつた、元來日本婦人の多くは教養あるが上に、料理の知識を有し、家庭の重寶である、日本の婦人の多數は歐米婦人の進歩に及ばず是れ日本婦人の無能なるが故にあらすして歐米婦人の如くなるを欲せざるが故なりと思はれる、日本婦人は舊習慣を守りキモノを着用する米國風を做ふ所謂モーダンガールは少女の一部に過ぎない。

日本の教育は七十年來漸次に進歩し來り、今では歐米に比し遜色なき發達を遂げ、百科の書籍悉く備はり何を研究するにも深き外國語の素養を必要とせない。外國語を學ぶ必要ある者に限り特別の教育を受くとの事である、日本の教育が發達して來にのは我初等教育と等しく強制法に依たのである、日本の義務教育は七歳から十四歳迄の八年間で、日本人の九十九パーセントは讀み書き出來ると云ふ三月十五日、ホテルに投宿して今日に至る迄晝夜を別たす陰に陽に一行を護衛されたる警官の勞を多とす、此日一行はホテルを引拂ひ借宅に入る引越が濟んだか濟まない内に移轉は早くも外務省に報告されて居た、一行に對し特に注意を拂はれるからであらう、日本に渡來する外國人は多くは角袖巡査に依りて警戒されて居る様である、一行が神戸から東京に至る汽車中で、クンサマー、ハインの従僕は尋問された然るに吾等同行の暹羅人なるを知るに及んで警官は「知らなくて失禮しました」と謝し去つた、以て暹羅人は日本人から特別の待遇を受けて居る事が首肯されるだらう。

日本人の殆んど全部は暹羅人を能く見分けるのみならず、官憲と市民を問はず暹羅人に特別に敬意を表して呉れる、是二年前國際聯盟に於ける滿洲國承認の可否に關し、我暹羅が敢然として棄權したのを政府が全國に宣布したからで、以來日本人は暹羅國を知り、暹羅人に深く注意を拂ふに至つた、一行かホテルを引拂ひ借宅に入つたのはホテル生活の窮屈を厭ひたる爲で、暹羅人の殆んど全部は家庭に於て寛ぐことを愛する、予も亦其一人である、假令外國に在るとは云へ、横濱博覽會開催を待つ爲のホテル滞在は苦痛に堪へられない、且つ日本人の生活狀態研究の機會を捕へんとする希望もあつたのである、借宅は崖上に立つ和洋折中の木造屋で、間敷も多く極めて居心地宜く自宅に居る様に實に伸び伸びした氣持になつた、日本に旅行する人で長く滞在する必要があるときはホテルに投宿するより借宅するのが遙に得策である。

借宅に引越すと間もなく商人の御用聞が先を争て用命を聞に來た、以て彼等が如何に商賣に熱心で生存競争が如何に激甚であるかを窺ふに足るのである。

日本紀行(暹羅から日本迄) 續

三月十六日 遊就館一名軍事博物館を見る、二十餘の大室ありて、陳列品は時代に從つて分類せらる、古代より現代に至る各種の兵器軍用品を陳列する外、實物大の繪畫あり説明を附して參觀者の注意を促し、戦死者の肖像には履歷を添へ紀念とす、晴雨に拘らず入場者絶ゆることなく日曜日の特に多しと云ふ、江畑君の説明で大に得る所があつた。

東京には各種の博物館がある、上野帝室博物館、大倉美術博物館、大手町特許博物館等は其重なるもので、若し機會あらば悉く參觀して知見を弘くせんことを望むで居る。

日本の海外貿易躍進の原因は、日本國民の高き教養、其の熱烈なる國家的觀念並に勞銀の低廉に由る生産費の低廉とに歸せねばならぬ、日本人は其の愛國主義の爲めに、特別の必要あるにあらざれば決して外國品を用ひざるが故に、全國到る處國産品のみ時を得顔である、運賃は豫想外に安きのみならず、運輸は悉く自國の船舶に依り外國船舶に依頼するの必要は毫も無い、又通商に従事する多數の日本人が世界各國に在留して本國との取引が圓滑に行はれ、從て利益も

多い譯である、實に日本の貿易の發達は國民の先覺者が率先して國民を指導誘掖した結果である、我國に於ても有志者自ら率先して必要の商館及製造工場等を設立して其の途を開いたならば新暹羅が長足の進歩を遂ぐるであらうことは疑ふべくも無い、有力者が共同一致して商工業に投資し國民を指導するならば、金利に依りて徒食することに數等で其の利益も必ず數倍であろう、利益が然らざれば損失夫れは商賣の常道である、乍併吾人にして利益に着眼する以上は投資に大膽ならねばならぬ、損得に大膽なるこそ商業發展の秘訣である、若し我國民にして退嬰萎縮して商工業に投資するの勇氣ならんには政府は宜敷自ら之を試むべきである。

三月十七日 日本國民の教育は非常の進歩で、現在文部省教育費豫算が年額一億三千萬圓の巨額に達す、義務教育の外、中等教育全國に普及し、多數の大學を有す、政府は特殊の學術を授くる専門學校例へば農業學校、商業學校、師範學校、青年教練所、盲啞學校等を經營す、吾人の知れる限りに於ては日本の教育は全然宗教と無關係である。

三月十八日 横濱に赴きて工事中の暹羅物産陳列館を見る、工事未完成であつたが、博覽會中の一異彩たるを失はずと思はれた。

八十年前の横濱は一漁村に過ぎなかつたのであるが最近五十年間に急激に發展して日本主要港の一となり人口七〇〇〇〇〇にして我首都警谷に匹敵する大都會となつた、大震災に依りて殆んど壊滅し十二年の歳月を経て漸く復興するを得た、博覽會は復興祝賀の爲なりと云ふ。

三月十九日 夕刊大阪毎日及東京日々新聞は皇帝の退位に關聯して暹羅に政變あらんと報じた、多分盤谷滞在中の特派員より發したる誤傳であらう、外國新聞は平氣で誤傳を記載する、米國新聞に其弊が最も甚しい、我國の新聞は敏活を缺くの恨はあるが誤傳は比較的少い、日本新聞も、敏活を主として多少の誤傳位は更に意に介せざるものゝ如くであ

る、小新聞と雖も發行數萬を下らず、大新聞に至りて十萬を突破し國民の指導者を以て自ら任じて居るのである。

三月二十日 日比谷公園及上野公園内の動物園を見る、日比谷公園は帝國ホテルと相對し、園内には市營の劇場、圖書館、テニスコート等あり、園の一部は日本趣味、一部は歐米式の粹を集めたものである、上野公園は廣袤實に二二〇エーカーあり、帝室博物館あり又動物園ありて多種多様の動物を收容す、半日の時間を割くも見學の價値充分である、動物園は男女の兒童に最も喜ばれ毎日の入場者は夥しき數に達するけれども、出入共に整肅整も雜踏を見ざるは感服の外ない、帝室博物館は元の帝國博物館で震災後宮内省に屬し新に八百萬圓を投じて修理擴張したものなりと聞く。

三月二十一日 (原文脱落せるならん)

三月二十二日 暹羅公使を通して見學上の便宜供與斡旋方を日本外務省に懇請す、横濱博覽會開會迄の數日を利用して眞の國情及國民生活を知らんが爲である、吾人は日本人の實生活を其儘學ばんとする意思はない、日本人が外國の長を取つて己が短を補ひ今日の隆盛を致せるが如く吾等も日本人の長所を學ばんことを希望するのである。

三月二十三日 公使館を訪問して、新に渡日し來つた二學生ナイチャット及ナイチャランに邂逅す、研究科目は未定とのことであつた、今日暹羅人日本留學生は語學の素養なき爲め多大の損害を受けつつあるのは争はれない事實である、少くとも二年間は日本語研究に貴重時間を費さねばならぬ政府は日本留學生の爲め何等かの方法を講じ此不便を除く要がある、又日本留學生の多數は何等の目的を有せずと斷言したい、恐く彼等の父兄も其子弟が日本に於て何を研究しつつあるかを爲しつゝあるかを關知せざるものゝ如くである、暹羅の日本留學生には制裁がない、一定の學校に在籍して勉強する者は極めて稀で、彼等は浮萍の如く彼方此方の岸に漂ひ、或はカフェー、ダンスホールに近づき身を過る者多きは歎すべき次第である。

日本留學生は自費生多數を占むるとは言ひ乍ら、政府は自ら之を監督するか或は別に監督を置いて學生の風紀を取締ることゝしたならば其の成績を改善する利益あり、國家的損失を未前に防止することになるであらう。

三月廿四日 終日雨天引籠り、日本に於ては到る處一行が暹羅人であることを知れば直に山田長政を知るか否やを質問される、日本の學生は山田長政の傳記を知つて居るが我國の學生の多くは長政の事蹟を知らない、事實山田長政は三百年前我國に來り、勤功に依りてピヤイセーナ、ピムツクとなり果進して六昆の太守(チャウピヤイラコン)となつた人物である、思へば日暹の親善關係は久しき以前からの事である。

近頃日暹兩國の有志は協力して長政神社を建立し永く其偉業を傳へんとすと聞く完成を祈る。

三月二十五日 予東京に滞在すること既に十五日要所々は略ぼ視察した、然し大東京の全景は到底説明し得べくもない。

東京は日本の首都である。西曆一九一三年九月一日の大震災に依りて大部分は倒壊焼失したけれども、時を移さずして復興し今日に於ては舊に勝り耐火耐震堅牢無比の大市街を築き上げた、東京は元江戸と稱し徳川家康の創設する所で徳川時代の政俗の中心であつたが、明治の革新後帝都となり今日に至つた。

三月二十六日 東京市内の道路を視察す。

三月二十七日 横濱博覽會發會式の當日である、吾等も招待を受けて公使と同行の筈であつたが、手達の爲め別行し府の役員に迎へられて式場に臨む、岡田首相の主宰せる式場は立錐の地なく、公使及其他の同胞と遭遇する機會を得なかつた、式後暹羅商品陳列館を訪れた、參觀者滿員の盛況である、日本人外國人間に暹羅の出品は美術的のものもあるが値が高過ぎるとの評判を聞いた、式に列する爲めモニングコートを着用に及んだので窮屈に堪へず暫時休憩の後急

ぎ宿所に引上ぐることにした。

三月廿八日 公使館より本日東京市廳は一行を道路建設不淨物焼棄公衆水浴場及幼児養育場に案内する旨の通知を得た、市廳の役員到着せらるゝに及んで一行は先づ市廳を訪問し度き希望を陳べた、役員は快く先づ一行を市廳に案内された、市廳に於ては書記官代りて一行を迎へ且つ不意のことなれば歓迎準備なきを遺憾とす然れ共喜んで希望に應ずべきを告げらる。

東京市収入は税金其他約一千萬圓政府補助金の重なるは教育及失業者救濟費と云ふことである。

午後横濱に到り漏れなく博覽會を參觀し日本人が商品の廣告に大金を投じ中には數萬圓を投じ惜まざる勇氣に感服した、日本貿易の隆盛は之に負ふ所尠くないであらう。

此日日本衆議院は定期先ち二十五日限り閉鎖することとなりたる由、暹羅米輸入解禁問題は未解決の儘残る苦である、然しプロミットラカムの談に依れば、日本外務省は必ず解禁の發布を見る様盡力すべしと約束せりと聞く、若し真ならば暹羅人は日本人の徳を感謝せねばならない。

三月二十九日 (原文なし脱落せるならん)

三月三十日 早朝市廳に教育及労働課長を訪問し對話に依りて知り得たる所は次の如し。

兒童は滿六歳にて學に就き六年の課程を履み二ケ年の實業教育を受く、前後八年の教育課程は政府の監督下に市廳之を實施する職責を有す、市經營の初等教育學校は月謝を徴せざるを普通とするが、實際經營費不足する時は二十錢以下を徴收するを得ると云ふ、月謝を徴收する初等學校東京市中に二十ヶ所あり地方には皆無なりとのことである教育は外國の長を取り日本教育法と並用す、教育の目的は愛國心の涵養及體育を主眼とする由である。教師には非常に關心が

拂はれて居る、何となれば教師不良なれば如何に善良なる少年少女も其感化を受け不良となるを免がれずと信ぜらるゝが故である、之を以て市は政府監督の下に自ら師範學校を經營して居る、

青年文盲者教育法は別に講ぜられず、簡易の文章を印刷し安價に販賣して文盲者自ら進で愛讀する方法を取つて居る日本に新教育令を發布して以來六十年初め文字を讀み書し得る者百分の二十なりしが、二十年目には百分の六十に達し、現在に於ては九十九パーセントに達せり、然も文盲者は多く不具者なりと云へば、日本の教育は百パーセントの頂點に達せりと云も過言でない。

卒業生は政府自ら就職を斡旋する必要はない、何となれば諸種の産業盛大にして、從て大抵は就職口があるからである年に依りては多少の就職難は有つても其世話は學校に一任してあるさうである。

労働課長の談に依れば、約四年前共產黨員が労働者を煽動して不穩の擧を企てたが警察及軍隊の手に依りて事なきを得た、之が爲め工場に或る改革が行はれた、即ち従來は大工場のみが軍部の需要品製造の用命を受けて居たのであるが最近には小工場にも適宜其用命を割當てることとし從て是等小工場の労働者をも軍隊が之を監視することとなつたといふことである、労働組合は數個所に上る然しながら加入を強制せず自由意思に任せてある。

労働者は組合に加入すれば多少意思發表の機會を掴む事が出来る、殆ど全部の労働者は所定の労働を終れば軍事教練音楽練習其他思ひ思ひの趣味に走り閑時間を與へられぬ、小人閑居にして不善を爲すことを防止して居る。

現在に於ける組合員たる労働者數は五百七十六萬四千二百七十七名で組合未加入労働者は二百四十二萬二千四百八十三名である。

労働者は駐在巡察の監督下にあり若し爭議の起た場合は治安警察協調鎮撫の任に當り效を奏せざる時は警察市廳及政

府協力して騷擾を豫防し治安を維持す、

雇主にして労働者を解雇せんとするには相當の理由あるを必要とする、即ち労働者に過失あるか若は雇主が損害を破りたるかにあらざれば理由なく解雇することを許されない、労働者失業したるとき組合自ら就職を周旋するか市廳の授職課が斡旋の勞を取る、授職課は政府の補助を受くると云ふ。

四年前従業員減員の爲め電車罷業が行はれた時市廳は二十年勤務者に多分の退職手當を出したる其結果は實に次の通であつた。

- 一、或者は退職手當を資本として商賣を始め久しからずして閉店した。
- 二、住宅の建築に殆ど全部を投じた。
- 三、或者は全部を遊興に浪費した。

上述の如く退職手當の一時授與は害多くして益少く、部分的支出若は貯金として預り利子を支拂ふの勝れるに若かざることが發要せられたと。

政府は未だ直接労働者監督法を有せない、然しながら國民をして自ら労働時間八時間、日曜休業、時間外の特別労働は賃銀割増し、三ヶ月精勤せるものには別に二三日の休暇を與ふる等の不文律を守らせて居る。

労働爭議を醸すものは共產黨員で高位置と高給とを要求する連中で、彼等の多くは肺病患者なりと云ふ、之を以て工場に共產黨の潜入を防がんとするには求職者の身體検査を嚴重にし且つ毎月健康診断を行ふ必要ありと教へられた。

三月三十一日 雨天 夜に入り降雪

日本人の熾烈なる愛國心に就ては度々述べた通である、其の上日本人は勇敢なる性質の持主である、日本人は名譽の

爲め、國家の爲め何時にても生命を犠牲にする覚悟を有して居る、此勇氣は戰國時代の間斷なき戰闘に依りて培養されたものと思はれる、我國民もビルマやモンと絶えず戦つた時代は頗る勇敢であつた、其後平和打續きて今日に至れるも、勇敢の氣象は暹羅人の血管中には少なからず流れて居る筈であるから、訓練次第に依りては勇敢なる國民たるを失はないであらう。

日本の新聞は殆ど毎日のやう自殺事故を報道して居る、日本人は死を視て普通の世相に過ぎずとなし、且つ形骸朽つるとも靈魂は尙ほ存在すと観するもの如くである、恰も佛教の死後に現存するは善と惡のみと云ふ思想に類す、自殺の方法は様々であるが、名譽の自殺は腹切方法である、封建時代には檢使立合の前に行はれた、今は公然行はるゝこととはないが其精神は持續せられて居る、獨佛露の三國が干渉して遼東を還附せしめられたるを憤慨し國民をして外國より受けた此の屈辱を永遠に記憶せしむる爲め割腹して死に就きたる軍人前後四十名に及んだ如きは好適例である。

四月一日 公使館に於て新年祝賀の催あり、日本滞在中の官公吏留學生視察團等全部集合す、公使館創設以來始めての盛儀であつたと云ふ、饗宴の外同胞水入らずの餘興に公使を初め胸襟を開て打興した、予は此機會を利用して學生諸君は互に相規み相學し留學の初志を貫徹し國家有用の材となり國家興隆の爲めに奮闘努力せられんことを希望する旨の一場の演説を試みた。

四月二日 水産學校參觀の豫定なりしも事故ありて中止、今夜歌舞伎座の日本劇を見んと志したるも満員の爲め果さず、日本の觀劇は普通數日前に入場券を求め置かざれば到底目的は達せられないと云ふ、一行が投宿した帝國ホテル近所にも一劇場があつて早朝から入場券を求むる人々押寄せ一列を作て賣出を待ち一時間の永きに及ぶことすらある、一行は非常の興味を以て之を注意したが、後から到着したものは決して列の前方に入ることを取ぜない、必ず列後に就

く、彼等は他の優先權を侵害せない、彼等は自由を濫用せない、彼等は我國民が動もすれば自由を履違へるが如き不體裁は斷じて演出しない能くも訓練されたものである。

四月三日 再び横濱博覽會を見る。

予の觀察に依れば日本人は不思議な程途行く人に注目しない、如何に盛裝せる美人に出逢ても一瞥をも與へずして行過ぎる様である、各日本人の腦裏には職業と仕事あるのみで他を顧みる暇がないからの事と予は解釋して居る。

四月四日 早朝日光見物の途に上る、本日東京の氣候は温暖、郊外に出づれば田畠あり疎らなる林あり我北部地方に似た所がある。

日本内地では牛馬を耕作に使役し全く水牛を使はぬ、道路に添ひ電柱が何處までも續いて居る以て通信機關の發達と電燈の普及を知るに足る、日光に近くに從ひ地勢漸く高く連山を望み冷氣益々加はる日光は風光の美と日本美術の粹を蒐めたるを以て其名海外に聞へ外國の視察團觀光客は大概日光を見物するを通例として居る、日光東京間の距離は約九十一哩山岳谿谷の美瀑布の壯觀湖畔の眺望共に天下の絶景である。

山を降りて家康廟に到る、廟は三代將軍家光の營む所で日々一萬五千人の工人を使役し十二年を経て落成する迄二千萬兩を投じたと云へば其豪奢なるは言ふを待たない、家康廟の入口には鳥居あり左側に五重の塔屹立す、高さ百〇六尺當時に於ける日本藝術の極致を盡して建設したもので全國中最も有名である、

四月五日 日本觀光客にせよ歴史研究家にせよ吉原を見ずして直に日本を解せりと言ひ難いと傳へられて居るから吾等一行は日本の實生活の一面を窺はんが爲め此夜吉原を見物することとした、吉原は古き歴史を有する人肉市場で心ある者の墮落する所である、政府は之が廢止に必死の努力を拂ふて居るけれ共因襲の久しき急に全廢する能はざる事情あ

り、今は漸廢主義を採用して居ることである、精しい話はクンシー及ルコグスエツチ兩氏に譲ることとし予は吉原の概念を興ふるに止めて置く、吉原には約百軒の妓樓あり、一區劃を構成し東京の全公娼六千名の内吉原最も多數を占むると云ふ、娼婦に健康診断を受くべきこと等々の規則に依りて取締られて居るも其取締は嚴なる地方あり緩なる地方あり殆ど一定せずと云ふ。

公私何れも娼は娼である、公娼非乎、私娼是乎は讀者の判断に委するも公娼は確に花柳病の蔓延を防止する良法たるを失はない。

四月六日 早朝東京出發準備の爲め手荷物を整理し不必要品はバタービヤ丸に托送することとした、十時沖電燈電話器製造會社の迎を受けて同工場を參觀す職工千名以上を使用する大工場である、技師長の案内で電燈電話無電器の各製造場を見學するを得た、新意匠の電話器は成績優秀なりと聞かすので實験が出来なかつたのは遺憾であつた。

四月七日 東京市廳より教育に關する報告書の寄贈を受けた、江畑君に依頼して翻譯せしむ他日發表することとす。

四月八日 午前九時發の汽車にて東京を辭す、公使館員及見學の爲め一面識ある日本諸官署の役員、暹羅留學生多數の見送を辱ふす、途上壯嚴雄大なる富士山の容姿を見るを得たるは一行の幸運であつた、富士山は多くは霧に掩はれて見えないことである。

午後二時十八分名古屋驛に着す、加藤名譽領事の出迎あり、氏は五十年輩の老實業家風の紳士である、氏の關係する製菓會社は我國より輸出する碎米の百分の七十を消費すると聞いた。

氏の私宅にて暫時休憩後名古屋城を參觀す、此夜一行は純日本式旅館大野屋に投宿する機會を得た、居心持の宜しきこと洋風に勝る數等、特に夏向は日本旅館に投宿するに限ると思つた。

名古屋市は新舊廣狭の道路錯雜し未だ整理されてない、名譽領事の話に先年東京大震災の時當地は震災を免れたので古道路は其儘であると言はれた、如何にも天災地變に遭ふ毎に愈々改善されるは現代日本の姿である、日本人の愛國心及協同一致は連續して起る地震火山爆發等の災害に依りて馴致されたるにあらざるが、又絶えざる戰爭は之を助長したるものと思ふは非乎。

日本式旅館には部屋の戸締りなきこと普通の住宅と同じ、是れ日本國には盜難皆無若は極めて稀なるを證するに足り又盜難が有つても緻密なる警察網を脱ることが出来なからであらう。

四月九日 三菱飛行機製造所を見學す、工場の監督者は海軍豫備將校で、現暹羅駐在海軍武官と同期生なりと云ふ、製造工場は政府の許可なくしては絶對入場を禁止さる、様式は種々なり製作に着手したる以來未だ十年に過ぎざれども研究試験時代を合すれば既に三十年の歴史を有すと云ふ、續て電氣用器具製造場を見る目下擴張中にて各電氣家具を製造し驚くべき發展振を示して居る。

午後陶器製造工場を見、直に京都に行く爲め停車場に到る、名古屋滞在時間は極めて短く名譽領事と相識することも淺いのであるが、加藤領事は職務に忠實なる人物なることを感知した、領事は更に代議士一行も是非とも名古屋に立寄らるる様傳言せられ度旨を申出られた。

午後七時五十分京都驛着、大に寛かんが爲め身分を明にせずして姉小路館に投宿す、主人より今夜催さるるチャヤーリダン見物の勧誘を受け好機會として同行を約す。

四月十日 午前中市内見學、京都市民は靜肅往來も左迄雜沓せず閑靜の土地である。

午後京都市經營の織物工場を參觀す、營利の目的を有せず學校組織で市民に織物の知識を授け又練習せしむるに過ぎ

ない、織物工場を出て人形製作場を見る積の處、理科學機械販賣主任の案内で各種の理科學機械を見て精しく説明を聞いた、主任の談に依れば製品は決して歐米品に劣らず或ものは歐米品よりも優秀なりとのことである、人形塑像を見るを願つたのは我國の博物館を擴張する場合に其必要を認められたからである。

京都の産業見學を完ふし得たるは偏に商業會議所の厚意に依たのである、會長は病氣中に拘らず書記をして滞在見學の便利を與へられたるを深く感謝す。

午後四時三十五分發汽車にて大阪に向ふ、京都大阪間は自動車の方が便利であるが手荷物の都合上汽車を選んだ。

大阪は日本の商工業の中心地であり、人口二百五十萬を有し堀江溝渠四通發達す、往古仁徳帝都を此處に定め給ひ、中世豊臣秀吉城を築て居り段賑を極め、徳川時代となりても繁榮を失はず今日に至つた、偶然の成行で大阪ホテルに投宿した、大阪人は晝夜を別たす奮闘する現金主義であると豫て聞いて居たから成る丈け無關係の人々を煩はさぬ様心懸けて居たけれども、ホテルの主人が吾等一行を暹羅人なりと知るや特別の注意を拂たのは争はれない事實である。

四月十一日 早朝安住名譽領事來訪す會談の要旨は

一、大阪は大都會であり商業中心地であり各國大阪に總領事館を置く暹羅も亦大阪に總領事を置く意ありや否や、
二、新皇帝即位式には領事を招集し拜謁仰せ出たさるるや否や、又勳章授與等の盛儀ありや否や、三、暹羅米輸入解禁には大に奮闘努力したけれども未だ成功せない、然し棉花問題は事なく成功するであらう何となれば日本は年々巨額の棉花を海外より輸入するからである、四、大阪商業會議所の暹羅留學生補助計畫は殆ど達成に近い留學生は卒業の後自ら商業を經營せしめんが爲め資産家の子弟を選抜する希望を有し學校教師若し商館の書記養成は其目的でない。
午後大阪産業展覽會を見る、數日前より開催されたるも未だ完備せず、未だ飾付を取急ぎつつあるものもあつた、會

場は五部に分たる名は産業展覽會と稱すれども實は製造工場に關係するもの多きを占む、斯る計畫は商業及經濟の發展を増進し參觀者を裨益すること尠からず、我國に於ても地方々々に毎年催すこととせば利益は多方面に亘るであらふ、少くとも國民の實業教育に多大の効果あるは疑なき所である。

午後名譽領事の勸誘に従ひ郊外の演劇場に赴く觀客群集す大阪人は能く働き能く遊ぶ風がある。

四月十二日 大阪商業會議所書記自動車を以て一行を迎へ鐘詰大工場に案内せらる、機械は多く米國製を使用し、製品の一部は却て米國に逆輸出せらると云ふ、次に造幣廠を參觀し、それより農具販賣店に立寄り織物機械に興味を惹く但し試験し得ざりしを遺憾とす、農具店を出て大阪最大石東洋第一のガラス器製造工場に至る、各種の器具を製造し優良なる彫刻品や模様ものも多數あり、日本ガラスに對する從來の吾人の認識は全く不足であつたことが分つた、日本は何故劣等品を輸出して日本ガラスの聲價を落すを意とせられざるやの間に對し、支配人は假令貿易商の需要に應じて製造し且つ大量生産を目標としたる爲とは言へ劣等品の名を海外市場に博したる一部の罪は製造業者自ら負はねばならぬから爾後劣等品の註文には應せざる覺悟であると答へられた。

日本人は何處迄も機械を應用し機械を使用する、而して其機械は又人を働かしめて寸時も休むことを得ざらしかつて居る、例せばガラス製造工場若し鐘詰製造工場に於て機械が運轉すれば人々は厭でも機械と一緒に働かねばならない、分秒と雖も手を緩め若し職責を盡さざる如きことあらば萬事は窮するので會社は立行かなくなる從て職工は失業せねばならぬ、失業は日本人の苦痛であるから日本人は非常に責任を重じ表裏なく働くのである、習は遂に性となり勤勉の美風を馴致するに至り、大工場にありては男女千名以上の職工を收容するけれ共仕事の輕重を選び又は仕事を廻避する風は毫も認むることはない、斯くも機械と人を利用して産業の發展を促進する日本人の技量其吾人の大に學む可き點であら

四月十三日 午前九時三十分商業會議所書記自動車を以て迎へ郊外商科大學に案内せらる、在學生百四十名に對し教師は百名なりと云ふ、卒業生の多は商館及銀行に重用せらる、午後奈良に遊ぶ、奈良は日本の舊都で一名鹿公園の稱あり、春日神社興福寺大佛等清遊半日尙は時間の短きを覺えた。

四月十四日 神戸行の豫定、安住名譽領事早朝商業會議所同僚の一人を同伴し來り暹羅學生を大阪に送り商業教育を授くる運動を補助者する一人なる旨を紹介せられ且つ神戸驛迄一行と同行せしめらる神戸驛には神戸名譽領事の出迎を受け山麓の閑靜なるホテルに案内し且つ自動車を提供せらる。

日本で最も耳馴れた語は「有リガトウ」である、日本人には上下老少の區別なく感謝の意を表するには有難と云ふ初対面と雖も如何にも打解けた感じを與ふるものである。

四月十五日 神戸出發の用意を整ふ、日中名譽領事は一行を自宅に迎へ「すき焼」の午餐を饗應せらる、同夫人自ら調味し一行に敬意を表せらる、「すき焼」は日本調理中最も暹羅人の嗜好に適す、特に神戸牛肉は日本一の名にぞむかず非常に結構に頂戴した。

午後三時三菱造船所を見學す、時間に限りあり充分に參觀する能はざりしを遺憾とす。

歸途名譽領事自ら經營するゴム品製造所を見る、多量のゴムを海外より輸入することである、若し我暹羅産ゴムを名譽領事と直接取引を開始したならば便利であらうと思ふた。

敬意を表する爲め松浦書記を神戸商業會議所に訪問す、松浦氏は暹羅の事には非常に熱心で暹羅に對し特別の厚意を有つて居る人である、若し一行が不幸にして名譽領事に邂逅の機會を得なかつたならば、當然松浦氏を煩はして神戸を

視察すべきであつた、松浦氏は我國が横濱博覽會に出品したるに好感を有し、暹羅が日本に友情を示せるは國際聯盟に於てのみなく、暹羅は常に日本に友情を示して居る、横濱博覽會の出品は其例である暹羅は眞に我與國なりとの一文を起草しつゝありと聞いた。

四月十六日 本日は愈々上海丸にて日本を辭し去るのである郵船は一行のデプロマデックパスポートに對し十五パーセントの割引をした、若し家族を同伴すれば家族に對しても十パーセント割引することである、其他夏季割引往復割引世界一週割引等の乗客誘致方法を講じて居る、高等船員の乗客接待は丁寧親切で稱揚に値す、船員は全部日本人である、外國航路の日本船には外人船長を以てするにあらざれば乗客荷物を吸收することが出来なかつたといふことは最早遠き過去の物語に過ぎぬ、船中の取扱振は非常に温であつた、事務長の話に日本政府は吾等一行を特別に待遇し港の出入には暹羅國旗を掲揚する様命ぜられたとのことであつた。

一行の日本滞在は僅少の日子に過ぎなかつた、然しながら日本に關する認識を高めたことは一通でない、日本人は勇氣と忍耐とに依りて新國家を建設し、三十八年間に巖然たる東洋の一大強國となつた、實に三十八年間の日本人は戰爭に教育に國力の發展に必死の努力を續け、今日に於ては諸列強に一步も譲らざる富國強兵の實を擧げ得たのである、日本が泰西文化の輸入に依りて進歩し始めたのは佛曆二四一〇年以來、(註、本年は佛曆二四七八年なり)のことであるが日本は泰西文明を輸入しても決して夫れを鵝呑にすることはなかつた、日本人は能く泰西文明を咀嚼同化した、彼等は泰西文明の長所を探ると同時に日本古來の長所を棄てなかつた、日本人は泰西文明に依りて獲る所多かつたけれども泰西文明に耽醉せず、泰西を學べば學ぶに従つて日本人たる自信の度は益々加はり日本國民たる事を忘却しなかつた。

四月十七日 午前九時長崎入港、長崎は三十年前は日本主要貿易港の一であつたが其位置九州の最端に偏在する爲神

戸横濱に繁榮を奪はれ今は舊日の殷賑を見ず。

西曆一九三〇年の調査に依れば日本の總人口は九千三百餘萬にして今日に至りて一億に達するならんと豫想せらる。

在留外國人數は西曆一九三〇年には四萬〇六百五十一名あり一九三二年には二萬七千二百五十六名に過ぎず。

西曆一九三三—三四の歳入は二、三三一、〇〇〇、〇〇〇圓歳出は二、二五四、〇〇〇、〇〇〇圓なり。

日本全國には各種の銀行六百以上あり、内譯農工銀行十九、貯蓄銀行八十四、普通銀行五百十三、以て日本の商業及經濟が吾人の想像以上に發展せるを知るに足るであらう。

四月十八日 午後四時三十分上海着。

非賣品

昭和十年十一月十三日 印刷納本
昭和十年十一月十五日 發行

發行所 財團法人 暹羅協會
東京市麴町區三年町一番地

電話銀座二六五六番
振替口座東京一四八三一番

發行兼編輯人 山口 武
東京市目黒區上目黒
二千六百二十四番地

印刷人 永島 喜代次郎
東京市淀橋區戸塚町
一丁目二百二十番地

印刷所 明立印刷株式會社

